

自治医科大学看護学部年報(第22号)

Annual Report Jichi Medical University School of Nursing

自治医科大学大学院看護学研究科年報(第18号)

Annual Report Jichi Medical University Graduate School of Nursing



2023

目 次

○ 看護学部委員会等報告

1. 人事委員会	春山 早苗 ……	5
2. 教務委員会	小原 泉 ……	6
3. 学生委員会	大塚公一郎 ……	8
4. FD評価実施委員会	長谷川直人 ……	10
5. 研究推進委員会	成田 伸 ……	11
6. 広報委員会	村上 礼子 ……	13
7. 編集委員会	内堀 真弓 ……	15
8. 国家試験対策委員会	浜端 賢次 ……	16
9. 臨地実習指導研修委員会	塚本 友栄 ……	17
10. 入試実施委員会	川野亜津子 ……	18

○ 大学院看護学研究科委員会等報告

1. 研究科委員会	春山 早苗 ……	21
2. 研究科委員会幹事会	永井 優子 ……	23

○ 教育研究分野別報告

1. 看護基礎科学	大塚公一郎 ……	27
2. 基礎看護学	小原 泉 ……	30
3. 地域看護学	春山 早苗 ……	33
4. 精神看護学	永井 優子 ……	38
5. 母性看護学	成田 伸 ……	41
6. 小児看護学	春山 早苗 ……	46
7. 成人看護学	村上 礼子 ……	48
8. 老年看護学	浜端 賢次 ……	52
9. 総合科目担当	春山 早苗 ……	54

○ 大学院看護学研究科 教育の概要

博士前期課程

実践看護学分野

1. 小児看護学領域	田村 敦子 ……	59
2. 母性看護学領域	成田 伸 ……	60
3. クリティカルケア看護学領域	佐藤 幹代 ……	61
4. 精神看護学領域	永井 優子 ……	62

5. がん看護学領域	小原 泉	63
地域看護管理学分野		
6. 老年看護管理学領域	浜端 賢次	64
7. 地域看護管理学領域	春山 早苗	65
8. 診療看護技術管理学領域	村上 礼子	66
共通科目	永井 優子	68
博士後期課程		
1. 広域実践看護学分野	春山 早苗	70

○ 研究業績録

1. 看護基礎科学	75
2. 基礎看護学	76
3. 地域看護学	78
4. 精神看護学	82
5. 母性看護学	83
6. 小児看護学	85
7. 成人看護学	86
8. 老年看護学	88
9. 診療看護技術管理学	89
10. 総合科目	91

○ 資料

1. 2023年度（令和5年度）看護学部学年暦	95
2. 自治医科大学看護学部の概況	96
3. 看護学部教職員名簿	97
4. 2023年度（令和5年度）大学院看護学研究科学年暦	98
5. 大学院看護学研究科の概況	98
6. 大学院看護学研究科教職員名簿	99
7. 編集後記	100

看護学部委員会等報告

看護学部委員会等報告

人事委員会

委員長 春山 早苗

1. 所管事項

- (1)自治医科大学看護学部教員の選考に関する事項
- (2)非常勤講師の選考に関する事項
- (3)その他学部長が必要と認めた事項

2. 委員会の構成

- (1)「自治医科大学看護学部教員の選考方法等に関する内規」に規定する者（4名以上7名以内）

表1 構成員と役割

氏 名	役 割
春山 早苗	委員長（学部長）
小原 泉	委員（教務委員長）
大塚 公一郎	委員（学生委員長）
永井 優子	委員（看護学研究科委員会幹事長）
川野 亜津子	委員（入試実施委員長※）
村上 礼子	委員（広報委員長※）
被選考教員の領域の教授	委員

※学部長が必要と認めた者 2名以内

3. 活動内容

- (1)「自治医科大学看護学部教員の選考方法等に関する内規」第2条の規定により、表2のとおり人事委員会を開催した。

表2 2023年度の審議事項・その他

回	開催日	審議事項・その他
1	4月25日	・看護学部臨地教授等の称号付与に係る資格審査（追加）
2	7月25日	・2023年度非常勤講師（倫理学）任用
3	9月26日	・2023年度非常勤講師（臨床検査学）任用
4	10月24日	・欠員（基礎看護学、精神看護学、成人看護学、小児看護学）に係る選考作業部会設置
5	11月21日	・教員の配置換え（老年看護学、看護師特定行為研修センター、総合科目、成人看護学） ・学内教員の昇任申請に係る選考作業部会設置 ・欠員（成人看護学、母性看護学）に係る選考作業部会設置
6	12月19日	・学内教員の昇任候補者（看護基礎科学教授、母性看護学教授、看護基礎科学准教授、基礎看護学准教授、成人看護学准教授、小児看護学講師、母性看護学講師）の選考 ・基礎看護学教員（助教1名）候補者選考

		・精神看護学教員（助教1名）候補者選考 ・成人看護学教員（助教1名）候補者選考 ・小児看護学教員（助教1名）候補者選考
7	1月23日	・成人看護学（特定行為）教員（助教1名）候補者選考 ・2024年度非常勤講師（災害学、身体活動論、保健体育）任用 ・欠員（基礎看護学）に伴う教員候補者選考作業部会の設置 ・母性看護学（助教1名）教員公募期間延長
8	2月20日	・2024年度臨地教授等の称号付与 ・2024年度非常勤講師（災害学）任用 ・母性看護学（助教1名）教員公募期間再延長
9	2月21日	・基礎看護学教員（講師1名）候補者選考 ・2023年度非常勤講師（生涯発達看護学概論Ⅳ、老年実践看護学Ⅰ、老年実践看護学Ⅱ、老年実践看護学Ⅲ（新カリ）、老年実践看護学Ⅲ（旧カリ）の任用 ・2023年度臨地教授等の称号付与

教務委員会

委員長 小原 泉

1. 所管事項

- 1) 授業及び試験に関する事項
- 2) 単位及び課程の修了に関する事項
- 3) 学生の入学，退学，休学および卒業等に関する事項
- 4) 学生の修学指導に関する事項
- 5) 授業関係の予算に関する事項
- 6) その他学部長が必要と認めた事項

2. 委員会の構成

本委員会は10名の委員と2名のオブザーバー，で構成され，その構成員と役割を表1に，下部組織の構成員を表2に示した。

表1 構成員と役割

氏 名	役 割
小原 泉 教授	委員長，授業関係予算担当（主），既修得単位認定・ポートフォリオ担当
村上 礼子 教授	副委員長，実習調整担当（主）
川野亜津子 教授	委員，助産師国家試験受験資格関連科目受講生選考担当，カリキュラム運用担当
大塚公一郎 教授	委員，既修得単位認定・ポートフォリオ担当
塚本 友栄 教授	委員，時間割担当（主）
成田 伸 教授	委員，実習教育調整担当，助産師国家試験受験資格関連科目受講生選考担当（主）
永井 優子 教授	委員
長谷川直人 教授	委員，既修得単位認定・ポートフォリオ担当
浜端 賢次 教授	委員，実習教育調整担当
半澤 節子 教授	委員，夏季へき地研修担当（主），カリキュラム運用担当
内堀 真弓 教授	オブザーバー，共通物品管理担当（主），カリキュラム運用担当
田村 敦子 准教授	オブザーバー，夏季へき地研修担当，カリキュラム運用担当

表2 下部組織

担当者氏名	役 割
平尾 温司 准教授	時間割担当
青木さざり 講師	夏季へき地研修担当
市川 定子 講師	
古島 幸江 講師	
路川達阿起 講師	
飯島 早絵 助教	共通物品管理担当
小川 晴香 助教	

高崎 浩子 助教	
岸 範子 助教	
高瀬 梨恵 助教	
馬場 麗奈 助教	
前田 彩乃 助教	
川上 勝 准教授	カリキュラム運用担当
倉科 智行 准教授	
佐藤 幹代 准教授	
島田 裕子 准教授	
八木 街子 准教授	メディカルシミュレーション担当
今野 早苗 講師	
古島 幸江 講師	
馬場 麗奈 助教	
関山 友子 講師	オンライン学習環境担当
井上 育子 講師	
小西 克恵 講師	
路川達阿起 講師	
渡邊 賢治 講師	
沼野 莉奈 助教	
谷田部典子 助教	
山岸 美穂 助教	

3. 活動内容

本年度は，11回の委員会を開催した。表3に審議事項を示した。

授業に関しては，新型コロナウイルス感染症が令和5年5月に「5類感染症」に移行したことを受け，学内での講義や演習では感染者の動向を注視しながら，学内の講義や演習は徐々に感染対策を緩め，教室を分けずに1教室での講義を再開する等の環境整備を行った。臨地実習については実習施設の感染対策を遵守し，安全かつ学習の質を確保した実習のための必要な検討を行った。

新カリキュラム2年目となり，内部質保証のための評価指標をふまえたデータ収集（「学習と学習生活アンケート」等）と評価活動を進めた。ポートフォリオの活用促進を目的に，ポートフォリオ面接を新たに開始し，学生の学習進度を確認して，教育活動の評価を行った。多くの教員がセミナー方式で担当する総合科目については，企画検討および評価を行い，課題の共有・改善策の周知を図った。

単位及び課程の修了に関しては，学則および履修規程に基づいて対応し，単位取得および卒業認定を審議した。学生の休学および卒業等に関しては，学則および既修得単位認定規定に基づいて審議した。

授業関係予算に関しては，機器備品，消耗品，教室整備に加えて，新たにオンライン教材予算も

確保していくこととし、出された希望の必要性・優先度を検討し、次年度の予算要望に反映した。

表3 審議事項

回	開催日	審議事項
1	2023年 4月13日	1. 教務委員会年間計画案 2. 助産師国家試験受験資格関連科目の受講学生 の選考審査日程 3. 「へき地の生活と看護」R4年度の評価 およびR5年度の計画 4. 下部組織年間計画案
2	5月11日	1. 前学期履修状況 2. 下部組織年間計画案 3. ポートフォリオ・カンファレンスの評価 4. 助産師国家試験受験資格関連科目受講生 選考審査出題の基準 5. 「へき地の生活と看護」の国外演習学生 選考等
3	6月8日	1. 令和6年度および令和7年度以降の教育機 器備品購入計画案 2. 令和6年度授業関係消耗品予算案 3. 令和6年度教室整備予算案 4. 令和6年度オンライン教材予算案 5. 共通物品iPadの利用についての周知事項 6. 下部組織年間計画 7. 「へき地の生活と看護」評価ループリッ ク修正案、国外演習における緊急時連絡 8. 研究セミナー運営案 9. 令和4年度1年生 単位取得状況意見交換 10. 令和6年度年間実習配置案 11. 令和7年度年間実習配置案 12. 令和5年度学習と学習生活アンケート （仮称）
4	7月13日	1. 研究生の受け入れ 2. 学生の復学 3. 令和6年度教室整備予算案 4. 「へき地の生活と看護」国内・国外演習 における緊急時の連絡先 5. 2年生のポートフォリオ面接企画案
5	9月14日	1. 令和6年度学年暦案 2. 履修調べ（1年次生へのweb履修オリに 対する学生評価を含む） 3. 令和6年度時間割モデル 4. 学習と学生生活のアンケート集計結果 5. 教育支援者委嘱 6. 令和6年度科目等履修生開講科目授業・ 募集定員案 7. 学校推薦型選抜入学決定者の入学前課題
6	10月12日	1. 令和6年度時間割モデル案 2. 令和6年度シラバス記載要領検討 3. 令和5年度前学期単位取得状況 4. 看護基礎セミナーの令和6年度計画案 5. 文献講読セミナーの令和6年度計画案 6. 新カリキュラム説明会企画案

7	11月10日	1. 学生の休学 2. 令和6年度多職種連携論の日程 3. 看護基礎セミナーの令和6年度計画案 4. 令和6年度実習教育説明会の企画案 5. カリキュラムと履修に関するニーズ調査 結果 6. Web履修オリエンテーションに関する アンケート結果 7. 令和6年度オリエンテーション 8. オンライン授業の取扱い
8	12月8日	1. 令和5年度実習教育説明会の企画案 2. 令和5年度オリエンテーション 3. 科目等履修生開講科目の見直し 4. 新カリキュラム研修会企画案 5. ポートフォリオ検討会
9	2024年 1月11日	1. 「看護総合セミナー」の評価と令和6年 度計画案 2. 「看護トピックス」の評価と令和6年度 計画案 3. 「研究セミナー」の評価と令和6年度計画 4. 「へき地の生活と看護」の評価と令和6 年度計画 5. 助産師国家試験受験資格関連科目受講生 選考マニュアル 6. 令和6年度ポートフォリオ・カンファレ ンス企画案 7. カリキュラムと履修に関するニーズ調査結 果に基づくカリキュラムの評価（2年生） 8. 令和6年度3年次前学期実習オリエンテー ション案 9. 令和6年度附属病院における控室一覧案 10. 看護学部既修得単位認定規程の一部改正
10	2月8日	1. 4年次後学期単位取得と卒業認定 2. 「へき地の生活と看護」の評価と令和6 年度計画 3. 「看護総合セミナー」の評価と令和6年 度計画案 4. 共通物品iPadの使用法
11	3月14日	1. 研究生の受け入れ 2. 学生の退学 3. 1～3年生 単位取得状況 4. 助産師国家試験受験資格関連科目受講生 の決定 5. 「へき地の生活と看護」の令和6年度計 画案 6. 「多職種連携論」の履修促進 7. 令和6年度オンライン教材及びWi-Fiの契 約 8. 令和6年度4月オリエンテーション等計画 9. 令和6年度BLS実施方法、BLS研修WG活 動計画 10. 「看護基礎セミナー」令和6年度計画案 11. R6年度新入生・教職員懇親会（案）

学生委員会

委員長 大塚 公一郎

1. 所管事項

- (1)学生の厚生補導及び賞罰に関する事項
- (2)学生の健康管理及び学生相談に関する事項
- (3)学生のキャリア支援に関する事項
- (4)学長賞等の選考に関する事項
- (5)看護学部学生寮の管理運営に関する事項
- (6)奨学生の採用及び貸与に関する事項
- (7)その他学部長が必要と認めた事項

2. 委員会の構成

学生委員会の機能を果たすために、寮運営担当、奨学生選考担当、キャリア支援担当、学友会幹事がおかれている。役割担当（委員会外教員も含む）は、表1の通りである。

表1 構成員と役割

氏 名	役 割
大塚公一郎 教授	委員長 学友会担当
半澤節子 教授	副委員長 奨学生選考担当
内堀真弓 教授	女子学生寮運営担当
島田裕子 准教授	キャリア支援担当
角川志穂 准教授	女子学生寮運営担当
市川定子 講師	キャリア支援担当
佐々木彩加 講師	奨学生選考担当
鹿野浩子 講師	奨学生選考担当 女子学生寮運営担当

表2 下部組織

氏 名	役 割
高崎浩子 助教	キャリア支援担当
館沼麗奈 助教	キャリア支援担当
高瀬梨恵 助教	キャリア支援担当
前田彩乃 助教	キャリア支援担当

3. 活動内容

学生委員会は、「学生が健全な学業生活を送ることができるよう支援すること」を第一の目的とする委員会である。

上記目標に即して、令和5年度は、学生委員会は、学業（課外活動も含む）の奨励・支援、学生の学業生活上生じた様々な障害や問題の解決への支援、学生の健康問題解決への支援、学生への経済的支援、学生への進路指導であるキャリア支援を行った。

今年度は、令和3年度7月より配置した3名の委

員を女子学生寮運営担当として、寮管理人や看護学務課などとも連携して女子学生寮で生じる問題の予防・改善やCOVID-19感染対策の維持に努めた。

学部の学生は学生自治会を、また寮在住学生は寮自治会をそれぞれ組織し、自主的に運営している。この二つの自治会の運営の支援も本委員会が担当した。これらの活動は、本学部の看護学務課、看護総務課との緊密な相談・連携のもと行われた。

学生の学業生活上生じた様々な障害や問題の解決への支援は、各学生委員の学生との直接相談、学年担当アドバイザーとの緊密な連絡相談、カウンセリングルーム活用の奨励などを通して行った。学生の健康問題解決への支援は、学生健康管理チームが中心となっており、また大学保健室による検診への受診の奨励、個々の学生の健康相談などを行った。

学生への経済的支援は、主に奨学金の選考・推薦を通して行われた。自治医科大学看護学部奨学金、日本学生支援機構奨学金などの選考・推薦を行った。さらに、多額の貸与を受けていたり、学業成績の不十分な学生には、助言を行った。

学生の将来の進路決定の支援は、キャリア支援担当が中心となっており、附属病院による就職説明会とは別に、各学年ごとのキャリアガイダンスに加えて令和6年2月20日には3年生対象に、看護部、看護学部同窓会の協力を得て進路支援ガイダンスの目的として、卒業生をプレゼンターとして「将来のキャリアを考える会」を実施した。

学生自治会、寮自治会の運営の支援は、学生委員会委員と両自治会役員との懇談を通して行われた。寮生活そのものの支援として、入寮案内、寮生活オリエンテーション、防災訓練、寮規則違反者などへの指導などが行われた。

部活動、クラブ活動、サークル活動などの課外活動を、学友会（本学部では、学生委員会が所掌）を通して奨励した。

学業（課外活動も含む）の奨励・支援の一環として、看護学部校舎における防災訓練を行った。4学年卒業予定者のなかより、学長賞候補者を選考し3名推薦した。

学生委員会は、8月を除いて毎月定例開催され、合計11回開催された。

本委員会の管轄であるキャリア支援担当、奨学金担当、女子学生寮運営担当の委員が主として業

務にあたる活動においては、概ね、年間計画を不足なくはたすことができた。各担当において前年度に導入した新たな試みも確実な定着をみた。

表3 令和4年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	2023年4月6日	(1)年間予定 (2)役割分担
2	2023年5月11日	(1)女子学生寮防災訓練 (2)奨学金採用状況 (3)学生役割分担 (4)キャリア支援関係
3	2023年6月1日	(1)学生支援機構奨学金申請 (2)キャリア支援関係 (3)女子学生寮防災訓練 (4)学生自治会役員関係
4	2023年7月6日	(1)各種奨学金申請 (2)女子学生寮防災訓練 (3)キャリア支援関係
5	2023年9月7日	(1)学生の懲戒 (2)キャリア支援関係 (3)校舎防災訓練計画 (4)奨学金関係
6	2023年10月5日	(1)キャリア支援関係 (2)奨学金申請 (3)校舎防災訓練計画 (4)高額奨学生の面接
7	2023年11月2日	(1)奨学金返還計画面接 (2)キャリア支援関係
8	2023年12月7日	(1)学長賞選考委員検討 (2)キャリア支援関係 (3)学部校舎防災訓練 (4)女子学生寮関係
9	2024年1月5日	(1)卒業式送辞担当学生選定 (2)「将来のキャリアを考える会」計画 (3)次年度キャリアガイダンス日程計画 (4)学部および学生支援機構奨学金説明会
10	2024年2月1日	(1)学長賞選考 (2)卒業式総代など担当学生について (3)日本私立看護系大学協会会長賞推薦について (4)将来のキャリアを考える会計画
11	2024年3月7日	(1)看護学部駐車場許可 (2)令和6年度キャリア支援プログラム実施案 および将来のキャリアを考える会 (3)女子学生寮防災訓練の日程

FD評価実施委員会

委員長 長谷川 直人

1. 所管事項

学部の教育内容などの改善のための組織的な研修及び研究に関すること

2. 委員会の構成

本委員会の構成員と役割を表1に示す。

表1 構成員と役割

氏 名	役 割
長谷川 直人 教授	委員長
小原 泉 教授	副委員長
川上 勝 准教授	FD研究会 授業評価システム
関山 友子 講師	授業評価システム
市川 定子 講師	FD活動の充実
井上 育子 講師	FD活動の充実 FD研究会
池澤 広訓 主事	事務局

3. 活動内容

本年度は、表2のとおり計7回の委員会を開催しながら活動した。

1) FD研究会

本学の第4期中期目標・中期計画を踏まえ、ICT等の利活用やアクティブ・ラーニングを推進する教育方法に関わる最新の知見を把握し、新たな授業方法の開発に資することを目的として3月11日にFD研究会を開催した。企画概要と研究会の成果等を報告書としてまとめ、看護学部ホームページに掲載した。

2) FD活動の充実

看護学部教員のFD活動充実のための自主的なグループ活動の促進を目的として、本年度はモデル的に活動ニーズが確認されていた講師を対象として自主グループの活動の立ち上げから活動の実際を支援した。11月に講師全員を対象としたグループディスカッションを企画し、事前に実施したFD活動の実態のアンケート結果を共有したのち、学生への教授方略や自己研鑽のための領域を超えた活動等についての検討の場を設けた。

3) 授業評価システム

現行の授業評価システムの課題を明確化し、次年度から運用が開始できるよう授業評価マニュアルを改訂、周知した。具体的には、「学生による授業科目の評価票」の内容と方法の統一化と集計

結果の公開方法の変更、「科目責任者による授業科目の総合評価報告書」の改訂と看護学部ホームページ上での公開準備、「授業に関する学生の声」のMoodle上での投稿と学生が希望する場合にフィードバックが得られるシステムを整備した。

表2 2023年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	2023年 4月13日	1. 所轄事項と運営方針 2. 本年度の活動予定と主担当 3. 委員会開催スケジュール
2	5月22日	1. FD研究会の企画方針 2. FD活動の充実の企画方針 3. 授業評価システム運営方法
3	7月10日	1. FD研究会の企画検討 2. FD活動の充実の企画決定 3. 授業評価システム課題検討
4	9月12日	1. FD研究会の企画決定 2. 授業評価システムの課題と対応方針の検討
5	11月7日	1. FD研究会の運営手順検討 2. FD活動の充実の企画評価 3. 次年度の授業評価システムの検討 4. FD研究会への指導補助者の参加方針
6	2024年 1月16日	1. FD研究会運営手順の決定 2. 次年度の授業評価システムの決定
7	3月14日	1. FD研究会の運営評価 2. 授業評価システム体制整備 3. FD活動の充実の運営評価 4. 看護学部ホームページへのFD活動の掲載内容

研究推進委員会

委員長 成田 伸

1. 所管事項

本委員会の所管事項は、①看護職等との共同研究費に関する事項、②研究活動評価に関する事項、③研究活動の充実・活性化に関する事項、である。

2. 委員会の構成

本委員会の構成員と役割を表1に示した。

表1 構成員と役割

氏 名	役 割
成田 伸 教授	委員長、看護学部共同研究費、看護研究支援の調整、間接経費応募とりまとめ、研究補助者（間接経費雇用）の業務管理
浜端 賢次 教授	副委員長、看護学部共同研究費、研究補助者（間接経費雇用）の業務管理
長谷川 直人 教授	看護学部共同研究費、看護研究支援の調整、研究活動促進支援、間接経費応募とりまとめ
平尾 温司 准教授	研究活動促進支援
佐々木 彩加 講師	看護学部共同研究費、研究活動促進支援
路川 達阿起 講師	看護学部共同研究費、看護研究支援の調整、研究活動促進支援

3. 活動内容

令和5年度の活動は以下のとおり。

- 研究活動促進支援に向けての活動：令和5年度開催に向けて令和4年度から計画を進め、主に若手を対象とする「科研費（基盤研究(C))獲得に向けたワークショップ」を開催した。一方で令和5年度の科研申請の締切自体が早期化し、ワークショップ参加後の申請書作成では間に合わなかった。次年度からは早期から申請書作成支援を検討する必要がある。
- 教員による外部の助成金等への応募数、採択数、採択総額と推移：令和5年度の応募数10件で前年度比1件増、採択数4件で同2件減、採択額は8,320,000円で減だが1件あたりの採択総額はやや増加した。
- 共同研究費（臨地との共同）の申請件数と推移：令和4年度12件だった件数が令和5年度は再募集含め15件と増加した。
- 教員が支援する臨地看護職の研究数と推移：

附属病院継続8件、新規3件、計11件で、昨年度から1件減少した。さいたま医療センターは新規3件、継続は0件で昨年度と同様の依頼があった。

- 教員の学会発表数および論文数について、過去5年分の数を検討し、ほぼ同様の状況で発表が行われていることを確認した。今後も経過を見ていくこととする。
- 研究補助者の活用：教員向けに複数回周知し、24件の依頼があった。またパソコンの更新など研究補助者の作業環境整備を行った。
- 間接経費応募：研究補助者雇用に向けて、令和5年度の間接経費に応募し、資金を確保した。追加の間接経費公募に応じ申請した結果、劣化すでに破棄していた看護学部教員共用ノートパソコン2台を確保した。

表2 2023年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	令和5年 4月19日	1. 委員会開催日程・役割分担 2. 令和5年度科学研究費助成事業の交付状況 3. 令和4年度看護学部教員共同研究費報告書 4. 令和5年度看護学部教員共同研究費応募課題（追加募集） 5. 看護研究支援の調整 6. 令和4年度競争的資金（間接経費）で雇用した研究補助者の業務運用方法 7. 研究活動促進支援
2	5月18日	1. 看護研究支援の調整 2. 看護学部教員共同研究費の運用 3. 研究活動支援の企画案 4. 研究補助者の業務依頼状況
3	6月15日	1. 看護研究支援の調整 2. 研究活動促進支援の企画案 3. 学部内各委員会の研究補助者への業務依頼調整結果
4	10月17日	1. 科研費獲得にむけたワークショップおよびその後の申請支援実施状況報告 2. 令和5年度上半期自己点検・評価および令和6年度事業計画 3. 令和5年度競争的研究費間接経費（大学使用分）の追加募集 4. 令和5年度競争的研究費採択状況
5	令和6年 1月11日	1. 令和5年度看護学部共同研究費報告書 2. 令和6年度看護学部共同研究費申請（3月） 3. 令和5年度共同研究費における研究代表者の変更 4. 自己点検評価指標（教員の学会発表数、論文数の経年変化）研究補助者業務依頼に関する取り決めの修正

5	令和6年 1月11日	1. 令和5年度看護学部共同研究費報告書 2. 令和6年度看護学部共同研究費申請（3月） 3. 令和5年度共同研究費における研究代表者の変更 4. 自己点検評価指標（教員の学会発表数、論文数の経年変化）研究補助者業務依頼に関する取り決めの修正
6	3月14日	1. 令和5年度看護学部共同研究費報告書 2. 令和6年度看護学部共同研究費応募課題 3. 令和5年度看護研究支援の評価 4. 研究活動促進支援

広報委員会

委員長 村上 礼子

1. 所管事項

本委員会の所管事項は、以下の通りである。

- 1) 広報誌、パンフレット等の作成及び発行に関する事項
- 2) ホームページの作成及び管理に関する事項
- 3) オープンキャンパスの実施に関する事項
- 4) その他、進学説明会や進路相談会、出張講義等、学部長が必要と認めた事項

2. 委員会の構成

本委員会の構成員と役割を表1に示す。なお、オープンキャンパスに関しては、委員全員で分担し取り組んだ。

表1 構成員と役割

氏 名	役 割
村上 礼子 教授	委員長
成田 伸 教授	副委員長
川上 勝 准教授	ホームページ担当 在校生ポスター担当
島田 裕子 准教授	下野市南河内第二中学校の学部訪問担当 パンフレット担当
小西 克恵 講師	広報誌担当 学生広報委員担当
渡邊 賢次 講師	パンフレット担当 ホームページ担当 新入生対象アンケート担当

表2 下部組織

担当者氏名	
石井 容子 講師 館沼 麗奈 助教 二宮美由紀 助教 沼野 莉奈 助教	オープンキャンパス担当

3. 活動内容と評価

本委員会は、今年度表3に示す通り8回の委員会を開催した。

本年度も昨年度に引き続き、必要な感染予防対策を徹底しつつ、可能な限りコロナ禍前の広報活動に戻せるよう検討した。

大学のホームページの看護学部特設サイトの作成と合わせて、ホームページを活用した広報活動を実施した。5月の第1回オープンキャンパスならびに、夏季の第2・3回オープンキャンパス、3月の第4回オープンキャンパスと、事前参加申込制

で開催し、夏季からは在校生との交流を対面でできるように企画し、学部教員全員の協力のもと開催した。夏季開催の第2・3回ならびに3月の第4回オープンキャンパスは午前・午後の終日開催とした。計4回のオープンキャンパスの参加者数は1,200名以上おり、昨年度より300名以上多く参加者を確保した。オープンキャンパスの参加者からのアンケート結果では、様々な企画があり、対面で直接参加できてことや熱心な教員や在校生の話が直接聞けたことに大変好評な回答を得た。

広報誌「ビタミンN」では、『afterコロナ』をキャッチコピーに、コロナ渦中からその後におけるの学生生活の様子や実習の様子、そして少しずつコロナ禍以前に戻りつつある大学行事、社会貢献などを紹介する記事を掲載し、本学の教育的取り組みや学生支援の様子をタイムリーに紹介することができたと評価する。

パンフレット「Campus Guide」では、写真等の撮影ができにくい状況ではあったが、本学部の紹介、学部の強み等を強調した構成となるよう工夫した。

進学説明会や進路相談会・出張講義は、感染対策を徹底させつつ、参加可能な企画には看護学部教員や看護学務課の協力を得て、参加をした。

在校生の協力を得て、メッセージや写真を掲載した広報ポスターは、例年通り広報活動を強化すべき地域・偏差値である約20校を選定し、送付した。

表3 2023年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	2023年 4月14日	・年間運営方針、年間計画、役割分担 ・オープンキャンパスの企画検討 ・下野市南河内第2中学校企画検討 ・「Campus Guide 2024」の評価 ・進学説明会の企画検討 ・ホームページの特設サイトの更新 ・進学説明会の担当者検討
2	5月11日	・第1回オープンキャンパスの最終確認 ・進学説明会の最終確認 ・「Campus Guide 2025」の企画 ・南河内第二中学校体験学習企画検討 ・HP更新・特設サイトの検討
3	6月8日	・第1回オープンキャンパスの評価 ・進学説明会の評価 ・第2・3回、追加企画のオープンキャンパス実施計画の検討 ・「Campus Guide 2025」の構成検討 ・HP特設サイトの更新

		・新たな広報活動の検討 ・南河内第二中学校の学部訪問 ・オープンキャンパスグッズの検討
4	7月13日	・第2・3回，追加企画のオープンキャンパス最終確認 ・「Campus Guide 2025」の作成 ・2024年度予算案検討 ・ビタミンN第20号評価と第21号の企画・編集方針
5	9月14日	・第2・3回，追加企画のオープンキャンパス評価 ・栃木県立今市高等学校の大学見学 ・「Campus Guide 2025」の作成
6	10月12日	・第4回オープンキャンパスの企画 ・HP特設サイトの更新 ・令和5年度自己点検・評価及び令和6年度事業計画 ・ホームページに関するアンケート結果 ・令和4年度看護学部ホームページアクセス解析結果 ・ビタミンN第21号の構成案
7	12月14日	・第4回オープンキャンパスの企画検討 ・令和6年度オープンキャンパスのHP掲載企画案 ・新入生対象アンケートの検討 ・学生確保のための広報活動
8	2024年 2月8日	・第4回オープンキャンパスの最終確認 ・令和6年度南河内第二中学校体験学習企画検討 ・新入生アンケートの検討 ・令和6年度学生広報委員の検討

編集委員会

委員長 内堀 真弓

1. 所管事項

本委員会の所管事項は、自治医科大学看護学部ジャーナルおよび自治医科大学看護学部／自治医科大学大学院看護学研究科年報の刊行に関する事項、その他学部長が必要と認めた事項である。

2. 委員会の構成

本委員会の構成員と役割を表1に示す。

表1 構成員と役割

氏 名	役 割
内堀 真弓 教授	委員長 看護学ジャーナル担当
川野亜津子 教授	副委員長 年報の編集、刊行担当
角川 志穂 准教授	看護学ジャーナル担当
青木さざ里 講師	年報の編集、刊行担当
古島 幸江 講師	年報の編集、刊行担当
鹿野 浩子 講師	看護学ジャーナル担当

3. 活動内容

本年度は、表2に示す通り4回の委員会を開催し、看護学ジャーナル（第21巻）掲載論文の審査と2022年度年報（第21／17号）の編集内容などについて検討した。

自治医科大学看護学ジャーナル（第21巻）は、原著論文2編、実践報告1編にて刊行した。投稿論文1編につき2名の査読者が論文の査読にあたった。編集委員全体で投稿論文の内容を確認し、選定された1名の編集委員が取りまとめて意見書を作成した。

自治医科大学看護学部年報（第21号）は、自治医科大学大学院看護学研究科年報（第17号）と合わせて刊行した。

表2 2023年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	2023年 4月15日	・年度の活動方針、役割分担 ・看護学ジャーナル21巻の編集 ・年報（第21／17号）の編集 ・編集後記執筆者について
2	2023年 10月16日	・看護学ジャーナルの投稿論文の査読者・担当編集委員の決定 ・査読の流れについて
3	2023年 12月4日	・看護学ジャーナルの編集委員会からの意見書作成 ・看護学ジャーナルの投稿規定と査読依頼時の配付資料について ・年報の進捗確認
4	2024年 3月6日	・看護学ジャーナル投稿論文の採択と原稿種類の決定 ・年報の進捗確認

国家試験対策委員会

委員長 浜端 賢次

1. 所管事項

本委員会の所管事項は、保健師・助産師・看護師国家試験を受験する在学生ならびに既卒生が国家試験に合格するように、国試対策、学習相談と支援、学習環境の整備等を行うことである。

2. 委員会の構成

本委員会の構成員と役割は、表1と表2に示す通りである。

表1 構成員と役割

氏 名	役 割
浜端 賢次 教授	委員長 成績分析・既卒生対応
半澤 節子 教授	副委員長 成績分析・既卒生対応
倉科 智行 准教授	模試運営
佐藤 幹代 准教授	国試対策ゼミ
青木 さぎ里 講師	成績分析
石井 容子 講師	卒業生アンケート

表2 下部組織（ワーキンググループ）

担当者氏名	役 割
関山 友子 講師	成績分析
小西 克恵 講師	国試対策ゼミ
高崎 浩子 助教	模試運営・国試対策ゼミ
上野 知奈 助教	模試運営・卒業生アンケート
國府田 望 助教	模試運営・卒業生アンケート

3. 活動内容

本年度は、表3に示す通り、8回の委員会を開催した。国家試験対策としては、毎年2名の委員が約20名程度の学生を担当し、3年次までのGPA成績結果等を踏まえて、年間計画や学習方法の指導などを行っている。加えて、模擬試験実施直後には学生による自己採点結果が報告され、懇切丁寧な個別面談を実施している。

模擬試験では【4年生（看護師4回・看護師必修1回・保健師3回・助産師2回）】、3年生と2年生には低学年模試を1回実施した。模擬試験の重要問題については、解説動画を閲覧できる業者を選定している。さらに、教員による国家試験対策ゼミでは、遠隔と録画を用いて、2023年9月から2024年1月にかけて開講した。学習環境の整備では、土曜日の教室開放、学生サロンに受験参考書や問題集、パンフレット（国家試験対策模擬試験・国

家試験対策講習等）を置き、学生が自由に閲覧できるようにした。

2023年度国家試験の結果（新卒）は、表4に示す通りである。本学の保健師・助産師・看護師合格率は、いずれも全国平均を上回っているが、引き続き100%合格を目指し教員間でサポートを継続したい。

表3 2023年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	2023年 4月18日	年間計画、役割分担、模試年間計画、国試対策ゼミの検討
2	2023年 6月15日	国試傾向・本学データ分析、模試監督マニュアル・模試監督調整、不合格者への対応確認
3	2023年 7月13日	第1回保健師模試実施報告、国家試験対策ゼミの運営案、委員会希望図書
4	2023年 9月7日	官報、模試結果、国試ガイダンス（2・3年生）・受験手続説明会運営方法、カリキュラムへの意見交換
5	2023年 11月16日	模試結果、国試対策ゼミの運営報告、今後の国試関連事項の確認、学習支援状況と工夫
6	2023年 1月18日	模試結果、国試対策ゼミの運営報告、卒業生アンケートの検討、既卒生の受験対応
7	2024年 2月29日	国試受験状況の確認、国試講評（テコム看護）、今年度の振り返りと次年度に向けて
8	2024年 3月22日	国家試験合格発表・次年度確認

表4 2023年 保健師/助産師/看護師国試結果（新卒）

区分	資格	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率(%) 本学(全国)
本 学	看護師	101	98	97.0 (87.8)
	保健師	101	97	96.0 (95.7)
	助産師	4	4	100.0 (98.8)

臨地実習指導研修委員会

委員長 塚本 友栄

1. 所管事項

本委員会の所管事項は、以下4点である。

- 1) 臨地実習指導研修のプログラム検討に関する事項
- 2) 臨地実習指導研修会の開催に関する事項
- 3) 臨地実習指導研修修了者のフォローに関する事項
- 4) その他学部長が必要と認めた事項
(臨地教員対象の研修会)

2. 委員会の構成

本委員会の構成員と役割を表1に示す。

表1 構成員と役割

氏 名	役 割
塚本 友栄 教授	委員長
永井 優子 教授	副委員長
佐藤 幹代 准教授	臨地実習指導研修会担当
八木 街子 准教授	臨地実習指導研修会担当
田村 敦子 准教授	臨地教員のための研修会担当
石井 容子 講師	臨地教員のための研修会担当

3. 活動内容と評価

本年度の委員会開催と審議事項を表2に示す。

2023年9月8日(金)に、臨地実習指導研修会を対面で開催した。台風13号による悪天候のため午前のみで切り上げた。受講者数は47名であり、アンケート(回収率97.8%)では、「カリキュラムについてとてもわかりやすく学べた」「学生とどう関わったらよいか学べた」等、肯定的な回答を得た。「主体的な学習活動を促すための指導を考えることができた」かに関しては「とても思う」との回答が45%と半数を下回り、午後に計画していたGWができなかったことが影響した可能性がある。しかし研修会に対する満足感は高く、研修会の目標は概ね達成できた。

2024年2月25日(金)に、臨地教員のための研修会を対面で開催した。受講者数は48名であり、アンケート(回収率96%)では、日常生活援助実習を素材に、求められる教育力・マネジメント力について・令和6年度実習科目のねらいと変更点について、殆どの参加者が理解できたと評価し、研修会の目標は概ね達成できた。

表2 2023年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	4月10日	・年間活動計画、役割分担 ・臨地実習指導研修会 方向性の検討
2	6月1日	・年間活動計画の修正 ・臨地実習指導研修会 講師、申込方法等の検討
3	7月13日	・臨地教員のための研修会過去 参加者データ分析結果の検討 ・臨地教員のための研修会 企画趣旨等の検討 ・評価指標にそった研修会評価計画の 検討 ・臨地実習指導研修会のオリエンテー ション資料の検討
4	9月4日	・臨地実習指導研修会 事前準備・当日運営等の検討 ・臨地教員のための研修会 プログラムの検討
5	10月4日	・臨地実習指導研修会 実施評価 ・臨地教員のための研修会 アンケート等の検討 ・TA等研修機会としての委員会所管 研修会活用について
6	2024年 2月8日	・臨地教員のための研修会 グループ編成・会場設営検討
7	3月12日	・臨地教員のための研修会 実施評価 ・次年度活動計画について

入試実施委員会

委員長 川野 亜津子

1. 所管事項

本委員会の所管事項は、次のとおりである。

1) 入学試験実施に関する事項

(1) 入学試験実施日の役割分担・実施手順に関すること。

(2) 入学試験実施説明会に関すること。

2) その他学部長が必要と認めた事項

2. 委員会の構成

本委員会の構成員と役割を表1に示した。

表1 構成員と役割

氏 名	役 割
川野 亜津子 教授	委員長
永井 優子 教授	副委員長
倉科 智行 准教授	委員
平尾 温司 准教授	委員
古島 幸江 講師	委員
今野 早苗 講師（令和6年2月まで）	委員
大根田 雅則 課長	事務局
小井沼 秀記 参事	事務局
湯浅 芳恵 主幹	事務局

3. 活動内容

本年度は5回の委員会を開催した。各回の審議事項を表2に示した。

第1回委員会では、構成員および所管事項、入学試験関係の日程を確認し、学生募集要項の受験生への説明内容を正し、COVID-19感染症の5類変更に伴い文部科学省「大学入学者選抜実施要項について」（通知）に基づいて、入学者選抜の実施方法を検討し、入試マニュアルが随時変更される可能性について了承された。

第2回委員会では、入試委員長の指示により一般選抜入学試験学生募集要項について入試委員会で審議を諮ることとなった旨が伝えられた。COVID-19感染症の5類変更に伴い、文部科学省「大学入学者選抜実施要項について」（通知）に基づいて、令和6年度一般選抜型入学試験入試マニュアルの変更点（COVID-19感染症対策関係記述の削除及び「健康チェックリスト」、「健康観察記録」の用紙削除）について審議の結果、了承された。また、COVID-19感染症対策関係以外で、追加及び変更の検討が必要と思われる事項（受験資格、出願手続き、志願票関係等）についても審

議の結果、了承された。

第3回委員会では、令和6年度推薦入学試験実施マニュアルを検討した。COVID-19感染症の5類変更に伴い文部科学省「大学入学者選抜実施要項について」（通知）に基づいて修正が行われた、修正版マニュアルを用いて令和5年11月9日（木）に入試実施説明会を開催し、学校推薦型選抜入学試験を11月18日（土）に実施した。

第4回委員会では、一般選抜型入学試験の入試実施マニュアルを確認し、感染症対策として別室1室を設定した。学校推薦型選抜入学試験と同様に修正版を作成した。令和6年 1月15日（月）に作成したマニュアルを用いて一般入学試験実施説明会を開催した。一般入学試験（一次試験）を1月20日（土）に、一般入学試験（二次試験）を2月3日（土）に実施した。

第5回委員会では、令和6年度入学試験の評価を行った。また、令和7年度入学試験実施マニュアルについて検討し、COVID-19感染症の5類変更と文部科学省「大学入学者選抜実施要項について」（通知）に基づいて変更となった点、感染対策、実施時間等について昨年度から引き続き検討することとし、マニュアル全体の修正方針を決定した。また、令和7年度から実施されるweb出願についての進捗について情報提供された。出願方法の変更に伴い、学生募集要項が変更されることについて了承された。

表2 令和5年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	2023年 4月27日	1. 本委員会の構成について 2. 本委員会の所管事項について 3. 令和6年度看護学部入学試験関係の日程について 4. 学生募集要項について 5. 令和6年度入学試験実施マニュアルについて
2	7月10日	1. 一般選抜入学試験学生募集要項について
3	10月27日	1. 令和6年度推薦入学試験実施マニュアルについて 2. 推薦入学試験実施説明会の実施について
4	12月21日	1. 令和6年度一般入学試験実施マニュアルについて 2. 一般入学試験実施説明会の実施について
5	2024年 3月14日	1. 令和6年度看護学部入学試験の評価について 2. 令和7年度入学試験実施マニュアルについて 3. Web出願システムについて

大学院看護学研究科委員会等報告

大学院看護学研究科委員会

委員長 春山 早苗

1. 所管事項

- (1)学則の制定及び改廃に関する事項
- (2)研究科の教育課程に関する事項
- (3)入学、休学、退学、転学、転入学、除籍及び賞罰に関する事項
- (4)試験に関する事項
- (5)学位論文審査に関する事項
- (6)その他研究科の学事に関する重要事項

2. 委員会の構成

- (1)「自治医科大学大学院学則」第41条第2項に規定する者（研究科長、専攻分野主任教授、研究科長が指名する教授）

表1 構成員と役割

氏 名	役 割
春山 早苗	委員長（研究科長）
永井 優子	委 員（幹事長）※
内堀 真弓	委 員
大塚 公一郎	委 員
川野 亜津子	委 員
小原 泉	委 員
塚本 友栄	委 員
成田 伸	委 員 ※※
長谷川 直人	委 員
浜端 賢次	委 員
半澤 節子	委 員
村上 礼子	委 員 ※※※

※広域実践看護学分野主任兼ねる

※※実践看護学分野主任兼ねる

※※※地域看護管理学分野主任兼ねる

3. 活動内容

- (1)「自治医科大学大学院学則」第41条第1項の規定により、看護学研究科の学事に関する重要事項について審議を行うため、表2のとおり看護学研究科委員会を開催した。

表2 2023年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	4月13日	・学生の休学 ・2023年度委員会議事日程 ・2023年度入学生の研究指導教員の決定 ・2023年度履修科目（博士前期・後期課程）の決定 ・2023年度TA（新入生）の決定 ・長期履修許可（博士前期課程、博士後期課程）

		・学生の実験研究等環境の適切性 ・教員任用申請 ・博士後期課程学生の副研究指導教員の変更
2	6月1日	・2024年度出願資格認定審査実施マニュアル ・既修得単位の認定 ・非常勤講師の任用 ・特別講義 ・2023年度博士前期課程科目等履修生後期開講科目一覧（追加募集）及びホームページへの掲載 ・2024年度新カリキュラムの時間割 ・2023年度博士後期課程研究費 ・遠隔授業における対応等
3	6月15日	・2024年度出願資格認定試験合否判定 ・2024年度博士前期課程入学試験実施マニュアル
4	7月11日	・専門看護師教育課程更新申請（最終内容） ・広報活動 ・意見箱の目的と対応 ・2023年度博士後期課程研究費
5	7月20日	・学生の退学 ・2024年度博士前期課程入学試験合否判定 ・博士後期課程の副研究指導教員の変更 ・2023年度大学入学者選抜・教務事項連絡協議会
6	8月24日	・2023年度科目等履修生（追加募集）の決定 ・2025年度入学試験日程 ・2025年度科目等履修生募集日程
7	持回審議	・学生の退学及び休学
8	10月5日	・2023年度科目等履修生単位修得（前期課程・後期課程）認定 ・2023年度第3回合同研究セミナー ・2023年度博士前期課程・博士後期課程最終試験（学位論文発表会）のスケジュール ・2023年度国際学会参加の申し込み状況 ・研究計画審査会 ・2023年度博士後期課程研究費（変更）
9	12月1日	・2023年度博士後期課程論文審査委員会の立ち上げ ・2024年度博士前期課程（第Ⅱ期）及び博士後期課程出願資格認定審査マニュアル ・博士前期課程履修規程改正（案） ・2023年度自己点検・評価（上半期）及び2024年度事業計画 ・2023年度FD研究会 ・各領域ホームページ案 ・2023年度博士課程説明会（さいたま医療センター）実施計画案
10	12月18日	・2023年度博士前期課程論文審査委員会の立ち上げ及び最終試験（発表会） ・博士前期課程履修規程改正（案）
11	1月5日	・審議事項なし
12	1月31日	・2023年度博士前期・後期課程論文審査（口頭試問）の判定 ・2024年度科目等履修生（博士前期課程）の

		決定 ・2024年度非常勤講師の任用 ・教員の任用及び担当授業科目の追加申請 ・2024年度科目責任者 ・2024年度学年歴 ・2024年度博士前期課程・博士後期課程 時間割
13	2月19日	・2023年度博士（看護学）及び修士（看護学）学位論文審査最終試験の判定 ・2024年度博士前期課程（第Ⅱ期募集）及び博士後期課程入学試験合否判定 ・2023年度自己点検・評価（年度全体の評価） ・さいたま医療センターでの現地説明会 当日の流れ
14	3月4日	・学生の休学 ・2023年度博士前期・後期課程修得単位の認定 ・2023年度博士前期・後期課程修了判定 ・2023年度科目等履修生の単位修得（後期履修） ・学位審査及び修了判定の適切性の評価 ・論文審査及び最終審査の2024年度実施要領 ・2024年度TAの決定 ・在籍期間の長い学生の指導計画 ・2024年度委員会議事内容 ・2024年度新入生・科目等履修生オリエンテーション・在学生ガイダンス ・2024年度専任教員任用 ・2024年度非常勤講師任用 ・2024年度時間割
15	持回審議	・休学の許可 ・教員の任用

研究科委員会幹事会

幹事長 永井 優子

1. 所管事項

本委員会の所管事項は以下の3つである。

- (1)自治医科大学大学院看護学研究科委員会（以下「研究科委員会」という）に付議する事項に関する事前審議
- (2)自治医科大学大学院看護学研究科に係る企画立案
- (3)その他、大学院看護学研究科の運営に係る日常業務の処理

2. 委員会の構成

本幹事会の構成員と役割を表1に示した。幹事会には研究科長も研究計画支援委員長を兼務しているため、構成員である。

表1 構成員と役割

氏名	役割
永井 優子 教授	幹事長 広域実践看護学分野主任
春山 早苗 教授	研究計画支援委員長
成田 伸 教授	実践看護学分野主任 カリキュラム委員長
村上 礼子 教授	地域看護管理学分野主任
半澤 節子 教授	入試実施委員長
塚本 友栄 教授	広報委員長
川野 亜津子教授	FD評価・実施委員長

3. 活動内容

令和4年度は計11回の研究科委員会幹事会を開催し、審議事項の概要を表2に示した。所管事項が適時審議されるよう、定例会における議題を年度当初に設定し、検討事項について各委員会において審議を行い、その内容に基づいて委員長より報告され、審議した。

表2 2023年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	2023年 4月25日	1. 本年度幹事会開催計画 2. 既修得単位の認定 3. 本年度看護学研究科博士前期課程科目等履修生後期開講科目一覧（追加募集）及びホームページへの掲載 4. 本年度看護学研究科博士後期課程研究費 5. 非常勤講師の任用 6. 大学院看護学研究科説明会直後のアンケート 7. 本年度看護学研究科オリエンテーションの評価

2	5月23日	1. 次年度看護学研究科博士前期課程入学試験実施マニュアル(案) 2. 次年度看護学研究科出願資格認定審査実施マニュアル(案) 3. 「看護学研究科パンフレット2025」およびホームページ 4. 大学院看護学研究科説明会直後の参加者アンケート 5. 次年度博士前期課程の時間割 6. 本看護学研究科の教育活動の評価等 7. 本年度大学院特別講義 8. メディア教育のアンケート(案)
3	6月20日	1. 令和7年度看護学研究科入学試験日程 2. 令和7年度看護学研究科科目等履修生募集日程 3. 本年度大学院特別講義 4. 本年度国際学会参加に伴う補助金交付者の選考 5. 看護学研究科の広報活動 6. 意見箱への投書に関する対応案 7. 本年度看護学研究科博士後期課程研究費 8. 研究生の受け入れ
4	7月25日	1. 令和7年度看護学研究科入学試験日程 2. 令和7年度看護学研究科科目等履修生募集日程 3. 次年度大学院看護学研究科予算要求
5	9月26日	1. 学生の休学・退学 2. 本年度自己点検・評価（上半期）および次年度事業計画 3. 本年度国際学会参加の申し込み状況 4. 大学設置基準の改正による対応（TA研修会） 5. 地域医療情報研修センター4階領域別書棚の使用状況 6. 博士前期課程・後期課程 休学者・退学者の入学試験データ分析
6	10月24日	1. 博士前期課程次年度規定改正（案） 2. 本年度自己点検・評価（上半期）および次年度事業計画 3. 看護学研究科各領域ホームページ案 4. 次年度看護学研究科博士課程説明会 5. 本年度大学院看護学研究科FD研究会について
7	11月24日	1. 次年度看護学研究科博士前期課程（第Ⅱ期）及び博士後期課程入学試験実施マニュアル 2. 令和7年度看護学研究科学生募集要項 3. 本年度第3回看護学研究科博士課程説明会（対面）の評価 4. 本年度看護学研究科博士課程説明会（さいたま医療センター）実施計画案 5. 次年度看護学研究科博士課程説明会の実施計画 6. 本年度看護学研究科ホームページの修正計画

8	12月19日	1. 次年度看護学研究科看護学研究計画審査会（博士後期課程）日程に 2. 次年度看護学研究科研究計画支援委員会（博士前期課程）日程 3. 次年度看護学研究科学年暦 4. 次年度看護学研究科博士前期課程・博士後期課程 時間割 5. 次年度大学院要綱 6. 看護学研究科FD活動 7. 博士後期課程学生を指導している主指導教員の研究活動の補助 8. 栃木県看護協会「看護への道2024」
9	2024年 1月23日	1. 看護学研究科教員の任用及び担当授業科目の追加申請 2. 次年度看護学研究科非常勤講師の任用 3. 次年度看護学研究科博士前期課程・博士後期課程の時間割 4. 看護学研究科のミッション・目的の周知方法の効果・適切性 5. 3つの方針に基づく教育活動の評価及びそのためのIR活用 6. 3つの方針の整合性に関する評価 7. 次年度からの博士前期課程の各領域の適切性に関する評価方法・評価計画 8. 看護学研究科FD活動
10	2024年 2月20日	1. 学生の休学 2. 次年度看護学研究科新入生・科目等履修生オリエンテーション・在学生ガイダンス 3. 次年度看護学研究科ティーチングアシスタント 4. 次年度看護学研究科学位申請日程 5. 次年度看護学研究科非常勤講師の任用 6. 次年度看護学研究科専任教員任用 7. 次年度看護学研究科時間割 8. 次年度看護学研究科分野主任 9. 大学院要綱内の研究支援委員会の記載
11	2024年 3月19日	1. 学生の休学 2. 看護教員任用申請 3. 次年度幹事会審議事項 4. 学生の教育研究等環境の適切性 5. カリキュラムポリシー

教育研究分野別報告

看護基礎科学

教授 大塚 公一郎

1. スタッフの紹介

教授 大塚 公一郎
准教授 倉科 智行
准教授 平尾 温司
講師 関山 友子
講師 鹿野 浩子

2. 教育の概要

1) 看護基礎科学学に関する教育概要

(1)心理学（2年次前学期2単位：必修）

科目責任者である大塚が30時間を担当して講義を行った。

(2)人間関係論（1,2年次前学期1単位：選択）

科目責任者である大塚が5時間を担当して授業を、渡辺純一非常勤講師が10時間を担当して講義・演習を行った。

(3)病態学概論（1年次後学期1単位：必修）

科目責任者である倉科が15時間を担当して講義を行った。

(4)病態学各論Ⅰ（1年次後学期1単位：必修）

科目責任者である倉科が15時間を担当して講義を行った。

(5)病態学各論Ⅱ（2年次前学期2単位：必修）

科目責任者である倉科が30時間を担当して講義を行った。

(6)臨床検査学（2年次後学期1単位：必修）

科目責任者である倉科が11時間、鯉渕晴美非常勤講師（本学医学部准教授）が2時間、木島茂喜非常勤講師（本学医学部講師）が2時間を担当して講義を行った。

(7)人体科学の基礎（1・2年次前学期1単位：選択）

科目責任者である倉科が15時間を担当し講義を行った。

(8)人体の構造と機能Ⅰ（1年次前学期2単位：必修）

科目責任者である平尾が30時間を担当して講義を行った。

(9)人体の構造と機能Ⅱ（1年次後学期2単位：必修）

科目責任者である平尾が32時間を担当して講義および演習を行った。野田泰子非常勤講師

（本学医学部教授）、加藤一夫非常勤講師（筑波技術大学教授）、三木玄方非常勤講師（本学医学部講師）がそれぞれ2時間の演習を行った。

(10)免疫学（1年次後学期1単位：必修）

科目責任者である平尾が15時間を担当して講義を行った。

(11)医療とバイオテクノロジー（1・2年次前学期1単位：選択）

科目責任者である平尾が15時間を担当して講義を行った。

(12)情報学（1年次後学期2単位：選択）

科目分担者である浅田義和（本学医学教育センター准教授）が10時間、科目責任者である関山が20時間を担当して講義ならびに演習を行った。

(13)統計学（2年次前学期1単位：必修）

科目責任者である関山が15時間を担当して講義を行った。

(14)統計学演習（2年次後学期1単位：必修）

科目責任者である関山が15時間を担当して講義ならびに演習を行った。

(15)疫学（4年次前学期2単位：必修）

科目分担者である江角伸吾非常勤講師（宮城大学看護学群地域看護学准教授）が4時間、科目責任者である関山が26時間を担当して講義を行った。

(16)保健医療福祉システム論（1年次後学期2単位：必修）

科目分担者である春山早苗（地域看護学教授）、塚本友栄（地域看護学教授）、島田裕子（地域看護学准教授）が各6時間、青木さざり（地域看護学講師）が各4時間、市川定子（地域看護学講師）が2時間、科目責任者である関山が6時間を担当して講義を行った。

(17)基礎英語（1年次前学期1単位：必須）

科目責任者である鹿野が30時間を担当して講義ならびに演習を行った。

(18)医療英語コミュニケーション（1年次後学期1単位：必須）

科目責任者である鹿野が30時間を担当して講義ならびに演習を行った。

(19)医療英語（2・4年次前学期1単位：選択）

科目責任者である鹿野が30時間を担当して講義ならびに演習を行った。

(20)社会言語学（1年次後学期1単位：選択）

科目責任者である鹿野が15時間を担当して講義ならびに演習を行った。

2) 看護基礎科学以外の担当教育概要

(1)看護基礎セミナー（1年次前学期1単位必修）

倉科，平尾は各22時間の演習を担当した。

(2)対象の理解実習（1年次前学期1単位：必修）

大塚，倉科，関山，鹿野は，6時間の実習を担当した。

(3)文献講読セミナー（2年次前学期1単位：必修）

関山，鹿野は，各10時間の演習を担当した。

(4)公衆衛生看護実習（3年次後学期4単位：必修）

関山，倉科，各6時間，大塚，平尾，鹿野は4時間の実習を担当した。

(5)看護トピックス（4年次後学期2単位：必修）

平尾は宇都宮大学農学部附属農場で12時間の実習を担当した。

(6)看護総合実習（4年次前学期2単位：必修）

関山は，90時間の実習をAグループの教員と担当した。

(7)看護総合セミナー（4年次通年4単位：必修）

関山は，120時間のセミナーをAグループの教員と担当した。大塚は，18時間のセミナーを精神看護学の教員と，倉科は12時間のセミナーを成人看護学の教員と，平尾は16時間のセミナーを老年看護学の教員と，鹿野は24時間のセミナーを担当した。

(8)大塚は，本学医学部3年生を対象に，2時間の社会精神医学の系統講義を行った。

(9)倉科は，本学医学部3年生を対象に，6時間の内分泌代謝学の系統講義を行った。

(10)倉科は，本学医学部6年生を対象に，2時間の糖尿病学の内科学総括講義を行った。

(11)倉科は，本学医学部4年生を対象に，内分泌代謝科実習クルズ「糖尿病」の講義を計24時間行った。

(12)平尾は本学医学部1年生を対象に136時間の解剖学実習を担当した。

(13)平尾は本学医学部2年生を対象に16時間の神経解剖学実習を担当した。

3. 研究活動の概要

1) 研究プロジェクトの参加：研究費申請し採択され，研究代表者の場合

(1)平尾は，中山隼雄科学技術文化財団による研

究課題「ウシのヴァーチャルリアリティ動画はヒトを癒せるか？」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。連携研究者は，宇都宮大学長尾慶和，本看護学部教員角川，鹿野であった。

(2)関山は，文部科学省科学研究補助金（基盤研究(C)）による研究課題「特定行為を実践する看護師に対する意思決定支援トレーニングプログラムの開発」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。研究分担者は本学部教員春山，村上，川上，宮城大学江角伸吾であった。

2) 研究プロジェクトの参加：研究費申請し採択され，研究分担者・研究協力者など（研究代表者以外）の場合

(1)関山は，厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）による研究課題，「保健所における感染症対応職員の役割機能強化のためのガイドライン及び研修プログラムの開発（22LA1003）」（研究代表者：春山早苗）に研究協力者として参加し，同研究を実施した。

(2)鹿野は，文部科学省科学研究補助金（基盤研究(C)）による研究課題，「Loss of controlにあるALSの人々に「応答する看護」がもたらす影響」（研究代表者：渡邊賢治）に，分担研究者として参加し，同研究を実施した。

(3)鹿野は，文部科学省科学研究補助金（基盤研究(C)）による研究課題，「医療場面の質問—応答において構築される共感に関する認知語用論的研究」（研究代表者：後藤リサ）に，分担研究者として参加し，同研究を実施した。

4. 社会貢献活動の概要

1) 臨地のスタッフなどへの研究指導（学外・学内）

(1)関山は，令和5年度地域保健福祉職員研修（調査研究支援研修）の研究課題2件について研究指導を行った。

2) 論文の査読

(1)大塚は，多文化間精神医学学会誌「こころと文化」の編集委員長として，投稿論文1本の査読を行った。

(2)関山は，自治医科大学看護学ジャーナルの査読委員を務め，投稿論文の査読を行った。

3) 学会発表抄録の査読

(1)大塚は，第30回多文化間精神医学会学術総会の

プログラム委員を務め、学会発表抄録の査読を行った。

4) 学外研究助成金・学位論文等の審査

(1)平尾は、大学コンソーシアムとちぎ「学生支援事業」の審査員を担当した。

5) 学会のシンポジウムなどの座長

(1)大塚は、第30回多文化間精神医学会学術総会において、シンポジウム6「精神疾患に浸透する宗教—多文化間精神医学としての宗教精神病理学—」を企画し、座長を務めた。

(2)大塚は、第46回日本精神病理学会において、一般演題の座長を務めた。

6) 非常勤講師，研修会等講師

(1)倉科は、栃木県立衛生福祉大学の昼間専科1年次「疾病治療論Ⅱ（内分泌代謝）（体液調節）」の講義（計8時間）を担当した。

(2)平尾は、栃木県立宇都宮北高等学校の1時間の模擬授業を担当した。

(3)平尾は、自治医科大学看護学部オープンキャンパスで模擬授業を担当した。

7) 学術団体・職能団体等の委員会活動

(1)大塚は、令和1年4月より多文化間精神医学会理事，同年4月より同学会誌「こころと文化」編集委員長を務めている。

(2)大塚は、平成22年10月より日本精神病理学会評議員を務めている。

(3)大塚は、平成26年10月より日本精神医学史学会評議員を務めている。

(4)倉科は、令和2年4月より日本内分泌学会評議員を務めている。

(5)平尾は、日本ルーラルナーシング学会の査読委員を務めた。

(6)関山は、平成22年4月より日本ルーラルナーシング学会編集委員を務めている。

基礎看護学

教授 小原 泉

1. スタッフの紹介

教授 小原 泉

教授 内堀 真弓

講師 石井 容子

講師 井上 育子

講師 今野 早苗（2023年4月1日着任，
2024年2月29日退職）

取得資格：看護師

学歴：日本赤十字北海道看護大学大学院修了

職歴：東京女子医科大学病院，栃木県立がん
センター，佐藤社会福祉士事務所，訪
問看護もあ，聖路加国際病院

助教 高瀬 梨恵（2023年4月1日着任）

取得資格：看護師，保健師

学歴：自治医科大学看護学部卒業

職歴：自治医科大学附属病院看護部

2. 教育の概要

基礎看護学では，看護学の基礎となる知識なら
びに基礎的な看護技術を学生が習得することを目
標に，教育活動を展開している。

1) 基礎看護学に関する教育概要

- (1)看護学概論（1年次前学期1単位：必修）：小原
が15時間担当
- (2)実践基礎看護学概論Ⅰ（1年次前学期1単位：必
修）：小原が15時間担当
- (3)看護技術論Ⅰ（1年次前学期1単位：必修）：石
井が9時間，小原が2時間，内堀が2時間，井上
が2時間担当
- (4)看護技術演習Ⅰ（1年次前学期1単位：必修）：
基礎看護学全教員で30時間担当
- (5)看護技術論Ⅱ（1年次後学期1単位：必修）：内
堀が9時間，今野が4時間，井上が2時間担当
- (6)看護技術演習Ⅱ（1年次後学期1単位：必修）：
基礎看護学全教員で30時間担当
- (7)ヘルスアセスメント演習Ⅰ（1年次後学期1単
位：必修）：石井が4時間，内堀が2時間，基礎
看護学全教員で24時間担当
- (8)ヘルスアセスメント演習Ⅱ（1年次後学期1単
位：必修）：小原が2時間，基礎看護学全教員で
28時間
- (9)看護技術論Ⅲ（2年次前学期1単位：必修）：内

堀が7時間，小原が8時間担当

- (10)看護技術演習Ⅲ（2年次前学期1単位：必修）：
基礎看護学全教員全員で30時間担当
- (11)看護過程演習（2年次前学期1単位：必修）：小
原が30時間，基礎看護学全教員で28時間担当。
- (12)対象の理解実習（1年次前学期1単位：必修）：
基礎看護学全教員ならびに看護基礎科学全教員
で45時間を担当
- (13)日常生活援助実習（2年次後学期2単位：必
修）：基礎看護学全教員および成人看護学の
佐々木で90時間を担当

2) 基礎看護学以外の担当教育概要

- (1)看護倫理学（4年次前学期2単位：必修）：小原
が26時間担当
- (2)看護基礎セミナー（1年次前学期1単位：必
修）：内堀，高瀬がグループ担当教員として22
時間を担当
- (3)文献購読セミナー（2年次前学期1単位：必
修）：石井，井上，今野がグループ担当教員と
して16時間を担当
- (4)看護総合セミナー（4年次通年120単位：必
修）：基礎看護学全教員で120時間担当
- (5)総合実習（4年次前学期2単位：必修）：基礎看
護学全教員で90時間担当
- (6)がん看護学（2・4年次後学期1単位：選択）：石
井が5時間，小原が2時間，今野が2時間担当

3. 研究活動の概要

1) 研究プロジェクトの参加：研究費申請し採択
され，研究代表者の場合

- (1)小原は，文部科学省化学研究費補助金（基盤研
究(C)）による研究課題「がん臨床試験における
患者の意思決定支援のための学習プログラム開
発と実践知の可視化」の研究代表者として参加
し，同研究を実施した。研究分担者は，東京大
学医科学研究所 藤原紀子，埼玉医科大学国際医
療センター 玉木秀子，東京大学 山本則子，東
京保健医療大学 山花令子，千葉大学大学院 野
崎章子，広島大学 吉村健一であった。
- (2)小原は，文部科学省研究補助金（基盤研究(C)）
による研究課題「治験・臨床研究に関わる看護
師の道徳的苦悩」の研究代表者として参加し，
同研究を実施した。研究分担者は，本学部教員
内堀，東京大学医科学研究所 藤原紀子，千葉大

学大学院 野崎章子，東北大学 田代志門であった。

(3)内堀は，文部科学省科学研究補助金（基盤研究（C））による研究課題「フットケア看護力で支える糖尿病患者のセルフモニタリングに関する研究」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。研究分担者は東京医科歯科大学 山崎智子，国際医療福祉大学 浅野美知恵，東京医科大学 本田彰子であった。

(4)内堀は，自治医科大学看護学教員共同研究費による研究課題「糖尿病を有するがん患者が病とともに生きることを支える看護支援プログラムの開発に向けた基礎的研究～糖尿病を有するがん患者の病との向き合い方に関する文献検討：スコーピングレビュー～」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。研究分担者は，小原，石井，井上，今野，高瀬，田中，自治医科大学附属病院 福田順子，新井茉美，飯塚由美子，岩永麻衣子，小林玲子であった。

(5)井上は，自治医科大学看護学部教員共同研究費による研究課題「臨地実習による看護学生のコミュニケーションスキル・タイプの変化と要因」の研究代表者として同研究を実施した。研究分担者は，小原，内堀，石井，附属病院看護部福田順子，弘田智香であった。

2）研究プロジェクトの参加：研究費申請し採択され，研究分担者・研究協力者など（研究代表者以外）の場合

(1)小原は，文部科学省科学研究補助金（基盤研究（C））による研究課題「特定機能病院精神科病棟・外来・在宅支援の主軸となる高難度看護実践教育プログラム」（研究代表者：千葉大学大学院 野崎章子）に研究分担者として参加し，同研究を実施した。

(2)小原は，文部科学省科学研究補助金（基盤研究（C））による研究課題「包摂的パンデミック・レジリエンス構築を志向する精神障害者の地域生活継続支援法開発」（研究代表者：千葉大学大学院 野崎章子）に研究分担者として参加し，同研究を実施した。

(3)内堀は，文部科学省科学研究補助金（基盤研究（C））による研究課題「地域で共にグリーフを癒すサポートモデルの開発」（研究代表者：東京医科歯科大学 山崎智子）に，研究分担者として参加し，同研究を実施した。

4. 社会貢献活動の概要

1）臨地のスタッフなどへの研究指導（学外・学内）

(1)石井は，自治医科大学附属病院5A病棟の看護師の研究課題「術前化学療法を行う食道がん患者の術前リハビリテーションによる骨格筋量の増域が縫合不全に及ぼす影響」について看護研究の指導・助言を行った。

2）論文の査読

(1)小原は，日本看護科学学会雑誌の査読委員を務め，投稿論文1本の査読を行った。

(2)石井は，日本緩和医療学会誌の査読委員を務め，投稿論文1本の査読を行った。

3）学会発表抄録の査読

(1)小原は，第38回日本がん看護学会学術集会の演題査読委員を務め，学会発表抄録4本の査読を行った。

4）非常勤講師，研修会等講師

(1)小原は，国立がん研究センター東病院 がん化学療法看護教育課程において，「がん化学療法薬の開発」および「臨床試験と治験コーディネーター」について非常勤講師を務めた。

(2)小原は，自治医科大学看護学部令和5年度臨地実習研修会において，「令和5年度看護学部カリキュラム改正および臨地実習の概要」について講師を務めた。務めた。

5）学術団体・職能団体等の委員会活

(1)小原は，日本がん看護学会誌査読委員を務めた。

(2)小原は，日本看護科学会誌和文誌査読委員を務めた。

(3)小原は，千葉看護学会誌査読委員を務めた。

(4)小原は，日本ルーラルナース学会誌査読委員を務めた。

(5)小原は，日本臨床試験学会雑誌 査読委員を務めた。

(6)小原は，一般社団法人婦人科がんコンソーシアム（GOTIC），運営委員ならびにリサーチナース委員会委員長を務めた。

(7)小原は，日本がん看護学会特別関心グループ「治験・臨床研究看護」副代表を務めた。

(8)小原は，日本臨床腫瘍研究グループ 利益相反委員を務めた。

(9)石井は，2024年2月11日に開催された第28回在宅ケアネットワーク栃木総会の世話人として開催に携わった。

6) その他

- (1)内堀は、東京医科歯科大学同窓会副会長として、同窓会の運営及びお茶の水会看護同窓会講演会の企画運営を務めた。

地域看護学

教授 春山 早苗

1. スタッフの紹介

教授 春山 早苗

教授 塚本 友栄

准教授 島田 裕子

講師 市川 定子

講師 青木 さぎ里

助教 岸 範子（2023年4月1日着任）

取得資格：看護師，保健師

学歴：自治医科大学大学院看護学研究科博士
前期課程修了

職歴：栃木市（保健師）

助教 山岸 美穂（2023年4月1日着任）

取得資格：看護師，保健師

学歴：札幌医科大学保健医療学部看護学科卒業

職歴：札幌医科大学附属病院（看護師），鹿沼市・下野市（保健師（会計年度任用職員）），自治医科大学看護学部臨時教員

2. 教育の概要

1) 地域看護学に関する教育概要

公衆衛生の理念を追求する看護の目的と活動方法の基本を理解し，公衆衛生看護活動の展開に必要な基本的な知識と技術を学生が修得できることを目指して，主に行政に所属する保健師の活動を素材にして，教育にあたっている。担当科目は，実践基礎看護学概論Ⅲ（2年次前学期2単位：必修），健康生活支援技術Ⅰ（3年次前学期1単位：必修），健康生活支援技術Ⅱ（3年次後学期1単位：必修），公衆衛生看護活動論（3年次後学期2単位：必修），公衆衛生看護方法論（3年次後学期1単位：必修），公衆衛生看護実習（3年次後学期4単位：必修），行政看護管理論（4年次前学期1単位：必修），地域健康危機管理論（4年次前学期1単位：必修）であり，本学科目教員全員で担当した。

2) 地域看護学以外の担当教育概要

①「保健医療福祉システム論」（1年次後学期2単位：必修）：春山，塚本，島田，市川，青木，岸が担当。②「看護基礎セミナー」（1年次前学期：必修）：塚本，島田，岸，山岸が担当。③

「へき地の生活と看護」（1～4年次後学期1単位：選択）：市川，青木が他の担当者とともに履修者41名，研修者2名を担当。④「文献講読セミナー」（2年次前学期：必修）：市川，青木が担当。⑤「国際看護論」（4年次前学期1単位：必修）：春山が担当。⑥老年在宅看護実習（3年次後学期2単位：必修）：本学科目教員全員が1クール担当。⑦「看護政策学」（4年次前学期1単位：必修）：春山が科目責任者。⑧「総合実習」（4年次後学期：必修）：春山が科目責任者。本学科目教員及び看護基礎科学の関山講師で18名を担当。実習場所は下野市健康増進課及び高齢福祉課9名（うち1名は栃木県内事業場でも），群馬県吾妻郡中之条町六合地区4名，日光市足尾地域3名，県内訪問看護ステーション2名。⑨「看護総合セミナー」（4年次後学期：必修）：塚本が科目責任者。本学科目教員及び看護基礎科学の関山講師で学生18名を担当。岸・春山2名，山岸・春山2名，春山1名，塚本2名，島田3名，市川3名，青木3名の学生を指導。学生は，父親の妊娠期からの母親へのサポートと育児参加に影響すること，幼児期前期の子どもをもつ母親の育児困難と対処，40未満労働者の生活習慣病予防のための保健行動に影響すること，健診の継続受診者の受診理由と健診結果をきっかけとした保健行動，山村地域で暮らす認知症高齢者及びその同居家族への住民によるサポート，公共交通空白地域に在住する高齢者の外出状況と外出の影響要因，山村地域に住む母親の就学前までの育児不安とその対処，高齢の避難行動要支援者の自助・共助に関わる意識と避難支援等関係者の活動上の課題，医療的ケア児の母親の健康管理への影響要因，多発性硬化症患者の疾病受容過程，等の看護研究に取り組んだ。⑩「看護トピックス」（4年次後学期：必修）：本学科目では，春山が責任教員となり，テーマ「ICT（情報通信技術）を活用したその気にさせるための患者教育・保健指導」を本学科目教員全員で15名の学生を担当。

3. 研究活動の概要

1) 研究プロジェクトの参加：研究費申請し採択され，研究代表者の場合

(1)春山は，令和4-5年度厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）「保健所における感染症対応職員の役割機能強化のためのガイドライン及び研修プログラムの開

発」の研究代表者として、同研究を実施した。
研究分担者は浜松医科大学の尾島俊之、千葉県立保健医療大学の雨宮有子、日本赤十字看護大学の井口理、日本大学の鈴木秀洋、宮城大学の江角伸吾、研究協力者は本学部の島田、関山、岸、長崎県県央保健所の藤田利枝、山口県周南健康福祉センターの福田昭子、北海道医療大学の塚本容子、日本赤十字看護大学の佐藤太地、京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻健康情報学分野専門職学位課程/浜松医科大学健康社会医学講座・訪問共同研究員の赤松友梨であった。

- (2)春山は、令和5-7年度厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）「統括保健師に求められる専門的・行政的管理能力並びにその育成及び能力の発揮に向けた体制づくりの方法」の研究代表者として、同研究を実施した。

研究分担者は富山大学の田村須賀子、獨協大学の太谷基道、国立保健医療科学院の佐藤美樹、横浜市衛生研究所の大久保一郎、本学部の市川、研究協力者は東京都の山科美絵、石川県立看護大学の塚田久恵・米澤洋美・室野奈緒子、岐阜県立看護大学の山田洋子、国立保健医療科学院の奥田博子、東京都健康長寿医療センターの小宮山恵美、富山大学の鈴木悟子・城諒子・林愛海・山岸愛実、東京慈恵会医科大学の太田あゆ美であった。

- (3)塚本は、平成30-令和5年度科学研究費助成事業（学術助成基金助成金）（基盤研究(C)）による研究課題「へき地における退院支援・調整に関する教育プログラムの開発」の研究代表者として、同研究を実施した。

研究分担者は春山、島田、青木、宮城大学の江角であった。

- (4)島田は、令和4-6年度科学研究費助成事業（学術助成基金助成金）（基盤研究(C)）による研究課題「災害対応力向上のための自治体保健師による自立的ハイブリッド研修方法の開発」の研究代表者として、同研究を実施した。

研究分担者は本学部の春山、本学医学教育センターの浅田義和、宮城大学の江角伸吾であった。

- (5)島田は、令和5年度看護学部教員共同研究費による研究課題「ウィズコロナ・ポストコロナにおける地域包括ケアシステム構築のための住民

の相互扶助の促進方法」の研究代表者として、同研究を実施した。

共同研究者は春山、塚本、市川、青木、岸、山岸、下野市健康福祉部高齢福祉課の早乙女美奈子、吉川健二、下野市社会福祉協議会の桑島謙司、岸悦子、黒川一巳、菅井貞雄、隅谷サヨ子、高山由香利であった。

- (6)市川は、令和5-7年度科学研究費助成事業（学術助成基金助成金）（基盤研究(C)）による研究課題「妊婦や乳幼児の養育者における援助要請スタイル尺度の開発および有効活用の検討」の研究代表者として、同研究を実施した。

研究分担者は東海大学の庄司一子、本学部の春山であった。

- (7)青木は、平成30年-令和5年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（若手研究）による研究課題「離島新任期保健師の看護実践能力の向上につながる経験 離島類型別の特徴」の研究代表者として、同研究を実施した。

- 2) 研究プロジェクトの参加：研究費申請し採択され、研究分担者・研究協力者など（研究代表者以外）の場合

- (1)春山は、令和4-5年度厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）「自治体における災害時保健活動マニュアルの策定及び活動推進のための研究」（研究代表者：千葉大学大学院看護学研究院 宮崎美砂子）の研究分担者として参加し、分担研究「市町村における災害時保健活動マニュアルの策定及び活用のためのガイド（案）に対する意見調査」を実施した。

研究協力者は本学部の島田、市川であった。

また、分担研究「市町村における災害時保健活動マニュアルの策定及び活用のためのガイド（案）の作成」等を実施した。

- (2)春山は、令和4-6年度厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）「ICT 活用による保健師活動評価手法の開発及びPDCA サイクル推進に資する研究」（研究代表者：慶應義塾大学看護医療学部 田口敦子）の研究分担者として参加し、分担研究「既存の電子データ活用による保健師活動評価に向けた指標の検討（第2報）－効率的・効果的な保健活動の展開における統括保健師の役割遂行に向けて－」を実施した。

研究協力者は本学部の市川、宮城大学の江角であった。

- (3)春山は、令和3-5年度厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）「人口動態や地域の実情に対応するへき地医療の推進を図るための研究」（研究代表者：自治医科大学地域医療学センター 小谷和彦）の研究分担者として参加し、分担研究「特定行為研修修了看護師の導入によるへき地医療体制の考察」を実施した。

研究分担者は本学部の村上、研究協力者は本学部の佐々木であった。

- (4)春山は、令和4-6年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）「特定行為にかかる評価指標を用いた活動実態調査研究（研究代表者：石川県立看護大学 真田弘美）」の研究分担者として参加し、同研究を実施した。
- (5)春山は、令和3-5年度科学研究費助成事業（学術助成基金助成金）（基盤研究(C)）による研究課題「生活習慣病予備軍に対するICTツールを活用した自己管理強化プログラムの開発と検証（研究代表者：宮城大学 江角伸吾）」の研究分担者として参加し、同研究を実施した。
- (6)春山は、令和4-6年度科学研究費助成事業（学術助成基金助成金）（基盤研究(C)）による研究課題「特定行為を実践する看護師に対する意思決定支援トレーニングプログラムの開発（研究代表者：自治医科大学 関山友子）」の研究分担者として参加し、同研究を実施した。
- (7)春山は、文部科学省 令和4-6年度 大学における医療人養成の在り方に関する調査研究委託事業（学士課程における看護学教育の質保証に関する調査研究委託事業－保健師の質向上のための調査研究）である日本看護系大学協議会「感染症等の健康危機に対応できる保健人材養成のための調査研究事業」（調査事業実行委員会委員長：川崎市立看護大学 荒木田美香子）のコンピテンシー・ニーズ調査チームのリーダーとして参加し、同調査研究を実施した。
- 島田は、同チームのメンバーとして参加し、同調査研究を実施した。
- (8)春山は、令和2-5年度科学研究費助成事業（学術助成基金助成金）（基盤研究(C)）による研究課題「Loss of control にあるALSの人々に「応

答する看護」がもたらす影響（研究代表者：本学部の渡邊賢治）」の研究分担者として参加し、同研究を実施した。

- (9)青木は、令和4-7年度科学研究費助成事業（学術助成基金助成金）（基盤研究(C)）による研究課題「【離島の文化に即した災害保健活動】教育プログラム開発－地域らしさの回復を目指して（研究代表者：国立保健医療科学院 丸谷美紀）」の研究分担者として参加し、同研究を実施した。

4. 社会貢献活動の概要

1) 論文の査読

- (1)春山は、日本看護科学学会の和文誌専任査読委員を務め、投稿論文1本の査読を行った。
- (2)春山は、日本公衆衛生看護学会オンラインジャーナルの査読委員を務め、投稿論文3本の査読を行った。
- (3)春山は、Public Health Nursing (Wiley online library) の査読者を務め、投稿論文1本の査読を行った。
- (4)島田は、日本看護学会の査読委員を務め、投稿論文2本の査読を行った。
- (5)島田は、日本ルーラルナース学会の査読委員を務め、投稿論文1本の査読を行った。

2) 学会発表抄録の査読

- (1)春山は、第11回日本公衆衛生看護学会学術集会の査読者を務め、学会発表抄録7本の査読を行った。
- (2)春山は、日本地域看護学会第27回学術集会の査読者を務め、学会発表抄録5本の査読を行った。
- (3)春山は、千葉看護学会第29回学術集会の査読者を務め、学会発表抄録2本の査読を行った。

3) 学外研究助成金・学位論文等の審査

- (1)春山は、独立行政法人日本学術振興会の特別研究員等審査会専門委員、卓越研究員候補者選考委員会書面審査員及び国際事業委員会書面審査員・書面評価員を務めた。

4) 学会のシンポジウムなどの座長

- (1)春山は、日本地域看護学会第26回学術集会において、パネルディスカッション3「健康危機管理－防災から始める地域づくり－」の座長を務めた（オンデマンド配信2023年9月2日～2023年10月31日）。
- (2)春山は、第12回日本公衆衛生看護学会学術集会

- において、パネルディスカッションC「健康危機管理～次の災害に備えた、平常時の準備と人材育成～」の座長を務めた（2024年1月7日）。
- (3)春山は、第12回日本公衆衛生看護学会学術集会において、一般演題「健康危機管理Ⅰの座長を務めた（2024年1月6日）。
- (4)市川は、第82回日本公衆衛生学会学総会において、一般演題第13分科会「健康危機管理の座長を務めた（2023年10月31日）。
- 5）非常勤講師，研修会等講師
- (1)春山は、日本私立看護系大学協会主催の新任教員向け研修会「大学教育とは」（ハイブリッド開催）において、「建学の精神と一貫した教育・研究・地域貢献などを行う必要性について」を講演した（2023.8.5，183名）。
- (2)春山は、令和5年度全国保健師長会宮城県支部第1回交流会において、「健康危機発生時における管理期保健師の役割～平常時からの備え～」を講義し、グループワークの助言者を務めた（2023.6.3，47名）。
- (3)春山は、栃木県の令和5年度地域保健中堅期職員研修＜企画評価編＞（講義・演習）の講師を務めた。市川は演習の助言者を務めた。（2023.6.23，8.24～8.31に演習グループ別助言，12.8，16名）。
- (4)春山は、栃木県の令和5年度地域保健管理期職員研修（保健師管理者能力育成研修）において、「保健師管理者に必要な機能と能力」及び「根拠に基づく事業・施策の展開」を講義し、グループワークのコーディネーターを務めた（2023.8.10，18名）。
- (5)春山と島田は、山梨県看護協会主催の「災害時における行政保健師の役割と行動」研修会（講義・演習）の講師を務めた（2023.8.26，9.15の2日間，24名）。
- (6)春山は、令和5年度保健師等ブロック別研修会（北海道・東北ブロック）において、「自治体における健康危機管理の体制づくりとマネジメント」を講演し、実践報告「実践活動を通してマネジメントを考える」の座長を務めた（2023.8.28，山形市，474名）。
- (7)春山と島田は、岐阜市主催の「災害時保健活動遂行能力向上研修会（講義・演習）の講師を務めた（2023.9.29，23名）。
- (8)春山は、令和5年度熊谷保健所拠点管内災害対応研修（講義・演習）の講師を務めた（2023.10.4，2024.1.18の2日間，38名）。
- (9)春山は、令和5年度福岡県地域保健従事者管理期研修において、「健康危機管理の仕組みづくりと管理期保健師の役割」を講義し、演習「平時における健康危機管理の仕組みづくりについて」の助言者を務めた（2023.10.11，24名）。
- (10)春山は、自治医科大学第16回地域医療フォーラム2023「人をつなぐ地域の拠点づくりからみるこれからの地域包括ケア」において、指定発言をした（2023.10.14，下野市，81名）
- (11)春山と島田は、公益財団法人地域社会振興財団主催の第3回災害保健研修会「災害時に保健医療従事者に求められる被災者への対応と災害に備えた平常時の活動」（講義・演習）の講師を務めた（2023.10.21-22の2日間，26名）。
- (12)春山は、厚生労働省健康局健康・生活衛生局健康課保健指導室主催の令和5年度健康危機における保健活動推進会議（オンライン開催）において「保健所における感染症対応職員の役割強化のための体制づくり」を講演した（2023.11.7）。
- (13)春山は、令和5年度東京都・特別区・市町村統括保健師等連絡会において、「健康危機管理を含めた地域保健活動の推進に向けて～統括保健師等が担うべき役割とは～」を講演し、グループワーク「統括保健師としてまず何ができるか」でコメントした（2023.11.14，49名）。
- (14)春山は、栃木市主催の保健師年代別研修交流会において、「地域における保健師活動の原点～地区診断から保健師活動を振り返る～」を講義し（2023.11.8，25名），地区診断に関する経過説明会で助言した（2024.2.6）。
- (15)春山は、令和5年度（栃木県）第2回県南健康福祉センター管内看護職員等研修会（地区活動）において、「地域特性を踏まえた保健師活動～これからの『地区活動』とは～」を話題提供し、グループワーク「地域特性や住民の健康課題を踏まえた保健師活動で大切にしていきたいこと」の講師を務めた（2024.1.29，42名）。
- (16)春山は、本学看護師特定行為研修研修センターの令和4年度第1回看護師特定行為研修指導者講習会（2023.7.22，ハイブリッド開催，36名）及び第2回看護師特定行為研修指導者講習会（2024.1.26，ハイブリッド開催，26名）においてディレクターを務めた。

(17)島田は、足利市主催の産後の支援に関する登録看護師等研修会において、「エンジンバラ産後うつ質問票を用いた聞き取りのポイントやアセスメント方法について」の講演を務めた。

（2023.12.27, 31名）

(18)春山と青木は、湘南鎌倉医療大学の必修科目「島嶼看護」において非常勤講師を務めた。春山は科目責任者で講義1コマ、演習5コマ、青木は講義3コマ、演習11コマを担当した。

(19)青木は、NPO法人へき地保健師協会主催のへき地新任期保健師研修会「へき地で働く新任期保健師のつどい」（2023.9.30, 8名）において講師を務めた。

6) 学術団体・職能団体等の委員会活動

(1)春山は、日本看護系大学協議会の理事（財務）を務めた。

(2)春山は、日本ルーラルナース学会の理事兼事務局長、青木は評議員及び広報委員、島田・岸は事務局員を務めた。

(3)春山は、日本地域看護学会の代議員を務めた。

(4)春山は、日本公衆衛生看護学会の理事及び倫理委員長を務めた。

(5)春山は、厚生労働省委託事業「保健所業務等の在り方に関する調査」に係る有識者会議 地域保健対策・保健師活動ワーキンググループの委員を務めた。

(6)春山は、厚生労働省補助事業「看護師の特定行為研修に係る実態調査・分析等事業」検討委員会の委員長を務めた。

(7)春山は、日本公衆衛生協会 健康危機緊急時対応体制整備事業 健康危機管理支援事業運営会議の委員及びIHEAT教育内容検討作業部会の部会長を務めた。

(8)春山は、東京都が設置した「感染症対応を踏まえた都保健所のあり方検討会」の委員を務めた。

(9)春山は、全国訪問看護事業協会の『訪問看護ステーションにおける「看護師の特定行為に係る研修」受講促進・活動支援事業』検討委員会委員を務めた。

(10)春山は、栃木県の保健師現任教育のあり方検討会委員を務めた。

(11)春山は、下野市の健康づくり推進協議会会長を務めた。

(12)春山は、栃木市の健康増進計画推進部会及び市内ワーキング合同会議のアドバイザーを務めた。

(13)市川は、全国保健師長会 健やか親子特別委員会のオブザーバーを務めた。

(14)市川は、笠間市国保運営協議会の会長を務めた。

(15)青木は、NPO法人へき地保健師協会の理事長を務めた。

精神看護学

教授 永井 優子

1. スタッフの紹介

教授 永井 優子
教授 半澤 節子
助教 路川 達阿起
助教 高崎 浩子

2. 教育の概要

1) 精神看護学に関する教育概要

当学科目では、あらゆる健康水準の個人および集団を対象に、対象者の人権を尊重するとともに、その人の希望を踏まえた精神看護実践の基礎的知識と技術の修得を学士レベルの教育目標としている。精神の健康を増進し、精神の健康障害からの回復を促進する看護の提供体制は、精神科医療を提供する精神科病棟だけでなく、多様な場と支援者のネットワークにより精神障害者とその家族が生活者として健康の回復と社会生活の向上を図ることができるための看護を展開できる能力を育成することを目標としている。

担当科目は、「実践看護学概論Ⅱ」（2年次前学期1単位；必修）を永井が15時間、「精神看護方法」

（3年次後学期2単位；必修）を半澤12時間、永井16時間、路川2時間、「地域精神看護方法」（3年次後学期2単位；必修）を永井12時間、半澤2時間、路川2時間、土屋徹非常勤講師（夢風舎代表）2時間、精神看護学教員全員で14時間の演習を担当した。「精神保健看護実習」（3年次後学期2単位；必修）は、下野市、小山市、野木町、佐野市の4市町にある精神科デイケア3施設と精神障害者通所型の社会福祉法人とNPO法人の計3法人において、全教員で90時間を担当した。また、総合実習（4年次前学期2単位；必修）と看護総合セミナー（4年次後学期4単位；必修）では、学生10名に対して120時間を担当した。さらに、路川と永井は「看護トピックス」（4年次後学期1単位；必修）の8時間（テーマ：認知症をもつ人とその家族への看護職の役割6時間を含む）を担当した。

後学期の「精神看護方法」「地域精神看護方法」「精神保健看護実習」ではMoodleを用いて、学生の学習支援を行い、アクティブ・ラーニングの手法を用いた教育方法の改善および質の向上に取り組んでいる。

なお、大学院看護学研究科博士前期課程において、共通科目として、半澤は「看護実践研究論」の科目責任者として8時間を担当している。永井は、同科目担当者として8時間と「コンサルテーション論」の科目責任者として15時間を担当している。

また、同博士後期課程においては、永井は1名の主指導教員となっている。半澤は、「広域実践看護学特論Ⅱ」および「広域実践看護学演習」（30時間）の科目責任者として各15時間を担当している。永井は、両科目のうち各2時間を担当している。

2) 精神看護学以外の担当教育概要

永井は、「生涯発達看護論」（1年次前学期1単位；必修）の16時間を、「グループ・アプローチ」（2年次前学期1単位；必修）15時間を担当した。また、永井、半澤、路川、高崎は「看護基礎セミナー」（2単位）を28時間担当した。

3. 研究活動の概要

1) 研究プロジェクトの参加：研究費申請し採択され、研究代表者の場合

(1)半澤は、文部科学省科学研究補助金（基盤研究(C)）による研究課題「精神科病棟における身体拘束の最小化および最短化に向けた基礎的研究」の研究代表者として参加し、同研究を実施した。研究分担者は永井、自治医科大学石井慎一郎、富川明子、帝京科学大学宮城純子であった。

2) 研究プロジェクトの参加：研究費申請し採択され、研究分担者・研究協力者など（研究代表者以外）の場合

(1)永井は、文部科学省科学研究補助金（基盤研究(C)）による研究課題、「精神科病棟における身体拘束の最小化および最短化に向けた基礎的研究」（研究代表者：半澤節子）に、分担研究者として参加し、同研究を実施した。

(2)永井は、文部科学省科学研究補助金（基盤研究(C)）による研究課題、「看護基礎教育課程における認知症看護実践能力修得に向けたカリキュラムの開発」（研究代表者：湯浅美千代）に、分担研究者として参加し、同研究を実施した。

4. 社会貢献活動の概要

1) 論文の査読

- (1)永井は、日本病院地域精神医学会編集委員会の査読委員を務め、投稿論文の査読を行った。
- 2) 学会発表抄録の査読
- (1)永井は、日本ルーラルナーシング学会第17回学術集会の企画委員を務め、学会発表抄録の査読を行った。
- 3) 学外研究助成金・学位論文等の審査
- (1)永井は、(公社)日本看護科学学会第43回学術集会の表彰論文選考の審査員を務めた。
- 4) 学会のシンポジウムなどの座長
- (1)永井は、日本ルーラルナーシング学会第17回学術集会において、第2群「地域の診療所における看護管理」の座長を務めた。
- (2)永井は、文化看護学会第14回学術集会において、基調講演「『さわる』と『ふれる』から考える接触面の人間関係」を企画し、座長を務めた。
- (3)永井は、文化看護学会第14回学術集会において、市民公開講座・シンポジウム「新型コロナウイルス感染症パンデミックによる看取りと家族ケアの変容」を企画し、座長を務めた。
- (4)永井は、日本ルーラルナーシング学会第17回学術集会において交流集会1「ルーラルエリアにおける『抑うつ状態にある人の看護』実践者の研修について」を企画し、路川、高崎とともに運営を担当した。
- (5)路川は、文化看護学会第14回学術集会において、交流集会「日本に在住する外国人患者の診療経験からみた医療と文化～ラテンアメリカからの外国人労働者とその家族のケアについて～」を企画し、座長を担当した。
- 5) 非常勤講師、研修会等講師
- (1)永井は、栃木県県東健康福祉センター健康支援課の令和4年度精神保健福祉活動受理会議コンサルテーションとして、管内関係者（保健師、福祉専門職等）を対象に、2回にわたり計2事例について講師として助言を行った。
- (2)永井は、栃木県保健福祉部保健福祉課の令和4年度地域保健中堅期職員研修（事例検討編）において、「事例検討で押さえておく知識（困難事例の特徴等）と「困難事例の支援における資源の導入、調整」について講師を務め、助言を行った。
- (3)永井は、四日市医療看護大学大学院看護学研究科の「コンサルテーション論」において、科目責任者として8時間の非常勤講師を務めた。
- (4)永井は、栃木県看護協会保健師職能委員会の令和4年度保健指導ミーティングにおいて、講師として「メンタル的な課題を有する事例への支援について～保健指導スキルを上げるために」の講義を行い、事例検討で助言を行った。
- (5)永井は、文化看護学会第14回学術集会において、会長講演「『ふれあう』暮らしと看護」について講演を行った。
- (6)永井は、栃木県保健福祉部保健福祉課の令和4年度地域保健中堅期職員研修（指導担当者編）において、「新人職員の事例検討で押さえておく知識（困難事例の特徴等）と「困難事例の支援における資源の導入、調整」について講師を務め、助言を行った。
- (7)永井は、栃木県保健福祉部保健福祉課の令和4年度地域中堅期職員研修(事例検討編)第2回において「ネットワークの構築と連携の方法」について講師を務め、助言を行った。
- (8)永井は、栃木県精神科訪問看護ステーション協議会の令和4年度栃木県精神科訪問看護研修会において、「精神障害をもつ人の訪問看護に役立つ考え方と動向」について講師を務めた。
- 6) 学術団体・職能団体等の委員会活動
- (1)永井は、一般社団法人日本精神看護学会の代議員および理事を務め、倫理・利益相反委員会の委員長を務めた。
- (2)永井は、日本病院・地域精神医学会の編集委員を務めた。
- (3)永井は、北関東精神保健看護研究会の会長を務めた。
- (4)半澤は、北関東精神保健看護研究会の幹事を務めた。
- (5)路川は、北関東精神保健看護研究会の事務局員（会計担当）を務めた。
- (6)高崎は、北関東精神保健看護研究会の事務局員を務めた。
- (7)永井は、(公社)日本看護科学学会の表彰論文選考委員を務めた。
- (8)路川は、第14回文化看護学会の企画委員、事務局員（会計担当）、実行委員を務めた。
- (9)永井は、文化看護学会の第14回学術集会会長を務めた。
- (10)永井は、文化看護学会のCOI委員を務めた。
- (11)永井は、一般社団法人日本看護学教育学会の選挙管理委員を務めた。

(12)永井は、日本ルーラルナーシング学会の評議員
および理事を務めた。

(13)永井は、日本看護系学会協議会のCOIワーキン
ググループ員を務めた。

(14)永井は、看護系学会等社会保険連合の社員とし
て診療報酬及び介護報酬体系の在り方に関する
検討委員を務めた。

7) その他

(1)永井、路川は、感染症対策専門家派遣事業にお
いて、新型コロナウイルスに係る保健所支援を
行った（2022.1.～3.31）。

(2)永井は、社会福祉法人こぶしの会の評議員を務
めた。

(3)永井は、社会福祉法人ブローニュの森の評議員
を務めた。

(4)永井は、下野市健康増進課の「下野市自殺対策
ネットワーク協議会」の会長を務めた。

母性看護学

教授 成田 伸

1. スタッフの紹介

教 授 成田 伸（令和6年3月31日退職）
 教 授 川野 亜津子
 准教授 角川 志穂
 助 教 上野 知奈
 助 教 谷田部 典子
 助 教 二宮 美由紀
 助 教 前田 彩乃

2. 教育の概要

1) 母性看護学に関する教育概要

(1)生涯発達看護学概論Ⅰ（周産期）（1年次後学期1単位：必修）

成田が担当し、川野、角川の協力を得て実施した。母性看護学の基本概念、母親になっていくプロセス、生殖医療と倫理・法的な問題などを講義した。事後課題の提出を求め、知識の定着を図った。

(2)周産期実践看護学Ⅰ（2年次後学期1単位：必修）

角川が科目責任者として総括し、成田、川野、上野、谷田部、二宮、前田が協力し実施した。子育て期にある母子との交流を行い、経験豊富な助産師にファシリテーターとして演習に参加してもらった。学生からは子育て中の母親の状況や乳児の様子を知ることができ、有意義であったとの感想が得られた。妊婦・産婦のアセスメントには、臨床スタッフの協力を得て実施し、少人数の学生に対して、十分な指導を行えるように体制を整えた。

(3)周産期実践看護学Ⅱ（2年次後学期1単位：必修）

角川が科目責任者として総括し、成田、川野、上野、谷田部、二宮、前田が協力し実施した。周産期看護実習につながる看護過程については、角川が中心となって実習時の展開を意識した書式の見直しと褥婦・新生児の事例を作成したうえで、講義、アセスメントや看護技術の演習、事例展開の演習が連動するように関連させて展開した。

(4)生涯発達看護学概論Ⅴ（4年次前学期1単位：必修、2年次後学期1単位：必修）

川野が科目責任者として担当した。リプロダク

ティブヘルス・ライツの概念、思春期・性成熟期・更年期各期の健康問題と看護、避妊・性感染症予防、不妊の看護などを講義した。事後課題の提出を求め、知識の定着を図った。

(5)周産期看護実習（3年次後学期2単位：必修）

角川が科目責任者となり、成田、川野、上野、谷田部、二宮、前田が分担して担当した。本院、さいたまともにケース受け持ち、機能別実習（地域の施設、助産院、クリニック等の実習も含む）を各々1週間実施した。実習最終日には学内にて、本院とさいたまで実習を行った学生が混在するグループに分け最終カンファレンスを行い、実習での学びと課題を共有した。

2) 助産学に関する教育概要

(1)助産学概論（3年次前学期1単位：選択）

4年次助産師国家試験受験資格関連科目受講生選考に必須な選択科目であり、受講希望の学生は受講可能な科目である。川野が科目責任者として総括し、角川、谷田部、非常勤講師の小嶋由美氏の協力を得て実施した。21名が受講した。助産師の概念、助産師活動の概要、助産師の国際活動、海外の母子保健、性と生殖の健康と人権、助産に係る生命倫理などを教授した。人権や生命倫理に関しては、事例に基づき意見交換を行うことで、学生が支援方法を考えることができた。

(2)基礎助産学Ⅰ（4年次前学期1単位：選択）

助産学実習受講予定の学生5人に開講し、川野が科目責任者として総括し、上野の協力を得て実施した。

(3)基礎助産学Ⅱ（4年次前学期1単位：選択）

助産学実習受講予定の学生5人に開講し、川野が科目責任者として総括し、講義・演習を展開した。

(4)基礎助産学Ⅲ（4年次前学期1単位：選択）

助産学実習受講予定の学生5人に開講し、成田が科目責任者として総括し、講義・演習を展開した。

(5)実践助産学Ⅰ（4年次前学期1単位：選択）

助産学実習受講予定の学生5人に開講し、川野が科目責任者として総括し、上野、成田、角川、谷田部、二宮、前田が協力し、一部非常勤講師と一緒に講義・演習を展開した。

(6)実践助産学Ⅱ（4年次前学期1単位：選択）

助産学実習受講予定の学生5人に開講し、川野

が科目責任者として総括し、上野、成田、角川、谷田部、二宮、前田が協力し、講義・演習を展開した。分娩介助の演習については、総合実習期間に実習施設において臨地実習指導者に直接指導いただき、具体的な指導を展開してもらった。

(7)実践助産学Ⅲ（4年次前学期1単位：選択）

助産学実習受講予定の学生5人に開講し、川野が科目責任者として総括し、一部非常勤講師とともに講義・演習を展開した。学生はDVDを活用しながら、事前学習を行い、短期集中で少人数での演習を行った。

(8)実践地域助産学（4年次前学期1単位：選択）

助産学実習受講予定の学生5人に開講し、川野が科目責任者として総括し、成田と非常勤講師藤川智子氏の協力を得て、地域における助産師の母子保健活動、産褥期の健康教育・保健指導について教授した。健康教育・保健指導については課題レポートの作成と対面下での指導を実施し、学習効果を高めた。

(9)助産管理学（4年次前学期1単位：選択）

助産学実習受講予定の学生5人に開講し、成田が科目責任者として総括し、非常勤講師として田中純氏、小嶋由美氏の協力を得て、助産師の活動に関わる管理の概念と活動、災害時の役割、助産業務と医療事故などについて教授した。

(10)助産学実習（4年次後学期8単位：選択）

助産学生5名が受講し、4名が修了した。川野が科目責任者として総括し、成田、角川、上野、谷田部、前田、二宮が担当した。コロナ感染対策のため、感染予防に十分留意して実習した。分娩期の対象者を受持ち、ケアを展開し、必要な分娩介助件数を達成し、継続ケースのケアを展開した。

3) 母性看護学・助産学以外の担当教育概要

(1)看護基礎セミナー（1年次前学期1単位：必修）

成田は助教の高瀬氏と、川野は助教の高崎氏と、谷田部は教授の半澤氏と、二宮は准教授の島田氏と、前田は准教授の倉科氏と組み、それぞれ1グループ担当した。

(2)文献講読セミナー（3年次後学期1単位：必修）

角川が9名の学生を担当し、研究動機の整理からキーワードの設定、文献検索および文献検討をグループワークで実施し、最終的にはレポート作成までの指導を行った。

(3)研究セミナー（3年次後学期1単位：必修）

川野が科目責任者として総括し、講義は川野が担当、グループワークの指導を成田、川野、角川、田村、小西、上野、谷田部、二宮、前田、飯島が担当した。レポート作成にあたっては、グループ毎に教員が担当し、グループワークを3回実施し、レポート提出に至った。レポートの評価にはポートフォリオを用い、レポート内容に必要な事項を確認しつつレポート作成を支援すると共に、レポート評価に用いることで、全学生の評価基準を統一した。

(4)総合実習（4年次前学期2単位：必修）・看護総合セミナー（4年次後学期4単位：必修）

成田、川野、角川、上野、谷田部、二宮、前田で母性看護学領域に配置された学生16名を担当し、総合実習でテーマとした内容についてレポートを作成した。フィールドとして、附属病院産科病棟・外来およびNICU、大野医院、おおひらレディースクリニック、ことり助産院、ままと赤ちゃんの家、さくら産後院に加え、医療的ケア児の在宅生活を支援している特定非営利活動法人だいじ、特定非営利活動法人うりずん、地域での助産師の活動については栃木県助産師会の協力を得て、それぞれの学生の研究課題に基づいて立案した実習計画に則って実習した。

(5)看護トピックス（4年次後学期1単位：必修）

角川が全体調整を担当し、母性看護学教員、臨地スタッフの協力を得て実施した。講義・演習とも対面で実施した。日本版新生児蘇生法Bコースの公認コースなどを開催し、最新知識について教授した。

(6)看護管理学（4年次前学期2単位：必修）

成田が分担者として協力した。

(7)ジェンダー論（1, 4年次後学期2単位：選択）

成田が科目責任者として担当した。非常勤講師の白井氏の講義は遠隔で実施し、35名が受講した。ジェンダーにかかわる多様な社会問題を課題として取り上げ展開した。

3. 研究活動の概要

1) 研究プロジェクトの参加：研究費申請し採択され、研究代表者の場合

(1)川野は、文部科学省科学研究補助金（基盤研究(C)による研究課題「産後うつ予防システム確立に向けたバイオマーカーとしてのオキシトシンの有用性」の研究代表者として参加し、同研

究を実施した。研究分担者は金澤悠喜（慶應義塾大学）、岡山久代（筑波大学）、川野道宏（佐久大学）であった。

(2)上野は、自治医科大学看護学部教員共同研究費による研究課題「情報発信者としての助産師のヘルスリテラシーの実態」の研究代表者として参加し、同研究を実施した。研究分担者は谷田部典子、角川志穂、川野亜津子、成田伸、大下倍代（ままと赤ちゃんの家）、小嶋由美（ことり助産院）であった。

(3)谷田部は、自治医科大学看護学部教員共同研究費による研究課題「予期せぬ妊娠をした女性と支援する組織の実態と課題」の研究代表者として参加し、同研究を実施した。研究分担者は上野知奈、角川志穂、成田伸、大下倍代（栃木県助産師会）、小嶋由美（栃木県助産師会）であった。

(4)二宮は、自治医科大学看護学部教員共同研究費による研究課題「災害発生時の災害支援における助産師派遣体制の検討」の研究代表者として参加し、同研究を実施した。研究分担者は成田伸、栃木県助産師会 武藤香子、栃木県助産師会 小嶋由美、栃木県助産師会 須藤明美であった。

(5)前田は、自治医科大学看護学部教員共同研究費による研究課題「妊娠期にある女性の食意識・食行動の実態とその支援についての検討」の研究代表者として参加し、同研究を実施した。研究分担者は成田伸、川野亜津子、角川志穂、田中純（自治医科大学附属病院）、大貫晃子（自治医科大学附属病院）、折原智子（自治医科大学附属病院）であった。

2) 研究プロジェクトの参加：研究費申請し採択され、研究分担者・研究協力者など（研究代表者以外）の場合

(1)成田は、文部科学省科学研究補助金（基盤研究（C））による「助産師外来で妊娠初診時包括的アセスメントから始める切れ目のないケア方略の実装研究」（研究代表者：長坂桂子）に、分担研究者として参加し、同研究を実施した。

(2)成田は、武庫川女子大学看護学部助成金による「助産師による妊婦健康診査初診時の包括的アセスメントとケアに関する研究」（研究代表者：浅野浩子）に、分担研究者として参加し、同研究を実施した。

(3)川野は、文部科学省科学研究費補助金（若手研

究）による「地域における認知行動療法に基づく育児ストレス軽減プログラムの定着を試みる」（研究代表者：山海千保子）に、分担研究者として参加し、同研究を実施した。

(4)角川は、看護学部共同研究費による「ヴァーチャルリアリティ動画を用いた動物介在療法への応用」（研究代表者：平尾温司）に、分担研究者として参加し、同研究を実施した。

4. 社会貢献活動の概要

1) 臨地のスタッフなどへの研究指導（学外・学内）

(1)成田は、自治医科大学附属病院産科病棟の看護師を対象に、研究課題「切迫早産で長期入院となった妊婦の夫が出産後に抱く育児不安」について研究指導を行った。

(2)川野は、自治医科大学附属病院産科病棟の助産師を対象に、研究課題「母子ともに通常退院できた精神疾患合併妊婦への退院支援」について研究指導を行った。

(3)川野は、自治医科大学附属病院産科病棟の助産師を対象に、研究課題「新人助産師を指導する助産師が感じる戸惑いを明らかにする～分娩期に焦点を当てて～」について研究指導を行った。

(4)川野は、自治医科大学附属病院NICU病棟の看護師を対象に、研究課題「入職後のNICU看護のへのギャップを低減するためのNICU実習における課題」について研究指導を行った。

(5)川野は、松戸市民病院産科病棟の助産師を対象に、研究課題「ストレス指標としてのSIgA（immunoglobulin A）に関する研究」について研究指導を行った。

(6)川野は、筑波大学附属病院産科病棟の助産師を対象に、研究課題「自閉症スペクトラムと類似した特性を持つ妊産褥婦に対する助産師の支援」について研究指導を行った。

(7)角川は、自治医科大学附属病院の看護師を対象に、研究課題「死産後の女性と関わるなかで看護師が抱く思い」について研究指導を行った。

(8)角川は、自治医科大学附属病院の助産師を対象に、研究課題「総合周産期母子医療センターの新人助産師が感じる困難と乗り越えるまでのプロセス」について研究指導を行った。

(9)角川は、さくら産院の助産師を対象に、研究課題「新生児搬送により母子分離となった母親に

対する産褥入院中の母子育児支援」について研究指導を行った。

2) 論文の査読

- (1)成田は、日本看護科学学会誌編集委員会の査読委員を務め、投稿論文の査読を行った。
- (2)成田は、日本母性看護学会誌編集委員会の査読委員を務め、投稿論文の査読を行った。
- (3)川野は、日本助産学会誌編集委員会の査読委員を務め、投稿論文の査読を行った。
- (4)川野は、日本看護理工学会編集委員会の査読委員を務め、投稿論文の査読を行った。
- (5)川野は、Nursing and Health Scienceの査読委員を務め、投稿論文の査読を行った。
- (6)川野は、Journal of American Psychiatric Association の査読委員を務め、投稿論文の査読を行った。
- (7)川野は、Archives of Women's Mental Healthの査読委員を務め、投稿論文の査読を行った。
- (8)川野は、栃木県母性衛生学会会誌「とちほ」編集委員会の査読委員を務め、投稿論文の査読を行った。
- (9)角川は、日本母性衛生学会「母性衛生」編集委員会の査読委員を務め、投稿論文の査読を行った。
- (10)角川は、日本助産学会会誌「日本助産学会会誌」編集委員会の査読委員を務め、投稿論文の査読を行った。
- (11)角川は、日本母性看護学会会誌「日本母性看護学会会誌」編集委員会の査読委員を務め、投稿論文の査読を行った。
- (12)角川は、栃木県母性衛生学会会誌「とちほ」編集委員会の査読委員を務め、投稿論文の査読を行った。

3) 学会発表抄録の査読

- (1)成田は、第27回日本看護管理学会学術集会の査読委員を務め、学会発表抄録の査読を行った。
- (2)成田は、第32回日本新生児看護学会学術集会の査読委員を務め、学会発表抄録の査読を行った。
- (3)成田は、第43回日本看護科学学会学術集会の査読委員を務め、学会発表抄録の査読を行った。
- (4)川野は、第32回日本新生児看護学会学術集会の査読委員を務め、学会発表抄録の査読を行った。
- (5)川野は、第37回日本助産学会学術集会の査読委員を務め、学会発表抄録の査読を行った。
- (6)川野は、第10回日本フォレンジック看護学会の

査読委員を務め、学会発表抄録の査読を行った。

- (7)角川は、第64回日本母性衛生学会総会・学術集会の査読委員を務め、学会発表抄録の査読を行った。

4) 学外研究助成金・学位論文等の審査

- (1)成田は、埼玉県立大学の埼玉県立大学研究評価委員を務め、埼玉県立大学奨励研究発表会への参加と評価を行った。
- (2)川野は、令和6(2023)年度 日本学術振興会「基盤研究(B)」課題の専門的な見地からの審査意見書作成者として意見書を作成した。
- (3)川野は、総合病院土浦協同病院の研究発表会への参加と講評を行った。

5) 学会のシンポジウムなどの座長

- (1)成田は、第27回日本看護管理学会学術集会において、口演「COVID19対応/災害看護」の座長を務めた。
- (2)成田は、第18回日本ルーラルナーシング学会において、口演「へき地・離島診療所における看護」の座長を務めた。
- (3)成田は、第32回日本新生児看護学会学術集会において、シンポジウム「NICU/GCUを退院する児と家族への退院支援～退院後の家族の思いや活用可能な支援を知り、入院中のケアを再考する～」を企画し、座長を務めた。
- (4)成田は、第39回日本糖尿病妊娠学会学術集会において、教育講演4「当代謝異常妊娠の食事療法指導のコツ」の座長を務めた。
- (5)川野は、第32回日本新生児看護学会学術集会において、シンポジウム「明日を担うNICUナースの育成 一多職種との連携および協働できる力を身につけよう！」を企画し、座長を務めた。

6) 非常勤講師、研修会等講師

- (1)成田は、オンデマンド開催の日本母性看護学会糖代謝異常妊産褥婦への看護支援セミナー+助産師外来での在宅妊娠糖尿病患者指導管理料獲得を目指すセミナーのうち、「糖尿病と妊娠期の糖代謝状態の基礎知識」「糖代謝異常妊産褥婦の看護の基本～周産期の糖代謝異常の血糖コントロールと食事・運動～」「診療報酬の仕組みと在宅妊娠糖尿病患者指導管理料」の講義を担当した。
- (2)川野は、日本女子大学家政学部非常勤講師として「家庭看護学」の科目責任者を担当した。
- (3)角川は、栃木県立衛生福祉大学校保健看護学部

看護学科専科において「母性看護学方法論Ⅱ」について非常勤講師を務めた。

- (4)二宮は、対面およびオンラインによるハイブリット開催の栃木県助産師会総会時研修会、助産師の専門性を活かす再々支援・防災対策のうち、「栃木県助産師会の災害対策」の講義を担当した。

7) 学術団体・職能団体等の委員会活動

- (1)成田は、日本母性看護学会看護政策検討委員会の副委員長を務めた。
- (2)成田は、栃木県助産師会副会長兼事務局長として、研修会の開催および事務業務を総括した。
- (3)川野は、日本プライマリ・ケア連合学会の関東甲信越ブロック支部担当委員を務めた。
- (4)川野は、日本助産学会の編集委員会の委員を務めた。
- (5)角川は、日本母性看護学会の理事として、高度実践看護推進委員会の委員長を務めた。
- (6)角川は、日本母性看護学会の母性看護APN将来像構想プロジェクトの委員を務めた。
- (7)角川は、日本母性衛生学会の代議員を務めた。
- (8)二宮は、栃木県助産師会の災害対策委員を務めた。

8) その他

- (1)上野は、とちぎ多胎ネットプレファミリー教室（2023.9.17さくら産後院開催，2024.3.2 ミナテラスとちぎ開催）を支援した。
- (2)成田，川野，角川，上野，谷田部，二宮，前田は自治医科大学周産期総合医療センターNICU会誌「すくすくクラブ」の原稿を執筆した。

小児看護学

教授 春山 早苗

1. スタッフの紹介

准教授 田村 敦子

講師 小西 克恵

助教 飯島 早絵

2. 教育の概要

1) 小児看護学に関する教育概要

- (1)生涯発達看護学概論Ⅱ（小児期）（1年次後学期2単位：必修）

田村が科目責任者として総括し、小西、飯島が分担して実施した。

- (2)小児実践看護学Ⅰ（2年次前学期2単位：必修）

小西が科目責任者として担当し、飯島が分担して実施した。また、朝野春美非常勤講師（栃木県看護協会）が2時間講義を担当した。

- (3)小児実践看護学Ⅱ（2年次後学期2単位必修）小児期看護実習につながる小児特有の疾患やその看護ケアについて学習する。

田村が科目責任者として総括して実施した。大海佳子臨地教授、照井慶太非常勤講師（医学部小児外科学教授）、田村大輔非常勤講師（医学部小児科学准教授）が2時間ずつ講義を担当した。演習は、田村、小西、飯島、堀田富士江（臨時教員）で実施した。

- (4)小児実践看護学Ⅲ（3年次前学期2単位:必修）

小西が科目責任者として総括して実施した。講義は、飯島が分担して実施した。村松一洋非常勤講師（医学部小児科学教授）、小野滋非常勤講師（京都府立医科大学大学院小児外科学教授）が2時間ずつ講義を担当した。演習は、田村、小西、飯島、堀田富士江（臨時教員）、久保さとみ（臨時教員）で実施した。

- (5)小児期看護実習（3年次前学期2単位：必修）

田村が科目責任者として総括した。小西、飯島、堀田富士江（臨時教員）が担当した。

2) 小児看護学以外の担当教育概要

- (1)看護基礎セミナー（1年次前学期1単位：必修）

田村が分担者としてグループを担当した。

- (2)文献講読セミナー（2年次前学期1単位：必修）

小西が分担者としてグループを担当した。

- (3)看護研究セミナー（3年次後学期1単位：必修）

田村、小西、飯島は分担者としてグループを担当した。

- (4)看護総合セミナー（4年次通年4単位：必修）

母性看護学成田、田村、小西、飯島、看護基礎科学鹿野で小児看護学領域に配置された学生9名を指導した。

- (5)総合実習（4年次前学期2単位：必修）

田村、小西、飯島で小児看護学領域に配置された学生9名を指導した。フィールドとして、自治医科大学とちぎ子ども医療センター2A病棟、3A病棟、4A病棟、PICU、小児外来を使用した。

- (6)看護トピックス（4年次後学期1単位：必修）

【小児看護学】では田村が統括し、本学附属病院看護部加藤、吉田が一部講義を担当した。

- (7)へき地と生活の看護（1～4年次後学期1単位：選択）

田村は、演習グループを担当した。

3. 研究活動の概要

- 1) 研究プロジェクトの参加：研究費申請し採択され、研究代表者の場合

- (1)田村は、文部科学省科学研究補助金（基盤研究（C））による研究課題「肝移植を経験した発達に特性を持つ思春期患者の自立支援プログラムの構築」の研究代表者として参加し、同研究を実施した。研究分担者は埼玉県立小児医療センター（臨床研究部）・移植外科・センター長水田耕一、聖路加国際大学教授小林京子、自治医科大学医学部准教授眞田幸弘、大手前大学国際看護学部准教授望月明見、上智大学人間科学部看護学科助教手塚園江であった。

4. 社会貢献活動の概要

- 1) 臨地のスタッフなどへの研究指導（学外・学内）

- (1)田村は、自治医科大学附属さいたま医療センター 3A病棟の看護師を対象に、研究課題「小児患者における末梢静脈末梢静脈注射投与前のヘパリンロック通水による血管外漏出早期発見の有効性」について研究指導を行った。

2) 論文の査読

- (1)田村は、日本ルーラルナース学会学会誌の査読委員を務めた。

- (2)田村は、自治医科大学看護学ジャーナル 投稿論文1本の査読を行った。

3) 学会発表抄録の査読

- (1)田村は、第32回日本新生児看護学会学術集会抄録集の企画運営委員として、査読編集などを務めた。

4) 学外研究助成金・学位論文等の審査

- (1)田村は、聖路加国際大学大学院博士後期課程学生1名の博士論文研究計画審査委員を務めた。

5) 学術団体・職能団体等の委員会活動

- (1)田村、小西、飯島は、第32回日本新生児看護学会学術集会（横浜）2023年11月3日（金）・4日（土）の実行委員を務めた。

6) その他

- (1)田村、小西、飯島は自治医科大学周産期総合医療センターNICUで、退院後の育児、相談や親同士の交流を目的に月一回行っている「すくすくクラブ」の会誌の原稿執筆を行った。
- (2)田村は、学校法人さつき幼稚園の評議員を務めた。
- (3)小西は、高校の大学訪問企画（2023年10月13日）で校内案内を担当した。

成人看護学

教授 村上 礼子

1. スタッフの紹介

教授 村上 礼子

教授 長谷川 直人（2023年4月1日昇進）

准教授 佐藤 幹代

講師 古島 幸江

講師 渡邊 賢治

助教 小川 晴香（2023年4月1日着任，
2023年8月1日から出産・育児休暇）

取得資格：看護師，保健師

学歴：自治医科大学看護学部卒業，自治医科大学大学院看護学研究科博士前期課程
修了；修士（看護学）

職歴：自治医科大学附属さいたま医療センター看護師，自治医科大学看護学部助教（成人看護学）

助教 舘沼 麗奈（2024年3月31日退職）

2. 教育の概要

成人看護学の教育目標は，成人期にある対象の生活と健康課題の理解に基づき，多種多様な機能障害をもち，様々な診療を受ける成人とその家族に必要な看護を創造するための基礎的能力を培うことである。

1）成人看護学に関する教育概要

村上が学科目責任者として学科目全体を統括した。

(1)生涯発達看護学概論Ⅲ（成人期）（1年次後学期1単位：必修）

村上が科目責任者として統括し，村上が13時間，長谷川が2時間の講義を担当した。

(2)成人実践看護学Ⅰ（機能障害別看護）（2年次前学期2単位：必修）

村上が科目責任者として統括し，村上が4時間，佐藤が8時間，長谷川が6時間，古島が6時間，渡邊が6時間の講義を担当した。

(3)成人実践看護学Ⅱ（診療看護）（2年次後学期2単位：必修）

古島が科目責任者として統括し，長谷川が6時間，佐藤が6時間，古島が14時間，渡邊が4時間の講義を担当した。

(4)成人実践看護学Ⅲ（実践演習）（2年次後学期1単位：必修）

長谷川が科目責任者として統括し，長谷川が2時間の講義を担当し，演習28時間は，成人看護学全教員が担当し，急性期ならびに回復期・慢性期の看護過程を展開した。

(5)成人期健康危機看護実習（3年次前学期2単位：必修）

古島が科目責任者として統括し，古島，小川，舘沼が3クール（6週間），佐藤，渡邊が2クール（4週間），長谷川，非常勤教員の直井が村上の指導の下で1クール（2週間）を担当した。

(6)成人期長期療養看護実習（3年次前学期2単位：必修）

長谷川が科目責任者として統括し，長谷川，佐藤，渡邊が3クール，古島，小川，舘沼が2クール（4週間）を担当した。

2）成人看護学以外の担当教育概要

(1)看護基礎セミナー（1年次前学期1単位：必修）

村上，長谷川，小川がグループ別セミナーを担当した。

(2)文献講読セミナー（2年次前学期2単位：必修）

佐藤が科目責任者として統括し，佐藤が8時間の講義を担当し，佐藤，古島，渡邊がグループ別セミナーを担当した。

(3)看護総合セミナー（4年次通年4単位：必修）

村上が統括し，成人看護学全教員が学生21名を指導した。

(4)総合実習（4年次前学期2単位：必修）

村上が統括し，成人看護学全教員が学生21名を指導した。

(5)看護トピックス（4年次後学期1単位：必修）

渡邊が成人看護学のトピックスの統括と主企画者として4時間の講義を担当し，村上が補佐した。

(6)多職種連携論Ⅰ（医療チーム）（2年次後学期1単位：必須）

渡邊が科目責任者として統括し，村上が2時間，長谷川が2時間，古島が2時間，渡邊が3時間の講義を担当し，6時間のグループワークは成人看護学全教員が担当した。

(7)へき地の生活と看護（1～4年次後学期1単位：選択）

古島がグループ別演習指導を担当した。

3. 研究活動の概要

1) 研究プロジェクトの参加：研究費申請し採択され、研究代表者の場合

(1)渡邊は、日本学術振興会学術研究助成基金助成金（基盤研究(C)）による研究課題「Loss of controlにあるALSの人々に「応答する看護」がもたらす影響」の研究代表者として参加し、同研究を実施した。研究分担者は、本学部教員の春山、鹿野であった。

(2)渡邊は、看護学部教員共同研究費による研究課題「周術期看護学領域で構築された理論・概念・立言分析に基づく術後急性期患者への看護実践の経験的検証」の研究代表者として参加し、同研究を実施した。共同研究者は、本学部教員の長谷川、古島、村上、佐藤、佐々木、小川であった。

(3)館沼は、看護学部教員共同研究費（臨地実習関連施設等との共同研究）による研究課題、「成人系看護実習のケースカンファレンスにおける看護学教員と臨床指導者との協働的教育活動の検討」の共同研究代表者は、本学部の古島、長谷川、佐藤、渡邊であった。

2) 研究プロジェクトの参加：研究費申請し採択され、研究分担者・研究協力者など（研究代表者以外）の場合

(1)村上は、厚生労働科学研究補助金事業（地域医療基盤開発推進研究事業）による研究課題、「人口動態や地域の実情に対応するへき地医療の推進を図るための研究」（研究代表：小谷和彦）に研究分担者として参加し、同研究を実施した。

(2)村上は、厚生労働科学研究補助金事業（地域医療基盤開発推進研究事業）による研究課題、「看護職及び特定行為研修修了者による医行為の実施状況の把握・評価のための調査研究」（研究代表：永井良三）に研究分担者として参加し、同研究を実施した。

(3)村上は、文部科学省科学研究補助金（基盤型研究(C)）による研究課題、「看護技術の完全習得学習を目的とした遠隔学習プログラムに関するデザイン研究」（研究代表：八木街子）に研究分担者として参加し、同研究を実施した。

(4)村上は、文部科学省科学研究補助金（基盤型研究(C)）による研究課題、「ウィズコロナ・ポストコロナ時代のリアリティをもつ「人体の構

造と機能」教授法の開発」（研究代表：神崎秀嗣）に研究分担者として参加し、同研究を実施した。

(5)村上は、文部科学省科学研究補助金（基盤型研究(C)）による研究課題、「特定行為を実践する看護師に対する意思決定支援トレーニングプログラムの開発」（研究代表：関山友子）に研究分担者として参加し、同研究を実施した。

(6)長谷川は、厚生労働科学研究補助金事業（地域医療基盤開発推進研究事業）による研究課題、「看護職及び特定行為研修修了者による医行為の実施状況の把握・評価のための調査研究」（研究代表：永井良三）に研究協力者として参加し、同研究を実施した。

(7)佐藤は、日本学術振興会学術研究助成基金助成金（基盤研究(C)）による研究課題、「慢性疼痛患者に対するライフリテラシーを用いたソーシャルワークのプログラム開発」（研究代表者 日本福祉事業大学教授 小原真知子）に研究分担者として参加し、同研究を実施した。

(8)佐藤は、日本学術振興会学術研究助成基金助成金（基盤研究(C)）による研究課題、「看護基礎教育における糖尿病の【語り】を生かした」セルフマネジメント支援教材の開発」（研究代表者 神奈川県立保健福祉大学教授 高橋奈津子）に研究分担者として参加し、同研究を実施した。

(9)古島は、厚生労働科学研究補助金事業（地域医療基盤開発推進研究事業）による研究課題、「看護職及び特定行為研修修了者による医行為の実施状況の把握・評価のための調査研究」（研究代表：永井良三）に研究協力者として参加し、同研究を実施した。

(10)古島は、看護学部教員共同研究費（臨地実習関連施設等との共同研究）による研究課題、「ドレーン排泄における客観的な色指標の作成」（研究代表：佐々木彩加）に研究協力者として参加し、同研究を実施した。

4. 社会貢献活動の概要

1) 臨地のスタッフなどへの研究指導（学外・学内）

(1)村上、渡邊は、地方独立行政法人新小山市市民病院の看護師を対象に、院内研究の指導ならびに、研究指導の講演を行った。

(2)長谷川は、自治医科大学附属病院血液科病棟の

看護師を対象に、研究課題「造血細胞移植に携わる看護師の教育課程で抱く思い」について、研究指導を行った。

- (3)古島は、自治医科大学附属病院血液内科病棟の看護師を対象に、「無菌室入室中の同種造血幹細胞移植患者における生着後の食欲不振の影響要因の探索」について、研究指導を行った。
- (4)村上は、自治医科大学さいたま医療センター6B病棟の看護師を対象に、研究課題「低血糖による意識障害患者の身体拘束について一倫理的視点で考察する一」について、研究指導を行った。

2) 論文の査読

- (1)村上は、日本クリティカルケア看護学会「日本クリティカルケア看護学会誌」の査読委員を務め、投稿論文2本の査読を行った。
- (2)村上は、日本看護科学学会「日本看護科学学会誌」の査読委員を務め、投稿論文2本の査読を行った。
- (3)村上は、日本看護管理学会「日本看護管理学会誌」の査読委員を務め、投稿論文2本の査読を行った。
- (4)長谷川は、日本看護科学学会「日本看護科学学会誌」の査読委員を務め、投稿論文1本の査読を行った。
- (5)長谷川は、日本糖尿病教育・看護学会の専任査読者を務め、投稿論文1本の査読を行った。
- (6)佐藤は、日本クリティカルケア看護学会「日本クリティカルケア看護学会誌」の査読委員を務め、投稿論文1本の査読を行った。
- (7)佐藤は、日本保健医療社会学会「保健医療社会学論集」の査読委員を務め、投稿論文1本の査読を行った。
- (8)佐藤は、公益社団法人 日本看護協会「日本看護学会誌」の査読委員を務め、投稿論文1本の査読を行った。
- (9)古島は、日本手術看護学会「日本手術看護学会誌」の専任査読委員を務め、投稿論文1本の査読を行った。
- (10)古島は、公益社団法人 日本看護協会「日本看護学会誌」の査読委員を務め、投稿論文2本の査読を行った。

3) 学会発表抄録の査読

- (1)村上は、第17回日本ルーラルナース学会学術集会の査読委員を務め、学会発表抄録の査読を行った。

- (2)村上は、第22回栃木看護学会の企画委員・査読委員を務め、学会発表抄録の査読を行った。

- (3)村上は、第42回日本クリティカルケア看護学会学術集会の査読委員を務め、学会発表抄録の査読を行った。

- (4)村上は、第27回日本遠隔医療学会学術集会の査読委員を務め、学会発表抄録の査読を行った。

- (5)長谷川は、第27回日本糖尿病教育・看護学会学術集会の学会発表抄録の査読を行った。

- (6)古島は、第54回日本看護学会学術集会の学会発表抄録の査読を行った。

4) 学会のシンポジウムなどの座長

- (1)村上は、日本集中治療医学会第7回関東甲信越支部学術集会において、一般演題の座長を務めた。

- (2)村上は、第5回日本在宅医療連合学会大会において、シンポジウム「在宅医療教育と人材育成」を企画し、座長を務めた。

- (3)村上は、第19回日本クリティカルケア看護学会学術集会において、一般演題の座長を務めた。

- (4)佐藤は、第19回日本クリティカルケア看護学会学術集会において、一般演題の座長を務めた。

- (5)古島は、第37回日本手術看護学会年次大会において、トピックスⅣ「実現可能な遠隔手術支援技術」の座長を務めた。

5) 非常勤講師、研修会等講師

- (1)村上は、「2023年度看護師特定行為研修指導者リーダー養成研修会（全日本病院協会主催）」において、講師を務めた。

- (2)村上は、第50回日本集中治療医学会学術集会のシンポジウムにおいて、「看護師に使用される包括的指示の理解とその運用」についてシンポジストを務めた。

- (3)長谷川は、栃木県看護協会の実習指導者講習会において、「実習指導方法演習」について講師を務めた。

- (4)佐藤は、栃木県看護協会の実習指導者講習会において、「実習評価」について講師を務めた。

- (5)佐藤は、栃木県看護協会 一般研修において、「患者にしか語れない言葉に耳を傾け患者主体の看護を創造する」について講師を務めた。

- (6)古島は、第37回日本手術看護学会年次大会のシンポジウムにおいて、「これからの手術看護認定看護師に期待すること 看護職生涯発達学の視座から」についてシンポジストを務めた。

(7)古島は、昭和大学認定看護師教育センターにおいて、専門科目（認定看護師カリキュラム）手術看護技術Ⅰの非常勤講師を務めた。

(8)古島は、日本手術看護学会四国地区研修会（愛媛地区）において、「看護研究Advance」の講師を務めた。

6）学術団体・職能団体等の委員会活動

(1)村上は、日本ルーラルナーシング学会の理事・評議員として副事務局長を務めた。

(2)村上は、栃木県看護協会の栃木看護学会の企画委員を務めた。

(3)村上は、日本クリティカルケア看護学会の評議員で、利益相反委員会の副委員長を務めた。

(4)村上は、日本集中治療医学会の集中治療タスクシェアに関する安全指針作成WGのメンバーを務めた。

(5)村上は、日本看護研究学会の評議員を務めた。

(6)村上は、日本看護技術学会の評議員を務めた。

(7)村上は、看護師の特定行為に係る指定研修機関連絡会の理事を務めた。

(8)村上は、一般社団法人 日本地域医療学会専門医制度委員会の専門医認定部会委員を務めた。

(9)村上は、一般社団法人 日本遠隔医療学会の運営会議評議員を務めた。

(10)村上は、公益社団法人日本看護科学学会の和文誌専任査読委員を務めた。

(11)村上は、日本ルーラルナーシング学会誌の査読委員を務めた。

(12)村上は、日本クリティカルケア看護学会誌の専任査読委員を務めた。

(13)佐藤は、日本保健医療社会学会の評議委員を務めた。

(14)佐藤は、日本学術振興会の科学研究費助成金審査委員を務めた。

(15)佐藤は、認定特定非営利活動法人（NPO）健康と病いの語りディベックス・ジャパンの理事を務めた。

(16)古島は、日本手術看護学会の指名理事・評議員を務めた。

(17)古島は、日本手術看護学会教育統括委員会・清潔野補助業務に係る教育制度構築ワーキングのリーダーを務めた。

(18)古島は、日本手術看護学会の学会認定制度委員会委員を務めた。

(19)古島は、日本ルーラルナーシング学会の広報委

員会委員を務めた。

7）その他

(1)村上は、医療法人徳洲会 札幌徳洲会病院特定行為研修管理委員会において、外部委員を務めた。

(2)村上は、エルゼビア・ジャパン株式会社の「ナーシング・スキル 特定行為研修」の監修を行った。

(3)古島は、AORN JOURNAL日本語版の編集委員を務めた。

(4)古島は、第37回日本手術看護学会年次大会のランチョンセミナー「おもいはひとつ！術中トラブルゼロを目指した機器運用術！～チームで築く安全・安心な内視鏡外科手術～」の司会を務めた。

老年看護学

教授 浜端 賢次

1. スタッフの紹介

教授 浜端 賢次

助教 沼野 莉奈

助教 國府田 望（2023年4月1日着任）

取得資格：看護師・保健師

学歴：自治医科大学大学院看護学研究科博士
前期課程修了，自治医科大学看護学部卒業

職歴：自治医科大学附属病院（看護師）

助教 馬場 彩音（2023年4月1日着任）

取得資格：看護師・保健師

学歴：自治医科大学看護学部卒業

職歴：市立札幌病院（看護師），札幌禎心会病院（看護師），埼玉県済生会加須病院（看護師），千葉西総合病院（看護師），市立札幌大学（教員補助教員・実習インストラクター）

2. 教育の概要

老年看護学の教育目標は，老年期における対象者の特性や健康上の課題，さらには生活上の問題や家族にも焦点を当て，学びを深めることにある。急性期の治療を必要とする高齢者への看護や慢性疾患を抱えながら自宅や施設，病院で生活する高齢者とその家族への看護を学び，老年看護に必要な基本的な知識と技術を身につけることを目指している。

1) 老年看護学に関する教育概要

(1)生涯発達看護学概論Ⅳ（1年次前学期1単位：必修）

浜端が科目責任者として担当し，非常勤講師（上野まり氏）の協力を得て実施した。講義内容は，老年看護学の概念及び歴史ならびに理論的背景，老年期にある人の身体的，精神的，社会的側面の特徴の理解など，老年看護学の基盤となる知識を習得することを目的とした。

(2)老年実践看護学Ⅰ（2年次前学期1単位：必修）

浜端が科目責任者として担当し，特定行為研修センター川上勝氏と非常勤講師（上野まり氏，鮎澤みどり氏）の協力を得て実施した。講義内容では，老年期にある高齢者の暮らしや健康課題を学び，日常生活を支える看護の役割とケアシステム

を学ぶことを目的とした。

(3)老年実践看護学Ⅱ（2年次後学期1単位：必修）

浜端が科目責任者として担当し，特定行為研修センター川上勝氏と非常勤講師（上野まり氏）の協力を得て実施した。講義内容では，エンパワメントを生み出す看護援助の方法を基盤とし，高齢者の健康障害や特有な疾患，生活機能レベルをふまえた看護活動や終末期の看護などを学習することを目的とした。また，隣接する附属病院看護部より，太田信子臨床講師，小松郷香臨床講師，宮沢玲子臨床講師，田村恵理子臨床講師による講義を加え，高齢者の退院支援事例を紹介する講義を実施した。

(4)老年実践看護学Ⅲ（3年次前学期1単位：必修）

今年度は，前期に旧カリキュラム（3年生），後期に新カリキュラム（2年生）を展開し，年間2回同科目を実施した。

浜端が科目責任者として担当し，特定行為研修センター川上勝氏と非常勤講師（上野まり氏）の協力を得て実施した。また，隣接する附属病院看護部の太田信子臨床講師ならびに3名の助教（沼野・國府田・馬場）と共に，ワークシートを用いて演習を展開した。老年看護学の理論，知識，技術を踏まえ，健康段階に応じた老年看護ならびに老年在宅看護技術を習得することを目的とした。

(5)老年期看護学実習（3年次前学期2単位：必修）

浜端が科目責任者として担当し，3名の助教（沼野・國府田・馬場）と共に実習を展開した。老年期にある対象の療養の場の移行に関わる看護，または生活の場における看護の実際と介護職等他職種との連携の実際を学ぶことを目的とし，県内の二次医療機関4施設，介護保険関連施設8施設にて看護実習を展開した。二次医療機関ならびに介護保険関連施設では，老年期にある人の疾病や治療，ケアの特徴や生活への影響，多職種協働や連携の学びを深めた。

(6)老年在宅看護実習

浜端が科目責任者として担当し，地域看護学の教員ならびに特定行為研修センター川上勝氏，沼野助教との協力を得て実施した。

健康課題をもつ老年期にある人への，在宅での生活に及ぼす影響を理解することを目的とし，栃木県ならびに茨城県の訪問看護ステーション16施設にて看護実習を展開した。学生は在宅療養者の健康課題に対して，介護保険法をふまえ必要な社

会資源やサービス等についての学びを深めた。

2) 老年看護学以外の担当教育概要

(1)看護基礎セミナー（1年次前学期2単位：必修）

浜端は科目責任者の役割を果たし、山岸助教と10名の学生を担当した。沼野助教は長谷川教授、國府田助教は塚本教授とそれぞれ学生9名を担当した。

(2)看護総合セミナー（4年次通年4単位：必修）

浜端5名、特定行為研修センター川上勝氏3名、國府田助教2名、沼野助教1名、計11名の学生を老年看護学で担当した。看護実践課題に沿った先行研究の文献検討、総合実習に向けた実習計画書の作成及び実践に基づくレポート作成に向けた指導を行った。

(3)総合実習（4年次前学期2単位：必修）

浜端が統括し、特定行為研修センター川上・勝氏・3名の助教（沼野・國府田・馬場）を含めた教員が11名の学生の研究テーマに合わせて、実習場所及び対象者を選定し、実習内容が研究テーマに沿うよう配慮しながら指導を行った。

(4)看護トピックス（4年次通年1単位：必修）

特定行為研修センター川上勝氏と2名の助教（沼野・國府田）を中心に、9名の学生を対象として講義と演習を展開した。学習目的は、高齢者ケアにおけるロボット技術活用の現状と課題の理解と今後の展望とし、学びの共有のため成果発表の機会を設けた。

(5)看護管理学（4年次前期1単位：必修）

浜端は、高齢者関連施設・訪問看護ステーションの管理を中心として看護管理の実際と課題について教授した。

3. 研究活動の概要

1) 研究プロジェクトの参加：研究費申請し採択され、研究代表者の場合

(1)沼野は、看護学部教員共同研究費による研究課題「病期からみるパーキンソン患者と家族の疾病との向き合い方に関する研究」の研究代表者として参加し、同研究を実施した。共同研究者は、本学部教員の浜端、國府田であった。

4. 社会貢献活動の概要

1) 臨地のスタッフなどへの研究指導（学外・学内）

(1)浜端は、自治医科大学埼玉医療センターの看護師を対象に、研究課題「認知症看護に関する課題」について、研究指導を行った。

(2)浜端は、庄原赤十字病院（広島県）の看護管理者を対象に、研究課題「新人看護師に実施した入職前研修の効果」について、研究指導を行った。

(3)浜端は、社会医療法人中山会宇都宮記念病院の総合センター保健師を対象に、研究課題「リーダーシップの在り方」について、研究指導を行った。

2) 論文の査読

(1)浜端は、自治医科大学医学部紀要において、論文1本の査読を行った。

(2)浜端は、自治医科大学看護学ジャーナルにおいて、論文1本の査読を行った。

3) 非常勤講師、研修会等講師

(1)浜端は、栃木県看護協会の看護師職能Ⅱ委員会研修において、「在宅領域における多職種連携」の講師を務めた。

(2)浜端は、医療法人徳真会真岡病院の看護管理者・臨床指導者の研修において、「老年期看護実習における実習の考え方と実習指導」の講師を務めた。

(3)浜端は、医療法人社団全人会宇都宮中央病院の看護管理者・臨床指導者の研修において、「臨地実習教育における実習指導者の役割」の講師を務めた。

(4)浜端は、医療法人社団全人会宇都宮中央病院の看護管理者・臨床指導者の研修において、「臨地実習における実習指導の実際」の講師を務めた。

(5)浜端は、医療法人社団全人会宇都宮中央病院の看護管理者・臨床指導者の研修において、「臨地実習を受け入れるための実習準備」の講師を務めた。

総合科目担当

教授 春山 早苗

1. スタッフの紹介

准教授 八木 街子（2023年4月1日着任）

取得資格：看護師，保健師，看護師（NY州）

学歴：山形大学医学部看護学科卒業，山形大学大学院医学系研究科看護学専攻修了（修士（看護学）），熊本大学大学院社会文化科学部教授システム学専攻修了（博士（学術））

職歴：自治医科大学医学教育センター（非常勤講師），SimTiki Simulation Center, John A. Burns School of Medicine, University of Hawaii at Manoa（Research Scholar）

講師 佐々木 彩加

2. 教育の概要

1）総合科目に関する教育概要

- (1)看護総合セミナー（4年次通年4単位：必修）：八木，佐々木は，成人看護学領域の教員とともに学生を指導した。
- (2)総合実習（4年次前学期2単位：必修）：八木，佐々木は成人看護学領域の教員とともに学生を指導した。

2）総合科目以外の担当教育概要

- (1)文献講読セミナー（2年次前学期1単位：必修）：八木がグループ別セミナー（22時間）を担当し，佐々木が4時間の講義を担当した。
- (2)日常生活援助実習（2年次後学期3単位：必修）：佐々木が2クール（5週間）を担当した。
- (3)へき地の生活と看護（1～4年次後学期1単位：選択）：八木，佐々木が国外研修のグループ研修指導を担当した。

3. 研究活動の概要

1）研究プロジェクトの参加：研究費申請し採択され，研究代表者の場合

- (1)佐々木は，看護学部教員共同研究費による研究課題「ドレーン排液における客観的な色指標の作成」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。
- (2)八木は，日本学術振興会科学研究費助成事業 基

盤研究(C)による研究課題「看護職の遠隔学習における学習支援プログラムの開発」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。研究分担者は，熊本大学都竹茂樹，中野裕司，鈴木克明，放送大学山内豊明，名古屋市立大学益田美津美，本学看護学部教員村上礼子であった。

- (3)八木は，日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究(C)による研究課題「看護技術の完全習得学習を目的とした遠隔学習プログラムに関するデザイン研究」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。研究分担者は，放送大学山内豊明，名古屋市立大学益田美津美，清泉女学院大学上原明子，本学看護学部教員村上礼子，本学医学部教員浅田義和であった。

2）研究プロジェクトの参加：研究費申請し採択され，研究分担者・研究協力者など（研究代表者以外）の場合

- (1)佐々木は，厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）による研究課題「人口動態や地域の実情に対応するへき地医療の推進を図るための研究」（研究代表者：小谷和彦）に，研究協力者として参加し，同研究を実施した。
- (2)佐々木は，看護学部教員共同研究費による研究課題「周術期看護学領域で構築された理論・概念・立言分析に基づく術後急性期患者への看護実践の経験的検証－看護実践モデルの構築に向けた教材の開発－」（研究代表者：本学部教員渡邊）の共同研究者として参加し，同研究を実施した。
- (3)八木は，日本学術振興会 科学研究費助成事業（基盤研究(B)）による研究課題「看護臨床アセスメントモデル構築と人工知能による深層学習に向けた学際的探索研究」（研究代表者：山内豊明）に，分担研究者として参加し，同研究を実施した。
- (4)八木は，日本学術振興会 科学研究費助成事業（基盤研究(C)）による研究課題「救急看護の臨床判断力と看護実践力を磨く高度化したLMSの開発と実装」（研究代表者：苑田裕樹）に，分担研究者として参加し，同研究を実施した。
- (5)八木は，日本学術振興会 科学研究費助成事業（基盤研究(C)）による研究課題「若手助産師の臨床推論を高めるためのストーリー型オンライン教材の開発と検証」（研究代表者：上原明

子）に、分担研究者として参加し、同研究を実施した。

(6)八木は、日本学術振興会 科学研究費助成事業（基盤研究(C)）による研究課題「ICTを活用した医療者教育の転換：医療における次世代のブレンド型教育のあり方とは」（研究代表者：浅田義和）に、分担研究者として参加し、同研究を実施した。

(7)八木は、日本学術振興会 科学研究費助成事業（挑戦的研究(萌芽)）による研究課題「教育と臨床をつなぐクリティカルケア・バーチャルシミュレーションプログラムの構築」（研究代表者：益田美津美）に、分担研究者として参加し、同研究を実施した。

(8)八木は、日本学術振興会 科学研究費助成事業（基盤研究(B)）による研究課題「VRと模擬患者による高度実践看護師育成学際的シミュレーションモデルの実証研究」（研究代表者：益田美津美）に、分担研究者として参加し、同研究を実施した。

4. 社会貢献活動の概要

1) 論文の査読

(1)八木は、日本医学教育学会誌「医学教育」の編集委員を務め、投稿論文の査読を行った。

(2)八木は、教育システム情報学会誌にて、投稿論文の査読を行った。

(3)八木は、自治医科大学看護ジャーナルにて、投稿論文の査読を行った。

(4)八木は、日本シミュレーション医療教育学会誌にて、投稿論文の査読を行った。

2) 学会のシンポジウムなどの座長

(1)八木は、第55回日本医学教育学会大会においてポスターセッションの座長を務めた。

(2)八木は、国際シンポジウム「FUTURE SKILLS FOR HEALTHCARE PROFESSIONALS EDUCATION -INTEGRATION OF INFORMATION AND COMMUNICATION TECHNOLOGIES AND SIMULATION -（医療者教育に求められる未来スキル：ICTとシミュレーションの融合）」を主催した。

(3)八木は、第11回日本シミュレーション医療教育学会学術大会の「International Session」においてシンポジストを務めた。

(4)八木は、第11回日本シミュレーション医療教育

学会学術大会の「シミュレーション教育と現場を繋ぐデザイン」においてシンポジストを務めた。

(5)八木は、第15回日本医療教授システム学会総会学術集会の「シミュレーション活用の課題と展望」においてシンポジストを務めた。

3) 非常勤講師、研修会等講師

(1)八木、佐々木は、自治医科大学看護師特定行為研修センターの令和5年度看護師特定行為研修指導者講習会において、タスクフォースを務めた。

(2)佐々木は、地域社会振興財団の第1回看護師特定行為研修修了者スキルアップ研修会において、講師を務めた。

(3)八木は、岩手医科大学看護学部 FDにて「シミュレーションを基盤とした看護教育のデザインと実践」に関して講師を務めた。

(4)八木は、富山大学継続看護シンポジウム&看護学科FDにて「特定行為研修の教育場面で起こりうること・対応・配慮 ―研修生の学習支援―」に関して講師を務めた。

(5)八木は、文部科学省ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業 4大学連携 指導者養成講習会 地域医療共有のためのシミュレーション研修にて講師を務めた。

4) 学術団体・職能団体等の委員会活動

(1)八木は、日本医学教育学会誌「医学教育」の編集委員を務めた。

(2)八木は、日本moodle協会の会計担当理事、Proceedings 担当理事を務めた。

(3)八木は、一般社団法人日本臨床救急医学会、ISLS2023 検討小委員会委員を務めた。

5) その他

(1)佐々木は、日本ルーラルナース学会の事務局員を務めた。

大学院看護学研究科 教育の概要

実践看護学分野 「小児看護学領域」

准教授 田村 敦子

1. スタッフ紹介

准教授 田村 敦子

2. 大学院教育の概要

小児看護学は、様々な健康状態にある子どもがより良く育つことを目的に、子どもとその家族への看護の現状と将来的な展望を踏まえ、専門的な知識や研究課題を探究するとともに、高度な看護実践能力を育み、小児看護の充実と発展に寄与する人材の養成を教育目標にしている。

本年度は、在籍する学生はおらず、開講しなかった。

実践看護学分野 「母性看護学領域」

教授 成田 伸

1. スタッフ紹介

教授 成田 伸（令和6年3月31日退職）

教授 川野 亜津子

准教授 角川 志穂

2. 大学院教育の概要

母性看護学教育活動は、周産期の母子やその家族、各ライフステージにある女性とその家族の状況を理解し、女性の健康看護学、助産学に関連する実践的課題の改善・改革の方法や課題について追究する。

母性看護学の専門科目を履修した院生は1年生が1名、2年生が2名であった。

2023年度の開講科目と概要は、以下のとおりである。

「母性看護学講義Ⅲ（1年次後期2単位）」ハイリスク状態にある母子と家族に関する諸理論、周産期特有の心理社会的問題、周産期医療ケアに関連する最新のエビデンスについて学ぶ。また母子保健行政、周産期における医療の質と安全、周産期ケアシステムとその組織化に関する理論などについて理解し、母子と家族を支える社会的なシステムについて思考することを到達目標とした。1年生1名が受講した。

「母性看護学演習Ⅰ（1年次前期2単位）」医学的診断技術を含む、基礎的なフィジカルアセスメント能力を養う。また、プライマリケア院内助産システム、地域での母子と家族の支援方法、病院から地域に母子と家族をつなぐシステム等を理解して、高度看護実践の基盤となる母子と家族の包括的なアセスメントに必要な能力を養うことを到達目標とした。1年生1名が受講した。

「母性看護学演習Ⅱ（1年次前期2単位）」ハイリスク妊産婦・新生児のアセスメントとその支援の基礎的方法を身に付け、心理・社会的ハイリスク状態にある母子のスクリーニング、看護介入、組織的な支援について思考する。周産期医療において教育的機能、遺伝看護学の展開と遺伝カウンセリングの実際、ハイリスク母子と家族における倫理的課題について思考することを到達目標とした。1年生1名が受講した。

「母性看護学演習Ⅲ（1年次後期2単位）」周産期において正常経過から逸脱した対象者の産科学的診断・治療の実際について学び、症状アセスメントの技能を高めるとともに、ケースの状況・診断・治療に応じた看護的な支援について思考する。周産期における正常経過から逸脱した対象者のケアについて、それぞれのエビデンスの臨床への応用について思考し、根拠に基づいた高度な看護介入の実践における産科医師との協働について思考できることを到達目標とした。1年生1名が受講した。

「母性看護学演習Ⅳ（1年次後期2単位）」正常経過から逸脱した対象者の症状アセスメントや根拠に基づいた看護介入、介入における職種間協働について理解し、周産期医療において調整機能を発揮できる能力を養う。業務管理、社会参画の方法、周産期の母子援助とそのシステムを充実・発展させるうえでのリーダーシップについて、演習を通して修得することを到達目標とした。1年生1名が受講した。

「母性看護専門看護実習Ⅰ（2年次前期6単位）」高度医療施設、周辺地域、へき地等で生活する、複雑な健康問題・生活状況にある母子とその家族に対する支援を実践し、専門看護師の実践において必要な能力を養うことを到達目標とした。2年生1名が受講した。

「母性看護専門看護実習Ⅱ（2年次後期4単位）」高度医療施設内あるいはへき地医療施設内に入院している複雑な健康問題・生活状況にある母子に対して問診、フィジカルアセスメント、超音波検査、胎児心拍数モニタリング等を用いて、医師と協働した情報収集を行い、その結果から、母子と家族を包括的にアセスメントし、必要な看護介入を査定し、医師との協働による介入を実施し、必要なケアを展開できる能力を養うことを到達目標とした。2年生1名が受講した。

「母性看護課題研究（2年次後期4単位）」川野が2年生1名に対し、「加重型妊娠高血圧腎症で早産となった褥婦への産後1か月までの生活を支える看護実践と課題」をテーマとした修士論文の指導を行った。

以上の7科目を、成田、川野、角川が担当した。また、適宜セミナーを開催し、各院生の研究課題の検討を行った。

実践看護学分野 「クリティカルケア看護学領域」

准教授 佐藤 幹代

1. スタッフの紹介

准教授 佐藤 幹代

2. 教育の概要

主として身体的な健康危機状態にある患者とその家族を全人的に捉え、苦悩・苦痛を緩和し、危機的状态からの健康の回復と生活への適応に向けて専門的に看護をするために、状況に応じた総合的な判断力と組織的な問題解決能力を備えた高度な看護実践者を育成する。

本年度は、在籍する学生はおらず開講する科目はなかった。

実践看護学分野 「精神看護学領域」

教授 永井 優子

1. スタッフの紹介

教授 永井 優子

教授 半澤 節子

2. 大学院教育の概要

本領域では、人間の生涯にわたる精神的健康の増進から、重度の精神障害者の支援までを行う、精神看護における高度な実践専門職として、精神保健福祉における役割を果たすことができ、実践の状況を変革することができる人材を育成している。

共通科目の「実践看護研究論」「コンサルテーション論」は、精神看護学での研究を進めるうえで重要な科目であり、選択することを強く勧めている。標準履修では、必修の専門科目として、1年次前期に「精神看護学講義Ⅰ・Ⅱ」（各2単位）、2年次の前期に「精神看護学特別演習」（4単位）、後期に「実践看護学特別研究」（6単位）を教授している。選択科目（計8単位以上）として、1年次前期に「精神看護学演習Ⅰ・Ⅱ」（各2単位）、後期に「精神看護学講義Ⅲ」、「精神看護学演習Ⅲ」（各2単位）、2年次後期に「精神看護学演習Ⅳ・Ⅴ（各2単位）」を享受している。

精神看護専門看護師をめざす場合は、共通科目（各2単位）から指定された科目と修了後の目標を勘案して選択する選択科目を履修する。サブスペシャリティとして、「リエゾン精神看護」または「地域精神看護」のいずれかを選択し、「精神看護学演習Ⅳ」は前者、「精神看護学演習Ⅴ」は後者に対応して教授する。また、「精神看護専門看護実習Ⅰ・Ⅱ」は駒木野病院（東京都八王子市）で、専門看護師の役割と機能、精神科診断・治療と直接ケア、コンサルテーションおよびコーディネートについて実践的に教授する。「精神看護専門看護実習Ⅲ」は、サブスペシャリティに関する直接ケアの実習を展開し、専門看護師としての実践能力を養う。前者は福島県立医科大学附属病院で、後者はNPO法人多摩在宅支援センターの事業と株式会社円グループの訪問看護事業で行う。課題研究では、講義・演習・実習を履修する中で見出された精神看護領域における実践

的研究課題を踏まえて、高度な看護実践に関する事例研究、文献研究等を展開し、修士論文を作成する。

本年度の在学学生はいないため、授業科目は開講していない。

3. 研究の概要

精神科医療はもちろん、メンタルヘルス上の健康課題をもつ一般科の医療、精神科訪問看護や障害福祉サービス事業所等の地域包括ケアにかかわる精神保健看護活動、産業保健や学校保健における精神看護、など幅広い実践活動に係る研究に取り組むことが可能である。人権擁護、日常生活におけるセルフケア支援、ストレングス・モデル等を活用した看護実践上の課題などの研究テーマについて、事例研究を中心とした質的研究、統計的手法を用いた量的研究について指導する。

4. その他

本領域を選択した修了生は少ないものの、精神科病院や訪問看護ステーション等で看護師として、リハビリ志向の高度看護実践や教育・管理、看護系大学の精神看護学教員としての教育研究のキャリアを重ねている。

実践看護学分野 「がん看護学領域」

教授 小原 泉

1. スタッフの紹介

教授 小原 泉

教授 内堀 真弓

2. 大学院教育の概要

がん看護学では、わが国のがん医療の変化に対応した専門的な知識や看護実践方法を教授し、がん患者とその家族に生じる複雑な状況を的確に判断し、苦痛や苦悩を緩和し、生活の質の向上を実現する高度な看護実践を提供できる人材を育成することを目指した教育活動を行ってきた。

2023年度在籍者なしのため直接的な教育活動は行っていないが、がん看護専門看護師教育課程の更新から10年が経過したことから、再更新に向けて授業科目の大幅な見直しを行った。その結果、令和6年度から以下の内容で、がん看護学領域の授業科目を構成することとし、日本看護系大学協議会よりがん看護専門看護師教育課程の認定が更新された。

がん看護学講義Ⅰ：がんの分子生物学、病因（遺伝学を含む）と疫学、予防と検診、診断および治療法について最新の知識を得て、がん患者・家族に対する看護実践への適用方法を学習する。

がん看護学講義Ⅱ：がん患者・家族へ専門的な看護を実践するうえで基盤となる主要な概念や理論を学び、それぞれの概念や理論を研究として用いている論文を抄読する。さらに、自身の実践事例について概念や理論を用いて分析し、実践への活用方法を学習する。

がん看護学講義Ⅲ：がん患者の複雑な健康問題をアセスメントするために必要な知識を得て、がん患者・家族への包括的な看護実践の展開方法を学習する。

がん看護学演習Ⅰ：がん患者・家族に最適な緩和ケアを提供するための高度実践看護職に求められる役割・機能について、文献抄読ならびに実際の活動を知ることを通して理解を深め、プレゼンテーションやディスカッションの機会に説明する。がん看護学演習Ⅱ：講義、テーマについてのプレゼンテーションおよびディスカッション、高度な緩和ケア実践の見学を通して、がん患者の苦痛症

状を包括的にアセスメントし、症状緩和を図る看護実践方法を説明する。

がん看護学演習Ⅲ：がん患者・家族の療養過程で生じる倫理的課題ならびに看護システム上の課題を理解し、訪問看護や在宅看取り、死別の家族に対する看護の場の見学、プレゼンテーションならびにディスカッションを通して課題解決のための方略を探求する。

がん看護学演習Ⅳ：キュアとケアを統合した高度な緩和ケアをがん患者・家族に提供するための看護実践方法を修得する。特に臨床判断過程とケア計画については、シミュレーション学習を通して看護実践能力を向上させる。

がん看護学演習Ⅴ：文献検討の方法、概念や概念枠組み、代表的な研究デザインを学び、研究計画書の作成に必要な構成要素を理解して、がん看護学領域における知識の総体を拡充するための研究過程を概観する。

がん看護専門看護実習Ⅰ：CNS役割実習ではCNSの活動を見学し、見学内容からCNSの思考や行動、実践の評価の視点を考察し、CNSより指導を受ける。地域や組織の特性をふまえ、地域と連携して最適な緩和ケアを提供するために活動するCNSの思考や行動、実践の評価の視点を理解する。高度実践看護実習では、受け持ったがん患者・家族に地域と連携して最適な緩和ケアを提供する上で生じる課題に対して、CNSより指導を受けながら直接ケア・相談・調整・倫理調整・教育・研究役割を主体的に担う。複雑な健康問題をもつがん患者・家族に、地域と連携して最適な緩和ケアを提供するためのCNSの役割（直接ケア・相談・調整・倫理調整・教育・研究）を担う経験を通して、求められる実践能力や自己の課題を明らかにし、役割開発について探求する。

がん看護専門看護実習Ⅱ：外来および病棟でがん薬物療法を受け、症状緩和のための身体管理を要する患者を複数担当し、医師による臨床判断の内容や医療処置も含めた身体管理の方法を学ぶとともに、医師およびがん看護専門看護師のスーパーバイズの下で、患者の有害事象や苦痛の緩和に対する医学的な臨床判断の方法を理解し、キュアとケアを統合した最適な緩和ケアを提供するための看護実践を探求する。

地域看護管理学分野 「老年看護管理学領域」

教授 浜端 賢次

1. スタッフの紹介

教授 浜端 賢次

准教授 川上 勝

2. 大学院教育の概要

老年看護学の教育活動は、高齢者の特徴や発達課題などを踏まえ、倫理的課題を含めた老年看護管理学の課題について追究する。そして高齢者の生活や保健行動の視点から、心身機能の保持・回復に関わる専門的ケア提供体制や健康生活への支援などを検討できる人材の育成を目指している。

2024年度は、老年看護管理学の専門科目を履修した院生は3名であった。

【老年看護管理学講義Ⅰ】

前期2単位の必修科目として、3名の院生と2名の教員ならびに非常勤講師で15コマを分担し、老年看護管理学について基礎的な学修を進めた。講義を通じて、院生のこれまでの看護実践経験を振り返り、老年看護管理学に関する研究課題を見出せるように教員で支援した。

【老年看護管理学方法Ⅱ】

後期2単位の必修科目として3名の院生と2名の教員ならびに非常勤講師で15コマを担当した。講義では、高齢者の看護管理上の課題を地域（在宅、施設、病院など）の側面から文献検討し、ディスカッションしながら学修を深めた。

【老年看護管理学演習】

4単位の後期必修科目として指導教員を中心に3名の院生が履修した。院生自身の勤務するフィールドにおける高齢者に対する看護管理の実際を振り返り、看護管理及び実践上の課題について教員2名ならびに非常勤講師とディスカッションしながら学修を深めた。

【老年看護管理学特別演習】

前期4単位の必修科目として、1名の院生に対し2名の教員が対応した。研究課題をより明確化し、課題解決のための研究方法を具体的に説明で

きるよう、表現するための能力向上を目指し、個別指導を中心に実施した。

【老年看護管理学特別研究】

後期6単位の必修科目として、1名の院生が対象であったが、実際には指導には至らなかった。

老年看護管理学以外の担当教育概要

【地域医療論】

前期2単位の必修科目として、7名の院生が履修した。1名は理由があり受講できなかったため、最終的に6名の院生が修了した。講義は浜端、春山、塚本、小谷、ならびに非常勤講師の北田の5名で担当し、地域に根ざした医療や保健を展開する方法を学び、地域医療における看護の役割について深く学ぶことができた。

3. その他

次年度の院生の受け入れのための準備を行った。

地域看護管理学分野 「地域看護管理学領域」

教授 春山 早苗

1. スタッフの紹介

教 授 春山 早苗

教 授 塚本 友実

准教授 島田 裕子

2. 教育の概要

地域看護管理学の履修者は、2年生が4名（2年目2名、3年目1名、4年目が1名）で、4名とも長期在学制度を利用していた。また、2年生1名（2年目）が5月より休学、1名（4年目）が9月末日付で退学した。

地域看護管理学では、地域特性に応じた政策立案や地域資源づくり、地域ケア体制づくり、その他の地域看護管理に関わる知識や技術を教授し、地域ケアの現場において管理的・指導的役割を担い、地域のニーズに合った看護サービス提供システムを改善・改革・創出できる人材育成を目指した教育活動をしている。令和5年度の開講科目は「地域看護管理学講義Ⅰ」（2単位、春山・塚本・島田）、「地域看護管理学講義Ⅱ」（2単位、春山・島田）、「地域看護管理学特別演習」（4単位、春山・塚本・島田）であった。

【地域看護管理学講義Ⅰ・Ⅱ】

講義Ⅰの授業目標は、文献検討や近年の地域看護活動の課題の検討を通して、地域看護管理に係る主要概念、地域における看護活動体制づくりの理論と考え方、地域資源の評価と開発に関わる看護活動について学修することである。科目等履修生1名が履修した。

講義Ⅱの授業目標は、文献抄読により、へき地に住む人々のヘルスニーズと地域診断の視点、へき地看護理論の基礎、へき地看護活動の展開方法と看護管理体制のあり方について学修することである。科目等履修生1名が履修した。

【地域看護管理学特別演習】

授業目標は、地域における看護提供機関の看護管理に関する改善・改革の課題を達成するための研究的アプローチを検討し、研究を計画することである。2年生1名が履修した。文献検討、並びに、

学生自身の研究テーマと関連させて、群馬県吾妻郡中之条町のへき地診療所等及び草津町においてフィールドワークを行い、ゼミと個別指導により、研究計画を精練した。

【地域看護管理学特別研究(地域看護管理学領域)】

塚本が2年生1名の研究指導を行った。

修士論文のテーマは「特定機能病院における退院後訪問の導入と定着に向けた看護師長の看護管理」であった。

地域看護管理学分野 「診療看護技術管理学領域」

教授 村上 礼子

1. スタッフの紹介

教授 村上 礼子

教授 長谷川 直人

准教授 八木 街子（2023年4月1日着任）

取得資格：看護師，保健師，看護師（NY州）

学歴：山形大学医学部看護学科卒業，山形大学大学院医学系研究科看護学専攻修了（修士（看護学）），熊本大学大学院社会文化科学部教授システム学専攻修了（博士（学術））

職歴：自治医科大学医学教育センター（非常勤講師），SimTiki Simulation Center, John A. Burns School of Medicine, University of Hawaii at Manoa（Research Scholar）

2. 大学院教育の概要

診療看護技術管理学の履修者は，2年生2名（うち1名は長期履修制度利用者），1年生1名（2023年6月退学）であった。その他，科目等履修生が前学期に1名，後学期に2名いた。

診療看護技術管理学では，地域医療や高度医療の現場における安全・安心，かつ効果的な特定行為を含む診療看護技術の提供ならびに提供体制の構築を目的としている。具体的には，診療看護技術の効果的な提供体制のための改善・改革の課題抽出や，特定行為研修を含めた看護技術教育に必要な知識・技術の教授を行い，安全かつ効果的な医療・看護提供体制構築のための管理的・指導的役割を担う人材を育成している。

1）診療看護技術管理学に関する教育概要

(1)診療看護技術管理学講義Ⅰ（1年次前学期2単位：必修）

講義Ⅰでは，診療看護技術の概念および特徴について文献検討を行いつつ，診療看護技術の安全性を高めるための開発・改善から提供システムづくりに必要な他職種・他部門との連携・調整および，在宅，介護施設，病院などでのチーム医療の在り方の理論と考え方を理解することを到達目標とした。6月までは1年生1名が履修した。その他，

科目等履修生1名が履修した。村上と長谷川が担当した。

(2)診療看護技術管理学講義Ⅱ（1・2年次後期2単位：必須）

講義Ⅱでは，保健医療福祉制度や医療政策，組織特性などを踏まえ，継続教育を視野に入れた診療看護技術の教育体制のあり方とその実際を理解することを到達目標とした。科目等履修生2名が履修した。村上と長谷川が担当した。

(3)診療看護技術管理方法Ⅰ（1・2年次前期2単位：必須）

方法Ⅰでは，様々な医療現場における診療看護技術の提供体制の構築における倫理的課題，チーム医療の一員としての看護専門職としての役割について実践例や先行研究の知見から検討することを到達目標とした。6月まで1年生1名が履修した。院生の経験や興味関心の高い文献の文献検討，主に研究設計の検討を実施した。長谷川，村上，八木が担当した。

(4)診療看護技術管理方法Ⅱ（1・2年次後期2単位：必修）

方法Ⅱでは，診療看護技術の安全な提供のために，地域，組織特性を踏まえて組織内の関係職種との連携・協働体性の構築方法や診療看護技術の維持・向上のための教育活動の方法について，実践事例や国内外の文献から検討することを到達目標とする。2023年度は開講していない。

(5)診療看護技術管理学演習（1・2年次後期4単位：必修）

演習では，安全かつ安心な診療看護技術の開発・改善，提供方法や，病院，介護施設，在宅などにおける他職種との連携を踏まえた看護管理活動について，実践・評価を行い，診療看護技術の医療提供システムづくりに関する改善・改革の課題を探究することを到達目標とする。2023年度は開講していない。

(6)診療看護技術管理学特別演習（2年次前期4単位：必須）

特別演習では，看護技術が必要なそれぞれの場の特徴を踏まえ，看護職の役割拡大に伴う安全・安心な診療看護技術の開発・改善，チーム医療の推進につながる医療提供システムづくりに取り組むための研究課題の明確化とその研究課題を解決するための研究方法を検討することを到達目標とした。2年生2名が履修した。研究倫理審査申請書

を作成できるよう，ゼミと個別指導により，研究計画書を検討した。村上，長谷川，八木が担当した。

(7)診療看護技術管理学演習特別研究（2年次後期6単位：必修）

特別研究では，看護職の役割拡大に伴うスキルの開発・改善や，安全・安心な医療提供システムづくりに寄与することのできる研究課題を探究し，研究活動を展開し，修士論文を作成することを到達目標とした。病院，会議施設，在宅などにおける人々への看護技術提供について，それぞれの場の特性を踏まえた高い看護技術の開発・改善や看護技術提供システムづくりに取り組む研究課題を探究した。村上が担当し，2年生1名が履修した。

共通科目

大学院看護学研究科委員会幹事長 永井 優子

看護学研究科博士前期課程のカリキュラムでは、高度看護実践力の育成強化を中心に編成し、共通科目と専門科目を置いている。共通科目は、高度実践看護職として機能するために、看護学領域を超えて共通に必要な実践、教育、相談、研究、倫理、管理、ならびに地域医療に関する学識を習得するために置かれている。配当年次はすべて1年次で、必修科目は「看護管理・政策論」（2単位）のみで、専門看護師教育課程共通科目の「看護管理論」「看護政策論」（各1単位）に相当する。

選択科目は全10科目（原則各2単位）である。専門看護師を目指す場合は、選択科目として専門看護師教育課程共通科目の「病態生理学特論」「フィジカルアセスメント特論」「臨床薬理学特論」の3科目、加えて「看護実践研究論」「コンサルテーション論」「看護倫理」「看護継続教育論」のうち3科目以上を選択して、計12単位以上を取得する必要がある。その他の選択科目として「地域調査法」「地域医療論」「Academic Writing & Oral Presentation」（本科目のみ1単位、1～2年次）の4科目がある。

標準モデルでの履修の場合、選択科目の指定はなく、計8単位以上を取得する。共通科目は2名以上の履修希望があった場合に開講されるが、専門看護師教育課程共通科目と認定された科目の履修希望者が専門看護師を目指す者である場合は、1名であっても開講される。

1. 必修科目（ ）内は科目責任者を示す

【看護管理・政策論】（春山早苗教授）

到達目標は、保健・医療・福祉システムにおいて有効に機能する看護活動や管理の組織化の方法、ならびに看護職の資質向上のための制度改革や政策決定に関する看護職の働きかけについて理解することである。保健医療福祉システムのなかで質の高いケアを提供するための高度実践看護職の機能と役割、医療チーム内の調整や関係者間の調整、管理的立場にある看護職との協働、制度改革への高度実践看護職の働きかけについて、担当教員2名と非常勤講師2名で教授した。履修学生数5名（科目等履修生2名を含む）。

2. 選択科目（ ）は科目責任者を示す

【病態生理学特論】（倉科智行准教授）

到達目標は、日常的によくみられる病態を系統的に理解し、より高度な看護実践に向け、エビデンスに基づいた病態生理学的状態を判断するために必要な知識と技術を習得することである。今年度は対面で、症候からみた病態生理について相互に学習成果を発表し質疑応答形式で理解を深めた。また事例演習を通して実際の看護判断に必要な病態の捉え方を学習した。担当教員5名で教授した。履修学生数2名。

【フィジカルアセスメント特論】（村上礼子教授）

到達目標は、高度実践看護職として複雑な健康問題をもった対象の身体状況を査定し、臨床判断を行うために必要な知識と技術を修得することである。シミュレーター学習を取り入れ、フィジカルイグザミネーションと複雑な健康問題に対する臨床判断プロセスを磨く技能について担当教員1名がWeb教材を活用した遠隔授業を展開し、非常勤講師2名も加わりシミュレーション演習にて教授した。履修学生数1名。

【臨床薬理学特論】（大塚公一郎教授）

到達目標は、薬剤の人体における作用機序、体内動態、有益な効果と有害な効果、薬剤使用の判断を理解し、投与後の患者のモニタリング、患者の服薬管理など専門看護師に実践について考えられることである。臨床薬理学の基礎知識と看護職による患者の服薬管理の向上を図るための薬剤調整に関する知識と技術を担当教員2名と非常勤講師13名で教授した。今年度は新型コロナウイルス感染症のため、講義に関してはe-learningで教授し、事例検討による演習については、テーマに関するレポート課題を、学生にMoodleに提出させ指導を行った。履修学生数1名。

【看護実践研究論】（半澤節子教授）

到達目標は、看護学分野における研究の発展について理解し、自らの臨床経験を踏まえながら先行研究におけるエビデンスをさらに発展させた看護研究課題を設定し、適切な研究方法とその展開方法を理解することである。文献検討および研究論文のクリティーク、各種研究方法について院生の研究課題に基づいて指導し、研究計画作成に向け

た基礎的知識の修得を図る。今年度は講義および院生とのディスカッションについてe-learningを用いて行った。履修学生数1名。）

【コンサルテーション論】（永井優子教授）

到達目標は、コンサルテーションに関する理論と倫理的側面を含むコンサルテーションをめぐる問題や課題について検討し、コンサルテーションの実際について理解することである。担当教員1名で8回、非常勤講師1名1回、さらに、広瀬寛子非常勤講師による看護カウンセリングに係る集中講義を3回行った。グループコンサルテーション演習（集中3回）は、卒業生2名と駿郷精神看護学助教の協力を得て最少催行人数4人で実施した。履修学生数1名。

【看護倫理】（小原泉教授）

到達目標は、医療現場における生命倫理の現実的な課題と看護職の倫理的行動、および看護場面での複雑な判断を要する倫理的課題について、関係職種間の調整、提言など看護専門職の立場から果たすべき機能について理解することである。倫理的行動と倫理的责任、倫理的分析と倫理的意思決定、ケアの倫理と生命倫理のパラダイム、倫理教育について担当教員1名と非常勤講師3名で教授した。履修学生数3名（科目等履修生1名を含む）。

【看護継続教育論】（塚本友栄教授）

到達目標は、看護ケアの質を高めるために必要な看護職への教育的な働きかけとして、さまざまな学習形態をとる教育環境づくりの方策、基盤となる教育的かかわりの方策を理解することである。履修学生の所属組織の実際に沿った教育環境づくりの方策、教育的かかわりに関する理論などについて担当教員3名で教授する。科目等履修希望者が1名いたが、履修希望者がなく、開講されなかった。

【地域医療論】（春山早苗教授）

到達目標は、地域に根差した医療や保健を展開する方法を理解することである。地域ニーズのとらえ方、ニーズに即した医療の提供方法、地域の保健医療福祉施設の有機的な連携、医療資源のアウトソーシングの実際について担当教員3名と非常勤講師2名で教授した。履修学生数4名（科目等

履修生2名を含む）。

【地域調査法】（春山早苗教授）

到達目標は、地域における健康問題や健康ニーズを把握するための調査方法、収集した資料やデータの分析方法、結果の読み方などを理解することである。地域において効果的かつ効率的な看護・保健活動やその管理的活動を展開する上に必要な地域の健康問題・健康ニーズを把握するための調査方法を講義と演習をとって担当教員3名と非常勤講師1名で教授する。科目等履修希望者が1名いたが、履修希望者がなく、開講されなかった。

【Academic Writing & Oral Presentation】

（成田 伸教授）

到達目標は、英文抄録の作成からプレゼンテーションまで、国際学会での研究発表に必要な知識と技術を修得することである。事前課題を提示し、課題を仕上げて参加することを促し、講義時間内では双方向のやり取りをめざしている。遠隔と対面授業を併用して実施した。分担する鹿野講師と2名で教授した。履修学生数2名。

博士後期課程 広域実践看護学分野

研究科長 春山 早苗

1. スタッフの紹介

教授 内堀 真弓	教授 大塚公一郎
教授 川野亜津子	教授 小原 泉
教授 塚本 友栄	教授 永井 優子
教授 成田 伸	教授 長谷川直人
教授 浜端 賢次	教授 春山 早苗
教授 半澤 節子	教授 村上 礼子
准教授 角川 志穂	講師 鹿野 浩子
講師 関山 友子	

2. 教育の概要

博士後期課程の学生は、2年生1名、3年生7名（3年目2名、4年目2名、5年目1名、6年目1名、7年目1名）で、全員が長期在学制度を利用していた。2年生1名が7月末日付で退学した。3年生1名が10月から休学した。

博士後期課程では、ヘルスケアシステムや看護提供システムを視野に入れつつ複数の看護専門領域の視座を理解した上で、看護に関する問題の全体像と本質を捉え探究し、看護学を発展させることのできる教育研究者の育成を目指した教育活動をしている。今年度の専門科目の開講科目は「広域実践看護学特論Ⅰ」（2単位、必修）、「広域実践看護学演習」（2単位、必修）、「広域実践看護学特別研究」（6単位、必修、1～3年次）であった。また、令和2年度カリキュラムから、学生の学修のしやすさを考慮して「広域実践看護学特別研究」を「広域実践看護学特別研究Ⅰ」（3単位、必修、1年次～看護学研究計画審査会にて研究計画書の承認を得るまで）と「広域実践看護学特別研究Ⅱ」（3単位、必修、看護学研究計画審査会にて研究計画書の承認後～3年次）の2科目とした。専門関連科目の開講科目は「地域保健医療研究論」（2単位、選択）であった。

【広域実践看護学特論Ⅰ（ヘルスケアシステム・看護管理研究法）春山・成田担当】

本科目では、講義やプレゼンテーション、討議をとおして、看護ケアやヘルスケアシステムを効果・効率的に提供するためのヘルスケアシステム及び看護提供システムの構築・マネジメント、施

策・政策化に関わる看護実践の開発に関する研究方法を探究する。科目等履修生2名が履修したが単位修得は1名であった。

【広域実践看護学演習】

本科目では、先行研究の知見の総括・評価を行い、その成果から研究課題を焦点化し、研究計画に反映できる学修となることを目指す。

2年生1名が、システムに関するテーマについては＜ヘルスケアシステム・看護管理＞（春山担当）を、看護ケアに関するテーマについては＜メンタルヘルスケア＞（半澤担当）を選択したが退学したために履修に至らなかった。

【広域実践看護学特別研究Ⅰ・Ⅱ（旧カリ 広域実践看護学特別研究）】

研究指導教員を表に示す。

広域実践看護学特別研究Ⅰを3年生1名（4年目）が単位修得した。

博士前期課程・博士後期課程合同研究セミナーは5月、9月、11月、1月に開催予定であったが、5月、1月はプレゼンテーションをする学生がおらず、開催しなかった。博士後期課程3年生（3年目）は、9月のセミナーでプレゼンテーションを行い、研究課題の設定、研究対象の明確化、研究方法の検討等について、研究指導教員以外の教員にも助言を得たり、博士前期課程の学生とも討議したりできる機会とした。

1名が学位論文審査に合格し、博士論文のテーマは「維持療法の期間における急性リンパ性白血病の患児の療養生活に関わる親の体験」であった。

【地域保健医療研究論 春山・非常勤講師担当】

本科目では、地域保健医療の将来像を踏まえ、医学、情報学等の他の学問分野における課題を見出し、人々を取り巻く地域保健医療システムに関する研究方法や最新の知見を学修する。2年生1名が履修予定であったが、退学したために履修に至らなかった。

表 研究指導教員

学年	学生	主研究指導教員	副研究指導教員
3	A	春山	川野・永井
	B	永井	小原・村上
3 4年目	A	成田	塚本・半澤
	B	春山	小原・長谷川
3 5年目	A	小原	成田・半澤
3 6年目	A	春山	永井・小原
3 7年目	A	村上	内堀・成田

研究業績録

- 注 1) 掲載対象は2023年1月1日から同年12月31日までである。
2) ゴシック体の人名は対象年に本学に所属していた者である。

看護基礎科学

(1) 著書

- 1) 大塚公一郎：病いのレジリエンス ナラティブにおける虚偽主題. 金剛出版, 東京, 2023.

(2) 総説・論文（実践報告・資料含む）

- 1) 大塚公一郎：日本に在住するラテンアメリカ人患者の診療経験から見た民族精神医学と相補主義について. ころと文化,21(2); 154-164,2023.
- 2) Koji Shibuya, Ken Ebihara, Manabu Takahashi, Tomoyuki Kurashina, Shuichi Nagashima, Kenta Okada, Shun Ishibashi:A Novel Missense MEN1 Mutation in a Sporadic Case of Multiple Endocrine Neoplasia Type 1 Complicated with Papillary Thyroid Carcinoma. JMA J,6(2);216-219,2023.
- 3) 鹿野浩子. 社会言語学からみた看護学のコミュニケーション研究—看護学会話分析との対比から—. 英米文学研究. 第58号：89-106. 2023.
- 4) 渡邊賢治, 鹿野浩子, 春山早苗. コントロール感覚の喪失を繰り返す筋萎縮性側索硬化症患者の内的・外的交渉の構造：メタ統合. 日本看護科学会誌. Vol. 49：419-428. 2023.

(3) 学会発表

- 1) 倉科智行, 武井祥子, 武井暁一, 永島秀一, 岡崎啓明, 海老原 健, 石橋 俊, 矢作直也：先端巨大症術後に顕在化した抗体陰性バセドウ病の1例. 第33回臨床内分泌代謝Update. 横浜. 2023年11月4日.(日本内分泌学会雑誌 99(2);603,2023)
- 2) Atsushi Hirao, Yoshikazu Nagao, Shiori Ashibe, Borjigin Sarantonglaga, Hiroko Shikano, Shiho Sumikawa, Sumikawa, Koichiro Otsuka: Educational effects on nursing students after experiencing practical training in intracytoplasmic sperm injection using bovine oocytes.7th International virtual conference of nursing and health sciences, online,12 MAY 2023
- 3) Shikano, Hiroko and Watanabe Kenji. What is the significance of repeating the same points? Home-visiting nurses' narrations about

deceased ALS patients. 6th International Online Conference on Nursing and Midwifery. Darkhan-uul Medical School, MNUMS. 2023.5.12.

(4) その他（訳書・報告書・学会以外での発表等）

- 1) 大塚公一郎：書評『跳ね返りとトラウマ—そばにいるあなたも無傷ではない』. ころと文化22(1);117-118, 2023
- 2) 平尾温司, 長尾慶和, 芦部詩織, Borjigin SARENTONGLAGA, 角川志穂, 鹿野浩子, 大塚公一郎, ウシの顕微授精および体外受精の体験が及ぼす教育的効果について, 第21回自治医科大学シンポジウム, 栃木県下野市, 2023年9月14日. 講演要旨集;p66, 2023年

基礎看護学

(1) 著書

- 1) 小原泉：第1章 易感染性にある患者の看護. 緊急度・重症度からみた症状別看護過程+病態関連図 第4版（井上智子，窪田哲朗 編集）. 医学書院（東京），298-306, 2023.
- 2) 小原泉：第3章 感覚障害のある患者の看護. 緊急度・重症度からみた症状別看護過程+病態関連図 第4版（井上智子，窪田哲朗 編集）. 医学書院（東京），413-422, 2023.
- 3) 内堀真弓：第1章 低体温. 緊急度・重症度からみた症状別看護過程+病態関連図 第4版（井上智子，窪田哲朗 編集）. 医学書院（東京），27-35, 2023.
- 4) 内堀真弓：第1章 脱水. 緊急度・重症度からみた症状別看護過程+病態関連図 第4版（井上智子，窪田哲朗 編集）. 医学書院（東京），111-120, 2023.
- 5) 石井容子，宮下光令：注目! がん看護における最新エビデンス 第62回 外来がん患者の症状等のセルフモニタリングが救急外来の受診と入院を減らす，日総研，エンド・オブ・ライフケア，7(2), 2023.
- 6) 石井容子：連載 えびでんす・あれんじ・なーしんぐ(EAN) - 実践力を上げる工夫 Patient Reported Outcome (PRO)を用いた苦痛の評価. 青海社，緩和ケア，11(522), 2023.

(2) 総説・論文（実践報告・資料含む）

- 1) Kohara, I., Fujiwara, N., Tamaki, S., Nakahama, H., Nosaki, A., Hosoya, M., Yabuki, M., Yamamoto, M., Kojima, C., Fujiwara, K.: Development of a Japanese Scale that Evaluates the Level of Nursing Support Provided to Patients for Decision-Making in Cancer Clinical Trials. *Journal of Cancer Education*, 38(5):1548-1556, 2023.
- 2) Kajimoto, Y., Honda, S., Suzuki, S., Mori, M., Tsubouchi, H., Nakao, K., Azuma, A., Shibutani, T., Nagao, S., Koyanagi, T., Kohara, I., Tamaki, S., Yabuki, M., Teng, L., Fujiwara, K., Igarashi, A.: Association between financial toxicity and health-related quality of life of patients with gynecologic cancer. *International journal of*

clinical oncology, 28(3):454-467, 2023.

- 3) Ishii Y., Ito N., Matsumura Y., Aoyama M., Kohara I., Murai K., Takeuchi K., Yokoyama T., Miyashita M. and Miyashita M.: Validity and reliability of the Integrated Palliative Care Outcome Scale for non-cancer patients. *Geriatrics Gerontology International*, 23(7): 517-523, 2023.
- 4) Ito N., Ishii Y., Aoyama M., Abo H., Sakashita A., Matsumura Y., Miyashita M.: Routine patient assessment and the use of patient-reported outcomes in specialized palliative care in Japan. *Journal of Patient Reported Outcomes*, 7(25): 1-11, 2023.
- 5) 福田彩子，小原泉：婦人科がん関連リンパ浮腫患者のセルフケアを促進する看護実践. 自治医科大学看護学ジャーナル，20: 43-55, 2022.
- 6) 野崎章子，森内加奈恵，小原泉，吉村健佑：特定機能病院有床精神科部門の特性－病床・医師数および地理的分布ならびに診療内容に関する記述的研究－. *総合病院精神医学*, 35(1): 22-30, 2023.
- 7) 石井容子，伊藤奈央，松村優子，横山孝子，青山真帆，宮下光令：Integrated Palliative care Outcome Scale (IPOS)の非がん患者への実施可能性と表面的・内容的妥当性の検討. *Palliat Care Res*, 18(4): 283-291, 2023.

(3) 学会発表

- 1) Fujiwara, N., Kohara, I., Tamaki, S., Yabuki, M., Yamamoto, M., Nakahama, H., Kojima, C., Nosaki, A., Tashiro, S., Yoshimura, K., Fujiwara, K.: Current perceptions of the role of nurses in cancer clinical trials. *International Gynecologic Cancer Society 2023 Annual Group Meeting*, Abstract(s):#383, Korea, November 5-7, 2023.
- 2) Ishii Y., Ito N., Matsumura Y., Aoyama M., Kohara I., Miyashita M.: Validity and Reliability of Integrated Palliative care Outcome Scale (IPOS) for Non-cancer Patients. *POS Workshop 2023 (Palliative Outcome Scale (POS and IPOS) Training Days)*. in London, England. May 15-16, 2023.
- 3) 山本真由美，小原 泉，藤原紀子，中濱洋子，小島千恵美，玉木秀子，矢吹みどり，野崎

章子，吉村健一，藤原恵一：がん臨床試験における患者の意思決定支援のための学習プログラムの有用性—受講者の意思決定支援の実践状況から—。第20回日本臨床腫瘍学会学術集会一般演題[P15-6]，福岡国際会議場，2023年3月16日。

- 4) 小原泉：産婦人科領域における患者とのパートナーシップ—治療選択における共有意思決定（Shared Decision Making）支援。第98回栃木県産科婦人科学会学術集会特別講演，オンライン開催，2023年9月3日。

- 5) 井上育子，内堀真弓，石井容子，弘田智香，福田順子，小原泉：臨地実習による看護学生のコミュニケーションスキルと共感性の変化。第43回日本看護科学学会学術集会，下関市，2023年12月10日。（第43回日本看護科学学会学術集会電子抄録集[P28-48](2023)）。

地域看護学

(1) 著書

- 1) 春山早苗：第1章 公衆衛生看護学概論 第Ⅱ節 公衆衛生看護の歴史 第2項～第3項. 最新公衆衛生看護学 第3版 2023年版 総論（宮崎美砂子，北山三津子，春山早苗，田村須賀子 編集）. 日本看護協会出版会（東京），33-106, 2023.
- 2) 春山早苗：第3章 公衆衛生看護活動の展開方法論 第Ⅳ節 地域ケア体制づくり 第1項～第3項1). 最新公衆衛生看護学 第3版 2023年版 総論（宮崎美砂子，北山三津子，春山早苗，田村須賀子 編集）. 日本看護協会出版会（東京），278-304, 2023.
- 3) 市川定子：第3章 公衆衛生看護活動の展開方法論 第Ⅳ節 地域ケア体制づくり 第4項. 最新公衆衛生看護学 第3版 2023年版 総論（宮崎美砂子，北山三津子，春山早苗，田村須賀子 編集）. 日本看護協会出版会（東京），309-318, 2023.
- 4) 春山早苗：第2章 健康課題の特性に応じた活動論 第Ⅳ節 感染症保健福祉活動 第1項～第5項. 最新公衆衛生看護学 第3版 2023年版 各論1（宮崎美砂子，北山三津子，春山早苗，田村須賀子 編集）. 日本看護協会出版会（東京），307-350, 2023.
- 5) 春山早苗：第2章 地域特性に応じた活動論 第Ⅰ節 へき地における公衆衛生看護活動 第1項 へき地における公衆衛生看護活動. 最新公衆衛生看護学 第3版 2023年版 各論2（宮崎美砂子，北山三津子，春山早苗，田村須賀子 編集）. 日本看護協会出版会（東京），144-155, 2023.
- 6) 塩ノ谷朱美，春山早苗：第2章 地域特性に応じた活動論 第Ⅰ節 へき地における公衆衛生看護活動 第3項 山村・豪雪地帯における公衆衛生看護活動. 最新公衆衛生看護学 第3版 2023年版 各論2（宮崎美砂子，北山三津子，春山早苗，田村須賀子 編集）. 日本看護協会出版会（東京），180-188, 2023.
- 7) 青木さぎ里：第2章 地域特性に応じた活動論 第Ⅰ節 へき地における公衆衛生看護活動 第2項 離島における公衆衛生看護活動 4) 離島における保健師活動の実際：小規模離

島町村における活動. 最新公衆衛生看護学 第3版 2023年版 各論2（宮崎美砂子，北山三津子，春山早苗，田村須賀子 編集）. 日本看護協会出版会（東京），170-180, 2023.

- 8) 春山早苗：第3章 公衆衛生看護管理活動論 第Ⅱ節 地域の健康危機に対する活動 第4項 健康危機の種類に応じた保健活動 2) 感染症健康危機管理. 最新公衆衛生看護学 第3版 2023年版 各論2（宮崎美砂子，北山三津子，春山早苗，田村須賀子 編集）. 日本看護協会出版会（東京），254-265, 2023.
- 9) 塚本友栄：第Ⅶ章 第2節 看護学生が直面しやすい問題：臨地実習を通して. 看護教育学（改訂第2版）：看護を学ぶ自分と向き合う（看護学テキストNiCE）（グレッグ美鈴，池西悦子 編集）. 南江堂（東京），225-234, 2023.

(2) 総説・論文（実践報告・資料含む）

- 1) 渡邊賢治，鹿野浩子，春山早苗. コントロール感覚の喪失を繰り返す筋萎縮性側索硬化症患者の内的・外的交渉の構造：メタ統合. 日本看護科学会誌，43：419-428, 2023. DOI: 10.5630/jans.43.419
- 2) 長谷川直人，村上礼子，八木街子，春山早苗，江角伸吾. 「特定行為に係る看護師の研修制度」指定研修機関の研修体制の実態. 厚生指標，70(1)：24-32, 2023.
- 3) 太田あゆ美，春山早苗. 市町村における保健活動上の人口減少による住民の課題と対策に関する文献レビュー. 自治医科大学看護学ジャーナル，20：17-24, 2023.
- 4) 塚本友栄，青木さぎ里，江角伸吾，島田裕子，春山早苗. 離島において多職種で取り組む高齢者への退院支援・調整の課題. 日本ルーラルナース学会誌，18：55-66, 2023.

(3) 学会発表

- 1) Murashima S., Taguchi A., Haruyama S., Hashimoto S.: Survey of the use of ICT in local government maternal and child health services in Japan. 26th East Asian Forum of Nursing Scholars 2023, Tokyo (Hybrid). March 10-11, 2023 (EAFONS 2023 Abstract Book4, 447, 2023)
- 2) Esumi S., Haruyama S., Tamura S., Miyashita

- H., Kotani K.: Examination of the Effectiveness of a Health Guidance Program Utilizing ICT Tools Intended to Support Male Continued Self-Management Behaviors. The 14th International Nursing Conference 2023, Seoul. November 2-3, 2023 (Presentation No.P-063)
- 3) 春山早苗, 江角伸吾, 市川定子, 初貝未来: 既存の電子データ活用による妊婦への保健師活動評価にむけた指標の検討. 第7回日本臨床知識学会学術集会, 東京, 2023年2月18日 (第7回日本臨床知識学会学術集会プログラム・抄録集, 19, 2023)
- 4) 田口敦子, 水流聡子, 春山早苗, 杉山大典, 宮川祥子, 赤塚永貴, 石川志麻, 加藤由希子, 平野優子, 村嶋幸代: DX時代の新たな保健師活動の質評価に向けてー保健師DX先進自治体の取り組みからみる今後の展望ー. 第7回日本臨床知識学会学術集会, 東京, 2023年2月18日 (第7回日本臨床知識学会学術集会プログラム・抄録集, 17, 2023)
- 5) 村嶋幸代, 田口敦子, 春山早苗: DX時代の保健師活動と課題 令和3年度研究事業「ICT活用による保健師活動評価手法開発事業」の結果より. 第7回日本臨床知識学会学術集会, 東京, 2023年2月18日 (第7回日本臨床知識学会学術集会プログラム・抄録集, 18, 2023)
- 6) 春山早苗, 市川定子, 江角伸吾: 既存の電子データ活用による妊婦への保健師活動評価にむけた指標の検討 (第2報). 第8回日本臨床知識学会学術集会, 東京, 2023年12月16日 (第8回日本臨床知識学会学術集会プログラム・抄録集, 18, 2023)
- 7) 岸範子, 春山早苗: 災害に備えた平時の体制整備に関する市町村保健師の活動. 日本地域看護学会第26回学術集会, 川崎 (ハイブリッド開催), 2023年9月2日～2023年10月31日 (日本地域看護学会第26回学術集会講演集, 248, 2023)
- 8) 尾島俊之, 島田裕子, 藤田利枝, 春山早苗: 新型コロナ流行時の保健所長の首尾一貫感覚 (SOC) 等と心理的苦痛. 第33回日本産業衛生学会全国協議会, 甲府, 2023年10月29日.
- 9) 佐々木彩加, 村上礼子, 春山早苗, 小谷和彦: 離島診療所看護師のICTを活用した看護実践の効果と課題. 日本ルーラルナース学会第18回学術集会, 新潟・津南, 2023年9月23日 (日本ルーラルナース学会第18回学術集会プログラム・抄録集, 40, 2023)
- 10) 市川定子, 春山早苗, 島田裕子, 岸範子, 雨宮有子, 岩瀬靖子, 奥田博子, 吉川悦子, 尾島俊之, 宮崎美砂子: 災害時保健活動の実際とマニュアルの比較検証 策定・見直しの過程から (第4報). 第82回日本公衆衛生学会総会, 茨城・つくば, 2023年10月31日 (第82回日本公衆衛生学会総会, 489, 2023)
- 11) 吉川悦子, 立石清一郎, 五十嵐侑, 宮崎美砂子, 尾島俊之, 奥田博子, 春山早苗, 雨宮有子, 岩瀬靖子, 草野富美子, 相馬幸恵, 築場玲子, 井口紗織, 花井詠子: 大規模自然災害発生時の保健師業務負荷軽減とメンタルヘルス対策の実際と課題: 第5報. 第82回日本公衆衛生学会総会, 茨城・つくば, 2023年10月31日 (第82回日本公衆衛生学会総会, 489, 2023)
- 12) 宮崎美砂子, 尾島俊之, 奥田博子, 春山早苗, 雨宮有子, 吉川悦子, 岩瀬靖子, 草野富美子, 相馬幸恵, 築場玲子, 立石清一郎, 五十嵐侑, 花井詠子, 井口紗織: 自治体における災害時保健活動マニュアルの策定及び活用の実態【第1報】. 第82回日本公衆衛生学会総会, 茨城・つくば, 2023年11月1日 (第82回日本公衆衛生学会総会, 492, 2023)
- 13) 奥田博子, 雨宮有子, 宮崎美砂子, 尾島俊之, 春山早苗, 吉川悦子, 立石清一郎, 五十嵐侑, 岩瀬靖子, 草野富美子, 相馬幸恵, 築場玲子, 井口紗織, 花井詠子: 災害時保健活動マニュアル策定における好事例の検討: 第2報. 第82回日本公衆衛生学会総会, 茨城・つくば, 2023年11月1日 (第82回日本公衆衛生学会総会, 492, 2023)
- 14) 雨宮有子, 奥田博子, 宮崎美砂子, 尾島俊之, 春山早苗, 吉川悦子, 岩瀬靖子, 草野富美子, 相馬幸恵, 築場玲子, 立石清一郎, 花井詠子, 井口紗織: 災害時保健活動マニュアル活用促進における好事例の検討【第3報】. 第82回日本公衆衛生学会総会, 茨城・つくば, 2023年11月1日 (第82回日本公衆衛生学会総会, 492, 2023)
- 15) 山縣千開, 春山早苗: 乳幼児を持つ低所得世帯への妊娠・出産・育児に関わる支援での市町村保健師活動の課題. 第82回日本公衆衛生学会

- 総会，茨城・つくば，2023年11月1日（第82回日本公衆衛生学会総会，419，2023）
- 16) 尾崎章子，阿部智子，川村佐和子，桑原由紀子，佐藤文俊，篠原かおる，渋谷智恵，莊司輝昭，高砂裕子，中島朋子，**春山早苗**：在宅における特定行為研修制度と実践 「訪問看護ステーションにおける特定行為研修制度普及事業」 全国訪問看護事業協会の取り組み，第5回日本在宅医療連合学会大会，新潟，2023年6月24日（第5回日本在宅医療連合学会大会プログラム・講演抄録集，176，2023）
- (4) その他（訳書・報告書・学会以外での発表等）
- 1) **春山早苗**，尾島俊之，雨宮有子，井口理，鈴木秀洋，江角伸吾，藤田利枝，福田昭子，塚本容子，**島田裕子**，佐藤太地，舟橋千尋：保健所における感染症対応職員の役割機能強化のためのガイドライン及び研修プログラムの開発，厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）「保健所における感染症対応職員の役割機能強化のためのガイドライン及び研修プログラムの開発」令和4年度 総括・分担研究報告書，1-9，2023.
- 2) **春山早苗**，尾島俊之，藤田利枝，**島田裕子**：非常時における保健所長の役割やリーダーシップ等のあり方並びにサポート体制の検討，厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）「保健所における感染症対応職員の役割機能強化のためのガイドライン及び研修プログラムの開発」令和4年度 総括・分担研究報告書，10-60，2023.
- 3) **春山早苗**，江角伸吾，福田昭子：新型コロナウイルス感染症への対応経験から見直した保健所体制および感染症対応業務に従事する保健師等人員体制の強化，厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）「保健所における感染症対応職員の役割機能強化のためのガイドライン及び研修プログラムの開発」令和4年度 総括・分担研究報告書，61-144，2023.
- 4) 江角伸吾，**春山早苗**，福田昭子，塚本容子：都道府県及び保健所設置市・特別区本庁並びに保健所におけるCOVID-19関連研修の実施及び受講の機会，厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）「保健所における感染症対応職員の役割機能強化のためのガイドライン及び研修プログラムの開発」令和4年度 総括・分担研究報告書，176-195，2023.
- 5) **春山早苗**，江角伸吾，市川定子，初貝未来：既存の電子データ活用による保健師活動評価に向けた指標の検討（第1報）－効率的・効果的な保健活動の展開における統括保健師の役割遂行に向けて－，厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）「ICT活用による保健師活動評価手法の開発及びPDCAサイクル推進に資する研究」令和4年度 総括・分担研究報告書，8-14，2023.
- 6) 田口敦子，村嶋幸代，**春山早苗**，水流聡子，杉山大典，宮川祥子，石川志麻，加藤由希子，平野優子，赤塚永貴：ICT活用による保健師活動評価手法の開発及びPDCAサイクル推進に資する研究，厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）「ICT活用による保健師活動評価手法の開発及びPDCAサイクル推進に資する研究」令和4年度 総括・分担研究報告書，1-7，2023.
- 7) **春山早苗**，**島田裕子**，市川定子，岸範子：災害保健活動の実際とマニュアルの比較検証，厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）「自治体における災害時保健活動マニュアルの策定及び活動推進のための研究」令和4年度 総括・分担研究報告書，53-69，2023.
- 8) 宮崎美砂子，尾島俊之，奥田博子，**春山早苗**，雨宮有子，吉川悦子，岩瀬靖子，草野富美子，相馬幸恵，築場玲子，立石清一郎，五十嵐侑，花井詠子，井口紗織：自治体における災害時保健活動マニュアルの策定及び活動推進のための研究，厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）「自治体における災害時保健活動マニュアルの策定及び活動推進のための研究」令和4年度 総括・分担研究報告書，1-15，2023.
- 9) 宮崎美砂子，尾島俊之，奥田博子，**春山早苗**，雨宮有子，吉川悦子，岩瀬靖子，草野富美子，相馬幸恵，築場玲子，立石清一郎，五十嵐侑，花井詠子，井口紗織：全国自治体を対象とした災害時保健活動マニュアルの策定・活用状況の実態調査，厚生労働科学研究費補助金（健

- 康安全・危機管理対策総合研究事業)「自治体における災害時保健活動マニュアルの策定及び活動推進のための研究」令和4年度 総括・分担研究報告書, 25-52, 2023.
- 10) 奥田博子, 雨宮有子, 宮崎美砂子, 尾島俊之, 春山早苗, 吉川悦子, 岩瀬靖子: 災害時保健活動マニュアル策定における好事例の検討. 厚生労働科学研究費補助金(健康安全・危機管理対策総合研究事業)「自治体における災害時保健活動マニュアルの策定及び活動推進のための研究」令和4年度 総括・分担研究報告書, 70-85, 2023.
- 11) 雨宮有子, 奥田博子, 宮崎美砂子, 尾島俊之, 春山早苗, 吉川悦子, 岩瀬靖子: 災害時保健活動マニュアルの活用推進における好事例の検討. 厚生労働科学研究費補助金(健康安全・危機管理対策総合研究事業)「自治体における災害時保健活動マニュアルの策定及び活動推進のための研究」令和4年度 総括・分担研究報告書, 86-103, 2023.
- 12) 春山早苗, 村上礼子, 佐々木彩加: へき地診療所におけるICTを用いた看護実践の実態に関する検討. 厚生労働科学研究費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業)「人口動態や地域の実情に対応するへき地医療の推進を図るための研究」令和4年度 総括・分担研究報告書, 14-17, 2023.
- 13) 小谷和彦, 前田隆浩, 井口清太郎, 小池創一, 松本正俊, 春山早苗, 村上礼子, 佐藤栄治, 佐々木彩加, 本多由紀子, 寺裏寛之, 中村晃久: 人口動態や地域の実情に対応するへき地医療の推進を図るための研究. 厚生労働科学研究費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業)「人口動態や地域の実情に対応するへき地医療の推進を図るための研究」令和4年度 総括・分担研究報告書, 1-4, 2023.
- 14) 小谷和彦, 前田隆浩, 春山早苗, 佐藤栄治, 福田英輝, 岡田基, 山本憲彦, 岩崎理浩, 小泉圭吾, 寺裏寛之, 中村晃久: 離島の医療提供体制の構築に向けた調査研究. 厚生労働行政推進調査事業費補助金(厚生労働科学特別研究事業)「離島の医療提供体制の構築に向けた調査研究」令和4年度 総括・分担研究報告書, 1-9, 2023.
- 15) 小谷和彦, 前田隆浩, 春山早苗, 岡田基, 小泉圭吾, 寺裏寛之: 離島におけるへき地診療所とへき地医療拠点病院の医療体制と診療に関する全国調査. 厚生労働行政推進調査事業費補助金(厚生労働科学特別研究事業)「離島の医療提供体制の構築に向けた調査研究」令和4年度 総括・分担研究報告書, 10-21, 2023.
- 16) 春山早苗, 安齋由貴子, 石田千絵, 岩村龍子, 奥田博子, 小寺さやか, 島田裕子: ウィズコロナ・ポストコロナ時代の地域と学校・職域との連携ー人々の健康を護る地域看護のあり方とはー. 日本地域看護学会誌, 26(2): 41-47, 2023.
- 17) 島田裕子, 春山早苗, 塚本友栄, 青木さざり, 江角伸吾, 朝川美也子, 江連正子, 若林佑樹, 小林藍, 小林正則, 桑島謙司, 鈴木祐孝, 井上永子, 隅谷サヨ子, 黒須重光, 黒川一巳, 菅井貞雄: 地域包括ケアシステムにおいて協働する住民の地域特性別発掘方略及び生活支援コーディネーターの活動方法に関する研究. 自治医科大学看護学ジャーナル 看護学部教員共同研究報告, 20: 59, 2023.
- 18) 春山早苗: 大学院で特定行為研修を受けることの意味. III退院支援・在宅移行支援 大学病院・地域拠点病院看護部との連携促進 1. 継続看護シンポジウム. 富山大学地域連携推進機構 地域医療・保健支援部門 地域包括ケアシステム推進事業 令和4年度報告書, 9-14, 2023.
- 19) 佐々木孝治, 松本珠実, 中澤よう子, 内田勝彦, 春山早苗, 辻一郎: 新春座談会 ポスト・コロナを見据えた地域保健のあり方. 週刊保健衛生ニュース, 2191: 2-23, 2023.

精神看護学

(1) **その他**（訳書・報告書・学会以外での発表等）

- 1) 半澤節子：科学研究費助成事業 2021年度研究成果報告書「精神科病棟における身体拘束の最小化および最短化に向けた基礎的研究」
令和4年6月29日, <https://kaken.nii.ac.jp/report/KAKENHI-PROJECT-18K10357/18K10357seika/>

母性看護学

(1) 著書

- 1) 成田伸（監修）：助産師基礎教育テキスト 2024年版 第3巻 助産サービス管理. 日本看護協会出版会, 2023; 成田伸：第1章 助産サービス管理, pp.2-14; 第2章 周産期における助産師の役割, pp.30-55; 第7章 助産所における助産サービス管理（武藤香子と共著）, pp.162-185.
- 2) 成田伸（監修）：助産師基礎教育テキスト 2024年版 第3巻 助産サービス管理. 日本看護協会出版会, 2023; 川野亜津子：助産師基礎教育テキスト2024年版 第3巻 助産サービス管理; 第5章 病院における助産サービス管理, pp.131-150.
- 3) 成田伸（監修）：助産師基礎教育テキスト 2024年版 第3巻 助産サービス管理. 日本看護協会出版会, 2023; 川野亜津子：助産師基礎教育テキスト2024年版 第3巻 助産サービス管理; 第6章 診療所における助産サービス管理, pp.151-159.
- 4) 成田伸（監修）：助産師基礎教育テキスト 2024年版 第3巻 助産サービス管理. 日本看護協会出版会, 2023; 角川志穂：助産師基礎教育テキスト2024年版 第3巻 助産サービス管理; 第4章 助産業務とリスクマネジメント, pp.89-129.

(2) 総説・論文（実践報告・資料含む）

- 1) 佐藤由華, 成田伸, 茂木さつき, 石橋俊：尿ケトン体陽性を示した妊娠糖尿病妊婦への支援方法の検討～事例を通して考える～. 栃木県母性衛生学会雑誌, 第49号, pp.24-30, 2023.
- 2) 山崎真依, 川野亜津子, 金澤悠喜：自閉症スペクトラムと類似した特性を持つ妊産婦に対する助産師の支援. 母性衛生, 第64号1巻, pp.173-179, 2023
- 3) Yuki Kanazawa, Komachi Ouki, Atsuko Kawano : Midwives' support during puerperium among women who have undergone infertility treatment. Journal of Maternity Care and Reproductive Health, 35(2), pp.113-121, 2023.
- 4) 金澤悠喜, 川野亜津子, 岡山久代：A大学における母性看護学実習のCOVID-19感染拡大前後の学生自己評価の比較. 茨城県母性衛生学会

誌, 41巻, pp.9-14, 2023.

- 5) 前田彩乃, 久保田隆子：女子大学生のダイエット志向と栄養状態の実態. 栃木県母性衛生学会雑誌, 第49号, pp.38-43, 2023.

(3) 学会発表

- 1) Noriko Yatabe, Yumi Kojima, Masuyo Ohshita, Shin Narita : Support for Women with Unexpected Pregnancies. INTERNATIONAL VIRTUAL CONFERENCE ON NURSING AND HEALTH SCIENCES（モンゴル医科大学ダルハン校, 自治医科大学, フランス赤十字社共催）, 遠隔開催, 2023年5月12日.
- 2) 徳永明日香, 川野亜津子：ストレス指標としてのSIgA（immunoglobulin A）に関する研究の動向と周産期女性への応用. 第64回日本母性衛生学会学術集会, 大阪, 2023年10月13日.（母性衛生 64(3);2023）
- 3) 上野知奈, 谷田部典子, 角川志穂, 大下倍代, 小嶋由美, 成田伸：育児期の母親のインターネット利用とヘルスリテラシーに関するスコopingレビュー. 第25回日本母性看護学会学術集会（東京有明）, 2023年5月28日.
- 4) 谷田部典子, 佐藤ひさ代, 大下倍代, 小嶋由美, 武藤香子, 成田伸：予期しない妊娠等の相談窓口. 第79回日本助産師学会, 東京（遠隔）, 2023年5月27日.
- 5) 山本緑, 成田伸, 藤川智子, 南部裕子：多胎プレパママ教室の開催～情報を届ける！ネットワーク作りのサポート～. 第48回栃木県母性衛生学会総会並びに学術集会（遠隔）, 2023年6月25日.
- 6) 谷田部典子, 上野知奈, 角川志穂, 大下倍代, 小嶋由美, 成田伸：予期せぬ妊娠をした女性を支援する組織の実態と課題 相談員からみた相談者の様相. 第64回日本母性衛生学会学術集会, 大阪, 2023年10月14日.（母性衛生 64(3);2023）
- 7) 前田彩乃, 二宮美由紀, 上野知奈, 谷田部典子, 角川志穂, 田中純, 大貫晃子, 藤川智子, 小嶋由美, 武藤香子, 成田伸, 川野亜津子：母乳育児に関わる支援者の認識に関する文献検討. 第64回日本母性衛生学会学術集会, 大阪, 2023年10月13日.（母性衛生 64(3);2023）
- 8) 二宮美由紀, 前田彩乃, 上野知奈, 谷田部典子,

角川志穂, 田中純, 大貫晃子, 藤川智子, 小嶋由美, 武藤香子, 成田伸, 川野亜津子: 母乳育児継続に関する母親側の要因についての文献検討. 日本母性衛生学会学術集会, 大阪府. 2023年10月13日 (日本母性衛生64(3); 249, 2023)

(4) その他 (訳書・報告書・学会以外での発表等)

- 1) Shiho Sumikawa: Current Status of Administrative Efforts for Perinatal Care on Remote Islands. 第21回自治医科大学シンポジウム, 2023.
- 2) Astushi Hirao, Shiho Sumikawa, Hiroko Shikano, Yoshikazu Nagao: Does the moving image of a cow progress the same effects as animal assisted-therapy? 第21回自治医科大学シンポジウム, 2023.
- 3) 川野亜津子: 科学研究費報告書2023「産後うつ予防システム確立に向けたバイオマーカーとしてのオキシトシンの有用性」基盤研究C, 2018-2023.
- 4) 川野亜津子: 土浦協同病院学術集会講評報告書2023.
- 5) 成田伸: 妊娠糖尿病既往から考える女性の長期的支援～看護職ができる予防と対策～. 第31回 京都母性衛生学会総会・学術集会, 特別講演, 2023年7月8日 (京都)

小児看護学

(1) 総説・論文（実践報告・資料含む）

- 1) 飯島早絵, 横山由美: 生体肝移植をうけた子どもの療養行動に対する母親の関わりのプロセス 普通でなさを感じながら育てる.自治医科大学看護学ジャーナル, 20; 33-41, 2023.
- 2) 小西克恵, 横山由美: 小児救急外来での子育て支援の検討. 自治医科大学看護学ジャーナル, 20; 25-32, 2023.

(2) 学会発表

- 1) 田村敦子, 小林京子, 手塚園江: 慢性疾患をもつ思春期の子どもの意思決定に関する概念分析 文化看護学会第15回学術集会, 千葉, 2023年3月19日. 文化看護学会第15回学術集会抄録集; 37, 2023.

成人看護学

(1) 著書

- 1) 渡邊賢治, 鹿野浩子, 春山早苗: コントロール感覚の喪失を繰り返す筋萎縮性側索硬化症患者的の内的・外的交渉の構造: メタ統合, 日本看護科学会誌, 43; 419-428, 2023.
- 2) Morishita-Kawahara, M. Harasawa, N. Sakai, S. Ikeda, M. Watanabe, K. Nagae, H.: Advance Care Planning Practice among Citizens in Japan: A Cross-Sectional Study, Journal of Japan Society for End-of-Life Care, 7(1), 16-25, 2023.

(2) 総説・論文 (実践報告・資料含む)

- 1) 長谷川直人, 村上礼子, 八木街子, 春山早苗, 江角伸吾: 「特定行為に係る看護師の研修制度」指定研修機関の研修体制の実態. 厚生労働省の指標, 70(1); 24-32, 2023.
- 2) 渡邊賢治, 鹿野浩子, 春山早苗: コントロール感覚の喪失を繰り返す筋萎縮性側索硬化症患者的の内的・外的交渉の構造: メタ統合. 日本看護科学会誌, 43; 419-428, 2023.
- 3) Morishita-Kawahara, M. Harasawa, N. Sakai, S. Ikeda, M. Watanabe, K. Nagae, H.: Advance Care Planning Practice among Citizens in Japan: A Cross-Sectional Study, Journal of Japan Society for End-of-Life Care, 7(1), 16-25, 2023.

(3) 学会発表

- 1) 山越裕美, 倉科憲太郎, 鈴木祥子, 佐々木彩加, 川上 勝, 村上礼子, 清水 敦, 佐田尚宏: 特定行為看護師によるイディアルボタンZEROを用いた胃瘻カテーテル交換の経験. PEG・在宅医療学会学術集会, 岐阜県, 2023年9月9日. (プログラム抄録集27回; 73, 2023)
- 2) 倉科憲太郎, 鈴木祥子, 山越裕美, 佐々木彩加, 川上 勝, 村上礼子, 清水 敦, 佐田尚宏: 大学病院における特定行為の展開とその課題 胃ろうカテーテル交換, PEG・在宅医療学会学術集会, 岐阜県, 2023年9月9日 (プログラム抄録集27回; 72, 2023)
- 3) 小川晴香, 村上礼子: クリティカル領域における特定行為看護師による人工呼吸器の離脱に

向けた実践, 日本クリティカルケア看護学会, 東京, 2023年7月2日 (学術集会抄録集19回; O11-4, 2023)

- 4) 白石裕子 (自治医科大学地域医療学センター総合診療部門), 加藤常充, 村上礼子, 阿江竜介, 小池創一, 小谷和彦, 松村正巳, 畠山修司: 患者・看護師・看護学部生を対象とした総合診療医の認知度とニーズに関する意識調査, 日本プライマリ・ケア連合学会, 愛知, 2023年5月 (学術大会14回; 225, 2023)
- 5) 村上礼子: 分かち合う責任, 助け合う安全 看護師に使用される包括的指示の理解とその運用, (日本集中治療医学会雑誌30 (Suppl.1); S282, 2023)
- 6) 渡邊賢治, 古島幸江: 看護系大学における大学生の自己決定型学習の準備性に関する文献検討, 日本看護研究学会第49回学術集会, Web開催, 2023年8月19日.
- 7) Watanabe, K.: How nurse support patients with ALS to maintain control over their symptoms: Review, 7th International Virtual Conference of Nursing and Health Sciences, Web開催, 2023年5月12日.
- 8) 井上智恵, 近藤ふさえ, 林優子, 滝口成美, 大池美也子, 安酸史子, 小平京子, 太田美帆, 伊波早苗, 横山悦子, 東めぐみ, 伊藤ひろみ, 小林貴子, 小田和美, 道面千恵子, 長谷川直人, 岡美智代, 小長谷百絵, 恩幣宏美, 大澤栄実, 下村裕子: 生活背景十人十色 病気とのつき合い方を患者とともに考えよう!—看護の教育的関わりモデル「生活者としての事実とその意味」—. 第28回日本糖尿病教育・看護学会学術集会, 岡山, 2023年9月24日.
- 9) 佐藤幹代, 古島幸江, 村上礼子, 長谷川直人, 渡邊賢治: 当事者と家族の語りを活用した長期的な療養を支える看護の授業方略. 日本看護学教育学会第33回学術集会, 福岡, 2023. 8月. (日本看護学教育学会第33回学術集会抄録集33; 113-113, 2023)
- 10) 瀬戸山陽子, 射場典子, 佐藤幹代, 中村千賀子, 森田夏実, 高橋奈津子, 戸沢智也, 原田雅義, 水野光, 山岡栄里, 横井郁子, 吉田恵理子: 患者の語り映像を使った授業案を考えて, 実際授業を体験しよう!. 医学教育共同利用拠点 岐阜大学医学教育開発研究センター主催,

第86回 医学教育セミナーとワークショップ，富山，2023年10月7日。

11) 戸沢智也，吉田恵理子，水野光，瀬戸山陽子，原田雅義，射場典子，佐藤幹代，高橋奈津子，森田夏実，横井郁子，山岡栄里：コロナ禍における DIPEX-Japan の語りのデータベースを活用した授業の展望.日本看護学教育学会第33回学術集会，福岡，2023年8月27日。（日本看護学教育学会第33回学術集会抄録集 33；36-36, 2023）

12) 古島幸江：医師の働き方改革改正法施行まで半年—内視鏡外科チームのさらなる団結— タスク・シェアの実現に向けた他職種連携型教育の構築．第36回日本内視鏡外科学会総会，東京，2023年12月7日。

13) 山口紀子，石田静江，堀口奈津美，坂本文子，古島幸江，坂上かおり，北向孝弘，丸岡美香，中村京子：実践指導看護師に期待される発信力，第37回日本手術看護学会年次大会，福岡，2023年10月28日。

(4) その他（訳書・報告書・学会以外での発表等）

1) 古島幸江：AORN eGUIDELINES+, Recommendation4. 滅菌ドレープ，AORN JOURNAL The OFFICIAL VOICE OF PERIOPERSTIVE NURSING, 1(2); 20-23, 2023.

2) 古島幸江：AORN eGUIDELINES+, Recommendation5. 滅菌物の開封，AORN JOURNAL The OFFICIAL VOICE OF PERIOPERSTIVE NURSING, 1(2); 24-28, 2023.

老年看護学

(1) 著書

- 1) 上野まり：地域・在宅看護論（尾崎章子，佐野けさ美編），医歯薬出版（東京），297－299，301－305，2023.
- 2) 上野まり：高齢者の健康と障害（堀内ふき編），メディカ出版（東京），272－281，2023.
- 3) 上野まり：在宅看護論（石垣和子，上野まり編），南江堂（東京），1－10，122－129，2023.

(2) 学会発表

- 1) 沼野莉奈，國府田望，浜端賢次：老年看護学の教科書にみるパーキンソン病患者に関する記述内容.第15回文化看護学会，千葉県立保健医療大学（千葉県），2023年3月19日．文化看護学会学術集会抄録集；26，2023.

(3) その他（訳書・報告書・学会以外での発表等）

- 1) 小此木百合香，上野まり，浜端賢次，川上勝，酒井千裕，鮎澤みどり，黒崎雅子：栃木県内訪問看護ステーションにおける看護実習受け入れ態勢の現状と課題，自治医科大学看護学ジャーナル，20，2023.

診療看護技術管理学

(1) 著書

- 1) Sayaka Oikawa, Maki Someya, **Machiko Yagi**, Benjamin W Berg: Remote Faculty Development Programs for Simulation Educators-Tips to Overcome Barriers. Advances in Smart Healthcare Paradigms and Applications Outstanding Women in Healthcare-Volume 1 (Halina Kwaśnicka, Nikhil Jain, Urszula Markowska-Kaczmar, Chee Peng Lim, Lakhmi C. Jain). Springer (Charn), 199-225, (2023)

(2) 総説・論文（実践報告・資料含む）

- 1) Yutaka Matsumoto, Haruna Hisaka, **Machiko Saeki Yagi**: Factors that Prevent Extensive Deceased-donor Kidney Transplantation among Japanese Women on Hemodialysis: Analysis of Patient Interviews. International Journal of Nursing & Clinical Practices, 10(1); 381, 2023.
- 2) 長谷川直人, 村上礼子, 八木街子, 春山早苗, 江角伸吾:「特定行為に係る看護師の研修制度」指定研修機関の研修体制の実態. 厚生の指標, 70(1); 24-32, 2023.
- 3) 八木(佐伯)街子:医療者に対するシミュレーション教育の米国での現状とその傾向. 安全工学, 62(3); 156-162, 2023.
- 4) 八木街子, 織井優貴子:シミュレーションを基盤とした看護教育のデザインと実践〈第7回〉. 日総研 看護人材育成, 20(2); 101-105, 2023.
- 5) 八木街子, 織井優貴子:シミュレーションを基盤とした看護教育のデザインと実践〈第9回〉. 日総研 看護人材育成, 20(4); 87-94, 2023.
- 6) 八木街子:看護教員のつぶやき8 シミュレーション教育を「知っている」から「実施できる」ようにするために. 看護教育, 64(6); 780-784, 2023.

(3) 学会発表

- 1) **Machiko Saeki Yagi**, Yuka Eto, Eri Sato, Benjamin W. Berg: Effects of Interactive Content in Online Training for Simulation Educators: An Analysis Using Mixed Methods. amee 2023, Glasgow. 2023年8月30日.

2) 衛藤由佳, 八木街子, John M. O'Donnell, Jannet Lee-Jayaram, Benjamin W. Berg: ピッツバーグ大学WISER (Winter Institute for Simulation, Education and Research) に学ぶ最近の気道管理教育 ～効率化と持続可能性. 第18回日本医学シミュレーション学会学術集会, 和歌山. 2023年1月7日.

3) 衛藤由佳, 八木街子, 佐藤絵梨, 小野健太郎, Jannet Lee-Jayaram, Benjamin W. Berg. Certified Healthcare Simulation Educator (CHSE®) Examinationの受験体験記. 第18回日本医学シミュレーション学会学術集会, 和歌山. 2023年1月7日.

4) 八木街子:シミュレーション活用の課題と展望. 第15回日本医療教授システム学会総会学術集会, 東京. 2023年3月17日.

5) 苑田裕樹, 八木街子, 増山純二, 喜多敏博:救急看護における体系的アプローチに基づいた臨床推論能力育成のための学習課題分析. 日本教育工学会2023年春季全国大会, 東京. 2023年3月26日.

6) 香田将英, 小川弘子, 伊野英男, 石田衛, 原田奈穂子, 大内元, 武田聡, 八木街子, Jannet Lee-Jayaram, Benjamin Berg: 地域医療教育における Co-learning手法の修得:シミュレーション教育の活用. 第55回日本医学教育学会大会, 長崎. 2023年7月28日.

7) 八木街子:シミュレーション教育と現場を繋ぐデザイン. 第11回日本シミュレーション医療教育学会学術大会, 東京. 2023年10月21日.

8) 高崎詩彩, 大田麻美, 杉山文乃, 八木街子, 益田美津美:e-learningを活用した脳神経科シミュレーションプログラムの開発とその効果. 第43回日本看護科学学会学術集会, 山口. 2023年12月9日.

9) 織井優貴子, 福田美和子, 黒河内仙奈, 菱沼由梨, 増谷順子, 島田恵, 平川善大, 八木街子, 巖千晶, 野村美紀:INACSL ベストプラクティス2021から:シミュレーション基盤型看護教育をひも解く. 第43回日本看護科学学会学術集会, 山口. 2023年12月10日.

10) 大田麻美, 高崎詩彩, 八木街子, 杉山文乃, 田戸朝美, 伊藤美智子, 井上智子, 益田美津美:わが国の高度実践看護師教育課程におけるシミュレーション教育に関する実態調査. 第43

回日本看護科学学会学術集会，山口，2023年12月10日．

- 11) 八木街子：From Struggle to Success：「若手研究者が海外留学するための助成」経験者から学ぶ．第43回日本看護科学学会学術集会，山口，2023年12月10日．

(4) **その他**（訳書・報告書・学会以外での発表等）

- 1) 八木街子：ギャップを埋めるための学習支援とは．エルゼビア Safety Plus ブログ，2023．

総合科目

(1) 著書

- 1) Sayaka Oikawa, Maki Someya, **Machiko Yagi**, Benjamin W Berg: Remote Faculty Development Programs for Simulation Educators-Tips to Overcome Barriers. *Advances in Smart Healthcare Paradigms and Applications Outstanding Women in Healthcare-Volume 1* (Halina Kwaśnicka, Nikhil Jain, Urszula Markowska-Kaczmar, Chee Peng Lim, Lakhmi C. Jain). Springer (Charn), 199-225, (2023)

(2) 総説・論文（実践報告・資料含む）

- 1) Yutaka Matsumoto, Haruna Hisaka, **Machiko Saeki Yagi**: Factors that Prevent Extensive Deceased-donor Kidney Transplantation among Japanese Women on Hemodialysis: Analysis of Patient Interviews. *International Journal of Nursing & Clinical Practices*, 10(1); 381, 2023.
- 2) 矢野好輝, 杉山賢明, 佐々木彩加: 離島へき地における遠隔医療のこれから 地域包括ケアを推進するために遠隔医療をどう組合せるのか (会議録). *日本遠隔医療学会雑誌*, 19; 38, 2023.
- 3) 長谷川直人, 村上礼子, **八木街子**, 春山早苗, 江角伸吾: 「特定行為に係る看護師の研修制度」指定研修機関の研修体制の実態. *厚生*の指標, 70(1); 24-32, 2023.
- 4) **八木(佐伯)街子**: 医療者に対するシミュレーション教育の米国での現状とその傾向. *安全工学*, 62(3); 156-162, 2023.
- 5) **八木街子**, 織井優貴子: シミュレーションを基盤とした看護教育のデザインと実践〈第7回〉. *日総研 看護人材育成*, 20(2); 101-105, 2023.
- 6) **八木街子**, 織井優貴子: シミュレーションを基盤とした看護教育のデザインと実践〈第9回〉. *日総研 看護人材育成*, 20(4); 87-94, 2023.
- 7) **八木街子**: 看護教員のつぶやき8 シミュレーション教育を「知っている」から「実施できる」ようにするために. *看護教育*, 64(6); 780-784, 2023.

(3) 学会発表

- 1) 衛藤由佳, **八木街子**, John M. O'Donnell,

Jannet Lee-Jayaram, Benjamin W. Berg: ピッツバーグ大学WISER (Winter Institute for Simulation, Education and Research) に学ぶ最近の気道管理教育 ～効率化と持続可能性. 第18回日本医学シミュレーション学会学術集会, 和歌山. 2023年1月7日.

- 2) 衛藤由佳, **八木街子**, 佐藤絵梨, 小野健太郎, Jannet Lee-Jayaram, Benjamin W. Berg. Certified Healthcare Simulation Educator (CHSE®) Examinationの受験体験記. 第18回日本医学シミュレーション学会学術集会, 和歌山. 2023年1月7日.

- 3) **八木街子**: シミュレーション活用の課題と展望. 第15回日本医療教授システム学会総会学術集会, 東京. 2023年3月17日.

- 4) 苑田裕樹, **八木街子**, 増山純二, 喜多敏博: 救急看護における体系的アプローチに基づいた臨床推論能力育成のための学習課題分析. 日本教育工学会2023年春季全国大会, 東京. 2023年3月26日.

- 5) 香田将英, 小川弘子, 伊野英男, 石田衛, 原田奈穂子, 大内元, 武田聡, **八木街子**, Jannet Lee-Jayaram, Benjamin Berg: 地域医療教育における Co-learning手法の修得: シミュレーション教育の活用. 第55回日本医学教育学会大会, 長崎. 2023年7月28日.

- 6) **Machiko Saeki Yagi**, Yuka Eto, Eri Sato, Benjamin W. Berg: Effects of Interactive Content in Online Training for Simulation Educators: An Analysis Using Mixed Methods. *amee* 2023, Glasgow. 2023年8月30日.

- 7) 山越裕美, 倉科憲太郎, 鈴木祥子, 佐々木彩加, 川上勝, 村上礼子, 清水敦, 佐田尚宏: 特定行為看護師によるイディアルボタンZEROを用いた胃瘻カテーテル交換の経験. 第27回PEG・在宅医療学会学術集会, 岐阜県. 2023年9月9日.

- 8) 倉科憲太郎, 鈴木祥子, 山越裕美, 佐々木彩加, 川上勝, 村上礼子, 清水敦, 佐田尚宏: 大学病院における特定行為の展開とその課題 胃ろうカテーテル交換. 第27回PEG・在宅医療学会学術集会, 岐阜県. 2023年9月9日.

- 9) 佐々木彩加, 村上礼子, 春山早苗, 小谷和彦: 離島診療所看護師のICTを活用した看護実践の効果と課題. 第18回日本ルーラルナース

グ学会学術集会，新潟県，2023年9月23日。

- 10) 八木街子：シミュレーション教育と現場を繋ぐデザイン，第11回日本シミュレーション医療教育学会学術大会，東京，2023年10月21日。
- 11) 佐々木彩加，村上礼子，春山早苗，小谷和彦：へき地を含めた地域医療におけるICTを用いた看護実践の効果と課題，第27回遠隔医療学会学術大会 へき地遠隔医療分科会，新潟県，2023年11月11日。
- 12) 高崎詩彩，大田麻美，杉山文乃，八木街子，益田美津美：e-learningを活用した脳神経科シミュレーションプログラムの開発とその効果，第43回日本看護科学学会学術集会，山口，2023年12月9日。
- 13) 織井優貴子，福田美和子，黒河内仙奈，菱沼由梨，増谷順子，島田恵，平川善大，八木街子，巖千晶，野村美紀：INACSL ベストプラクティス2021から：シミュレーション基盤型看護教育をひも解く，第43回日本看護科学学会学術集会，山口，2023年12月10日。
- 14) 大田麻美，高崎詩彩，八木街子，杉山文乃，田戸朝美，伊藤美智子，井上智子，益田美津美：わが国の高度実践看護師教育課程におけるシミュレーション教育に関する実態調査，第43回日本看護科学学会学術集会，山口，2023年12月10日。
- 15) 八木街子：From Struggle to Success：「若手研究者が海外留学するための助成」経験者から学ぶ，第43回日本看護科学学会学術集会，山口，2023年12月10日。

(4) その他（訳書・報告書・学会以外での発表等）

- 1) 春山早苗，村上礼子，佐々木彩加：令和5（2023）年度 厚生労働科学研究費補助金 地域医療基盤開発推進研究事業「特定行為研修修了看護師の導入によるへき地医療体制の考案」分担研究報告書，2023。
- 2) 八木街子：ギャップを埋めるための学習支援とは，エルゼビア Safety Plus ブログ，2023。

資 料

2023年度（令和5年度）看護学部学年暦

○前学期

4月3日（月）	ガイダンス（2・3・4年）
4月4日（火）	授業開始（2・3・4年）
4月6日（木）	オリエンテーション（1年）
4月7日（金）	入学式、オリエンテーション（1年）
4月10日（月）	授業開始（1年）
4月29日（土）～5月7日（日）	春季休業
5月8日（月）～6月16日（金） 6月26日（月）～7月21日（金）	前学期実習（3年）
5月14日（日）	創立記念日
6月19日（月）～6月23日（金）	対象の理解実習（1年）
7月18日（火）～7月20日（木）	定期試験（4年）
7月24日（月）～8月4日（金）	総合実習（4年）
7月24日（月）～7月28日（金）	定期試験（1・2年）
8月9日（水）～9月18日（月）	夏季休業
8月28日（月）～8月30日（水）	再試験

○後学期

9月19日（火）	授業開始
8月21日（月）～11月10日（金）	助産学実習（4年）
9月19日（火）～10月5日（木）	日常生活援助実習・成人期継続療養看護実習（2年）
10月6日（金）～10月8日（日）	学園祭
10月10日（火）～10月26日（木）	日常生活援助実習・成人期継続療養看護実習（2年）
11月13日（月）～12月22日（金） 1月8日（月）～2月16日（金）	後学期実習（3年）
12月23日（土）～1月4日（木）	冬季休業
2月13日（火）～2月19日（月）	定期試験（1年）
2月13日（火）～2月16日（金）	定期試験（2年）
3月4日（月）～3月5日（火）	再試験
3月1日（金）	卒業式
3月16日（土）～3月31日（月）	学年末休業

自治医科大学看護学部の概況（令和6年3月31日）

1. 教 員 数	44名
2. 学 生 数	422名
4年生（令和2年4月1日以前入学）	105名
3年生（令和3年4月1日入学）	102名
2年生（令和4年4月1日入学）	105名
1年生（令和5年4月1日入学）	110名

看護学部教職員名簿

1. 教員

職 名	氏 名	主要担当科目
学部長	春山早苗	地域看護学
教授	内堀真弓	地域看護学
教授	大塚公一郎	看護基礎科学
教授	川野亜津子	母性看護学
教授	小原 泉	基礎看護学
教授	塚本友栄	地域看護学
教授	永井優子	精神看護学
教授	成田 伸	母性看護学
教授	長谷川直人	成人看護学
教授	浜端賢次	老年看護学
教授	半澤節子	精神看護学
教授	村上礼子	成人看護学
准教授	倉科智行	看護基礎科学
准教授	佐藤幹代	成人看護学
准教授	島田裕子	地域看護学
准教授	角川志穂	母性看護学
准教授	田村敦子	小児看護学
准教授	平尾温司	看護基礎科学
准教授(兼)	八木 街子	総合科目担当
准教授	川上 勝	老年看護学
講師	青木 さざり	地域看護学
講師	石井 容子	基礎看護学
講師	市川 定子	地域看護学
講師	井上 育子	基礎看護学
講師	小西 克恵	小児看護学
講師	佐々木 彩加	総合科目担当
講師	鹿野 浩子	看護基礎科学
講師	関山 友子	看護基礎科学
講師	古島 幸江	成人看護学
講師	路川 達阿	精神看護学
講師	渡邊 賢治	成人看護学
助教	飯島 早絵	小児看護学
助教	上野 知奈	母性看護学
助教	小川 晴香	成人看護学
助教	岸 範子	地域看護学
助教	國府田 望	老年看護学
助教	高崎 浩子	精神看護学
助教	高瀬 梨恵	基礎看護学
助教	館沼 麗奈	成人看護学
助教	二宮 美由紀	母性看護学
助教	沼野 莉奈	老年看護学
助教	前田 彩乃	母性看護学
助教	谷田部 典子	母性看護学
助教	山 岸 美穂	地域看護学

2. 事務部

職 名	氏 名
大学事務部長	佐藤清美
大学事務副部長 (看護学部担当)	長 浜 秀 樹

(看護総務課)

職 名	氏 名
課 長	長 浜 秀 樹
参事(兼)課長補佐	飯 村 久 恵
係 長	福 澤 弘 美
主 事	スタナーズ里杏
主 事	松 井 千 紘
嘱 託	小 川 里 恵

(看護学務課)

職 名	氏 名
課 長	大根田 雅 則
参事(兼)課長補佐	小井沼 秀 記
主 幹	湯 浅 芳 恵
係 長	渡 辺 慎 吾
主任主事	松 田 尚 子
主 事	池 澤 広 訓
主 事	鈴 木 祐太郎
嘱 託	黒 川 大 輔
嘱 託	高 槻 祥 子

※令和5年4月1日～令和6年3月31日在職者（各職階ごとの50音順）

2023年度（令和5年度）大学院看護学研究科学年暦

○前期

4月6日（木）	入学式 オリエンテーション、授業開始
4月10日（月）	履修計画の提出締切
5月14日（日）	創立記念日

○後期

10月2日（月）	授業開始
11月6日（月）	研究構想発表会（前期課程）
12月1日（金）	学位申請書・学位論文（審査用）提出締切（後期課程）
12月18日（月）	学位申請書・学位論文（審査用）提出締切（前期課程）
1月5日（金）	論文審査・口頭試問（後期課程）
1月5日（金）～1月26日（金）	論文審査期間（後期課程）
1月15日（月）～1月17日（水）	論文審査・口頭試問（前期課程）
1月15日（月）～1月26日（金）	論文審査期間（前期課程）
2月19日（月）	学位論文発表会（最終試験）
3月4日（月）	学位論文（保存用）最終締切
3月18日（月）	修了式（学位授与式）

大学院看護学研究科の概況（令和6年3月31日）

1. 教 員 数	22名
2. 学 生 数	16名
（博士前期課程）	
2年生	7名（うち長期履修制度利用者4名）
1年生	2名（うち長期履修制度利用者0名）
（博士後期課程）	
3年生	7名（うち長期履修制度利用者7名）
2年生	0名（うち長期履修制度利用者0名）
1年生	0名（うち長期履修制度利用者0名）

大学院看護学研究科教職員名簿

1. 教員

職 名	氏 名	主要担当科目
研究科長	春 山 早 苗	地域看護管理学
教 授	内 堀 真 弓	がん看護学
教 授	大 塚 公一郎	共 通 科 目
教 授	川 野 亜津子	母 性 看 護 学
教 授	小 原 泉	がん看護学
教 授	塚 本 友 栄	地域看護管理学
教 授	永 井 優 子	精 神 看 護 学
教 授	成 田 伸	母 性 看 護 学
教 授	長谷川 直 人	診療看護技術管理学
教 授	浜 端 賢 次	老年看護管理学
教 授	半 澤 節 子	精 神 看 護 学
教 授	村 上 礼 子	診療看護技術管理学
准教授	川 上 勝	老年看護管理学
准教授	倉 科 智 行	共 通 科 目
准教授	佐 藤 幹 代	クリティカルケア看護学
准教授	島 田 裕 子	地域看護管理学
准教授	角 川 志 穂	母 性 看 護 学
准教授	田 村 敦 子	小 児 看 護 学
准教授	八 木 街 子	診療看護技術管理学
講 師	鹿 野 浩 子	共 通 科 目
講 師	関 山 友 子	共 通 科 目

2. 事務部

職 名	氏 名
大学事務部長	佐 藤 清 美
大学事務副部長 (看護学部担当)	長 浜 秀 樹

(看護総務課)

職 名	氏 名
課 長	長 浜 秀 樹
参事 (兼) 課長補佐	飯 村 久 恵
係 長	福 澤 弘 美
主 事	スタナーズ里杏
主 事	松 井 千 紘
嘱 託	小 川 里 恵

(看護学務課)

職 名	氏 名
課 長	大根田 雅 則
参事 (兼) 課長補佐	小井沼 秀 記
主 幹	湯 浅 芳 恵
係 長	渡 辺 慎 吾
主任主事	松 田 尚 子
主 事	池 澤 広 訓
主 事	鈴 木 祐 太郎
嘱 託	黒 川 大 輔
嘱 託	高 槻 祥 子

※令和5年4月1日～令和6年3月31日在職者
(各職階ごとの50音順)

編 集 後 記

2024年度の年報が発刊の運びとなりました。執筆，編集，とりまとめにご尽力いただきましたことに，深く感謝申し上げます。今回，看護学部年報が第22号，看護学研究科年報が18号となります。皆様が日々取り組まれた教育，研究，地域貢献，学内運営の実績が記されておりますので，本誌より1年間の業績を振りかえり，次年度への目標の一助になれば幸いです。また，看護学部，看護学研究科の教育・研究活動を俯瞰し，今後の改善・改革に役立ち，また共同研究などの可能性を探るうえでも大いに役立つことを願っております。皆様のご活躍に寄与できるよう，本誌の充実を図り，役割を果たしていきたいと考えております。

今後とも，皆様のご協力を賜りますよう，よろしくお願い申し上げます。

（令和7年3月 編集委員会 副委員長 川野亜津子）

編集委員会

自治医科大学看護学部

委員長 内堀 真弓

副委員長 川野 亜津子

委員 倉科 智行

八木 街子

青木 さざり

鹿野 浩子

編集担当 看護総務課

スタナーズ 里杏

自治医科大学看護学部年報（第22号）
自治医科大学大学院看護学研究科年報（第18号）

令和7年3月31日発行

発行者	学部長（研究科長） 小 原 泉
編集責任者	編集委員会委員長 内 堀 真 弓
発行所	自治医科大学看護学部 栃木県下野市薬師寺3311-159 電話 0285 (58) 7409
印刷所	(株)松井ビ・テ・オ・印刷 栃木県宇都宮市陽東5-9-21 電話 028 (662) 2511(代)